

東京都立高等学校副校長研究協議会

研究協議会報告

第 23 号 (平成19 年度)

東京都立高等学校副校長会

東京都公立高等学校定通副校長会

研究協議会報告第23号の発刊にあたって

東京都立高等学校副校長会長

和田 吉廣（調布北・全）

平成19年度の副校長研究協議会は、去る8月31日（金）に東京都教職員研修センター（水道橋）にて行われました。今年度は研究体制が経営支援センターに対応して2年目となり、真価が問われた研究協議会かと思えます。

本年度の全体会では教育庁指導部高等学校教育指導課主任指導主事江本敏男先生のご挨拶と、首都大学東京大学院教授の星 旦二先生の「新しい健康づくり」をテーマとしたご講話をいただきました。江本先生からは、厳しい指摘とともに熱い激励を頂戴し、高等学校教育指導課の不変の姿勢を感受させていただきました次第です。一方、星先生からは、副校長として一つの課題である健康について、ユーモアに溢れた、示唆に富む講話でした。ご多用のなかご出席をたまわりました両先生に、改めて謝意を表する次第です。

さて、この『研究協議会報告』は、当日の来賓のご挨拶やご講話を集録する唯一の刊行物です。私たち副校長は、校長とともに都立高校改革を担う責務と研鑽・研修による資質能力の向上を期さなければなりません。研究・研修や研究協議は、組織として課題対応力を構築する場であります。各分科会での指導・助言とともに活用されますことを期待する次第です。

最後に、この『研究協議会報告』の発刊にあたり、副校長研究協議会の開催にご尽力をいただきました教育庁指導部、東京都教職員研修センターをはじめ、東京都公立高等学校長協会、管理運営研究、高校教育研究、生徒指導研究を担当されました地区副校長会の先生方、事務局の先生方に感謝を申し上げます。

東京都公立高等学校定時制通信制副校長会会長

青木 修（戸山・定）

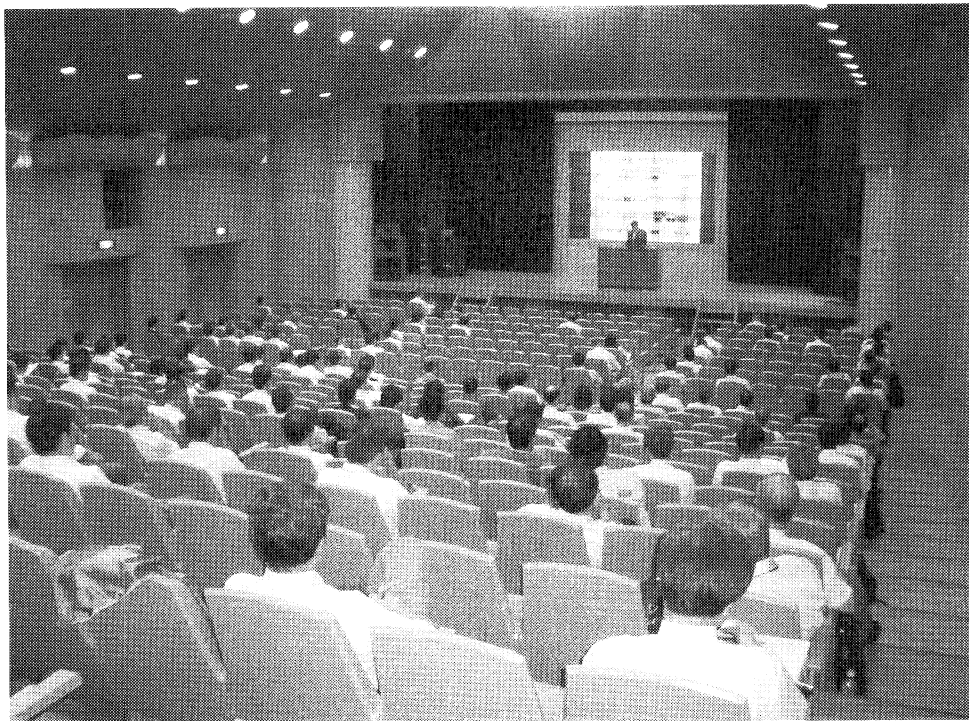
平成19年度の副校長研究協議会報告の発刊に際し、定通副校長会会長として一言ご挨拶を申し上げます。

定通課程全体の縮小の他、種々の要因でここ数年研究協議会への参加者数が思わしくない状況でありましたが、今年度は若干の増加があったとのことで準備、運営に携わった者としてほんの少し安堵しています。しかしながら、この研究協議会が副校長としての日々の業務へのより深い理解や職務能力の向上等を真剣に目指したものである以上、一層の主体的な参加が求められることには変わりはありません。毎年、発表を担当する諸委員会の副校長方のご努力には敬意を表するものでありますが、その成果を共有することこそがより重要でありましょう。研究についての批判的な協議がより活発に行われるように、今後もより多くの参加を期待いたします。

最後に、ご多忙な中を副校長の研究に対してご指導くださいました指導部高等学校教育指導課の先生方、ご講評をいただきました校長先生方、貴重で興味深く大変楽しい講演をお聞かせくださいました首都大学東京の星先生、いろいろとお手を煩わせてしまいました事務局の先生方に厚く御礼を申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。



分 科 会



全 体 会

目 次

第23号の発刊にあたって	東京都立高等学校副校長会長	和田 吉廣		1
	東京都公立高等学校定通副校長会長	青木 修		
実 施 要 綱				4
運営委員名簿・運営組織表				5

I 全 体 会

挨 拶

東京都立高等学校副校長会	和田 吉廣	会長		
東京都公立高等学校定通副校長会	青木 修	会長		8

教育委員会挨拶

東京都教育庁指導部				
高等学校教育指導課主任指導主事	江本 敏男	先生		9

II 分 科 会

分科会のテーマと提案者等一覧				12
----------------	-------	--	--	----

研究発表と研究協議

第1分科会				14
第2分科会				21
第3分科会				29
第4分科会				38

講 話

「新しい健康作り」				
首都大学東京大学院教授	星 旦二	先生		43

参加者名簿他

委員会別参加者名簿（全日制課程）				68
委員会別参加者名簿（定時制・通信制課程）				70
研究協議会参加者数の変遷（過去3年間）				72
研究協議会報告のあゆみ				73
編集後記				74

平成19年度 都立高等学校副校長研究協議会実施要領

1. 趣 旨 都立高等学校の個性化・特色化を図り、都民に信頼される魅力ある都立高校づくりを推進するため、直面する教育課題の解決について研究協議を行うことにより、副校長としての見識をたかめ、各都立高校の学校経営ならびに教育活動の充実に資する。
2. 日 時 平成19年8月31日（金） 13：20～17：00
3. 会 場 東京都教職員研修センター（東京都文京区1-3-3）
4. 参加対象
都立高等学校全日制課程副校長 全 員
都立高等学校定時制通信制課程副校長 全 員
5. 内 容
(1) 主 題 都民に信頼される魅力ある都立高校づくりをめざして
(2) 全体会 講話を通して健康づくりを学ぶ。
6. 時 程
13：00～13：20 受 付
13：20～14：40 分科会
第1分科会（全日制 管理第一研究部会 中部C） 601 研修室(1)
主題：企画調整会議の現状と課題
(管理第二研究部会 西部A)
主題：経営企画室との連携及び経営支援センターとの連携
第2分科会（全日制 高校教育第一研究部会 東部A） 601 研修室(2)
主題：奉仕体験活動の実践と副校長の役割
(高校教育第二研究部会 東部C)
主題：選ばれる学校を目指して
第3分科会（全日制 生徒指導第一研究部会 西部C） 602 研修室(1)
主題：専門医（精神科）との連携事業と副校長の役割
(生徒指導第二研究部会 中部A)
主題：地域・保護者と連携した教育活動の実践と副校長の役割
第4分科会（定時制 管理運営研究部第一委員会） 602 研修室(2)
主題：学校における事故防止の取組
14：40～14：55 休 憩
14：55～16：50 全体会 視聴覚ホール
(1) 開会の辞 全日制副校長会会長 和田 吉廣
(2) 東京都教育委員会挨拶 主任指導主事 江本 敏男 先生
(3) 講 話 首都大学東京大学院教授 星 旦二 先生
「新しい健康づくり」
(4) 閉会の辞 定通副校長会会長 青木 修
16：50～17：00 事務連絡等
終 了

平成 19 年度都立高等学校副校長研究協議会運営委員名簿

役 員			所 属 校	氏 名	学校電話番号
全 日 制	会 長		調 布 北	和 田 吉 廣	042-487-1860
	副 会 長		竹 台	玉 井 篤	03-3891-1515
	副 会 長		農 産	飯 島 正	03-3602-2865
	会 計		芝 商 業	高 田 憲 一	03-3431-0760
	会 計		東 大 和	渡 邊 博 史	042-560-1741
	管理運営 研究部会	第 1 委員会部長	第 四 商 業	大 林 誠	03-3990-4221
		第 2 委員会部長	松 が 谷	有 馬 利 一	042-676-1231
	高校教育 研究部会	第 1 委員会部長	白鷗付属中	鳥屋尾 史 郎	03-5830-1731
		第 2 委員会部長	墨 田 川	佐 藤 和 博	03-3611-2125
	生徒指導 研究部会	第 1 委員会部長	多 摩 工	清 水 政 義	042-551-3435
		第 2 委員会部長	玉 川	都 築 功	03-3700-4110
定 時 制 ・ 通 信 制	会 長		戸 山	青 木 修	03-3202-4301
	副 会 長		富 士 森	小 川 芳 夫	042-661-0444
	副 会 長		大 江 戸	関 毅 彦	03-5606-9500
	会 計		工 芸	加 藤 秀 次	03-3814-8755
	研 究 部 長		桜 町	須 貝 徳 成	03-3700-4330
	研 究 副 部 長		新 宿	真 保 俊 哉	03-3354-7411
	研 究 副 部 長		第 五 商 業	滝 澤 勝	042-572-0132
	東部委員会委員長		葛 西 南	高 坂 仁	03-3687-4491
	中部委員会委員長		新 宿	真 保 俊 哉	03-3354-7411
	西部委員会委員長		第 五 商 業	滝 澤 勝	042-572-0132

平成19年度都立高等学校副校長研究協議会運営組織表

	全 日 制	定 時 制 ・ 通 信 制
世 話 人		
全 体	和 田 吉 廣 (調布北)	青 木 修 (戸山)
第一分科会	山 田 温 (高島) 中 山 善 弘 (町田)	
第二分科会	山 西 和 夫 (青井) 佐 野 誠 (晴海総合)	
第三分科会	岸 田 裕 二 (武蔵) 小 川 達 夫 (芦花)	
第四分科会		高 坂 仁 (葛西南)
編 集	鳥 屋 尾 史 郎 (白鷗付属中)	須 貝 徳 成 (桜町)
	佐 藤 和 博 (墨田川)	真 保 俊 哉 (新宿)
	都 築 功 (玉川)	滝 澤 勝 (第五商業)
	大 林 誠 (第四商業)	
	有 馬 利 一 (松が谷)	
	清 水 政 義 (多摩工)	
会 場 ・ 記 録 責 任 者		
全 体	(会) 玉 井 篤 (志村) (記) 飯 島 正 (農産)	
第一分科会 (全日制)	中部C (会) 中 村 彰 (王子工業) (記) 梶 倉 和 則 (板橋有徳) 西部A (会) 中 山 善 弘 (町田) (記) 馬 場 寿 (山崎)	
第二分科会 (全日制)	東部A (会) 山 西 和 夫 (青井) (記) 林 眞 司 (江北) 東部C (会) 中 村 辰 夫 (六郷工科) (会) 小 萱 久 (日本橋) (記) 永 森 比人美 (晴海総合) (記) 宮 澤 良 美 (八潮)	
第三分科会 (全日制)	西部C (会) 矢 作 俊 郎 (東久留米総合) (記) 宮 川 隆 史 (田無) 中部A (会) 小 川 達 夫 (芦花) (記) 美 野 輪 武 (杉並)	
第四分科会 (定時制)		(会) 相 賀 直 (浅草) (会) 栗 原 健 三 (小岩) (記) 石 山 智 典 (葛飾商業)
全体 司会	玉 井 篤 (竹台)	
会 計	高 田 憲 一 (芝商業) 渡 邊 博 史 (東大和)	加 藤 秀 次 (工芸)

全 体 会

開会挨拶

東京都立高等学校副校長会

和田 吉 廣 会長

教育委員会挨拶

東京都教育庁指導部 高等学校教育指導課
主任指導主事

江 本 敏 男 先生

講師紹介

東京都立高等学校副校長会

和田 吉 廣 会長

講 話

「新しい健康作り」

首都大学東京大学院教授

星 旦 二 先生

謝 辞

東京都公立高等学校定通副校長会

青 木 修 会長

閉会挨拶

東京都公立高等学校定通副校長会

青 木 修 会長

司会・記録

司会 飯島 正（全・副会長）

記録 玉井 篤（全・副会長）



開 会 挨拶

東京都立高等学校副校長会長
和田 吉廣（調布北・全）

本日は校務多忙な中、都立高等学校副校長研究協議会にご出席いただきましてありがとうございます。本研究協議会は全定合同の会員による年1回の研修会であります。都立高等学校の個性化・特色化を図り、都民に信頼される魅力ある都立高校づくりを推進するため、直面する教育課題の解決について研究協議を行うことにより、副校長としての見識をたかめ、各都立高校の学校経営ならびに教育活動の充実に資することを目的としております。

前半では各分科会で研究発表ならびに活発な意見交換、指導助言をいただきましてありがとうございました。また、各分科会の運営に当たられました先生方ありがとうございました。

本日は来賓として、教育庁指導部高等学校教育指導課主任指導主事の江本敏男先生、首都大学東京大学院教授の星旦二先生をお招きしております。後ほど、江本先生からは東京都教育委員会挨拶をいただき、星先生から「新しい健康づくり」をテーマとした講話をいただきます。我々副校長に健康について注意を喚起していただけるものと期待しております。

では、これより都立高等学校副校長研究協議会の全体会をはじめます。



閉 会 挨拶

東京都公立高等学校定時制通信制副校長会長
青木 修（戸山・定）

本日は二学期始業式直前のご多忙の中、年に一度の都立高校副校長研究協議会にご出席いただきありがとうございました。また、ただ今ご講演をいただきました星先生、毎日の生活に参考になる健康についての内容を、肩の凝らないスタイルで語っていただき、身につまされる部分もありましたが、逆に気持ちが軽くなったようにも思いました。大変ありがとうございました。

さて、東京等の高校改革推進計画はまだ途上にあり、学校の再編等の影響により、副校長会として対応すべき課題も従来からのものだけでなく、新しい社会状況に由来するものや、この再編に伴って生じる組織上の課題等と、まだまだ全体で情報を共有して研究を重ね、解決の道を探らなければならないものが多くあります。今後とも副校長が一同に会して研究の成果を発表し合うこのような場をますます充実発展させていきたいと思っております。

最後になりますが、本日発表をされた副校長先生方、ご指導、ご助言、ご講評をいただきました先生方、そして研究協議会の準備と運営にお骨折りいただきました先生方に厚く御礼を申し上げまして、閉会の言葉といたします。

教 育 委 員 会 挨 拶

東京都教育庁指導部
高等学校教育指導課
主任指導主事

江本 敏男 先生

指導部の江本でございます。平成 19 年度東京都立学校副校長研究協議会の開催に当たりまして東京都教育委員会を代表して一言ご挨拶申し上げます。本日、「都民に信頼される魅力ある都立高校を目指して」という主題で 4 分科会において都立高校の課題等に対する研究成果を発表していただきました。そしてこれまで調査研究等を進めてこられました先生方に対しまして心から敬意を表したいと思います。

ご存知の通り学校教育法の一部が改正され、平成 20 年度から幼稚園、小学校、中学校、高等学校等に副校長の職を設置することができるようになります。この副校長の設置は学校における組織運営体制や指導体制の確立を図ることを目的とし、同時に主幹教諭、指導教諭の設置も可能となります。この流れは言うまでもなく東京都での実践を踏まえてのことです。東京都では全国に先駆け都立学校の管理運営に関する規則を改定し、平成 16 年度から副校長の職を設置してきました。この制度として定めた副校長の職を、都立高校の副校長先生お一人お一人が、日々の実践と本日発表して頂いた研究などを通してその必要性を広く示したことが国を動かす原動力になったと思っております。まさに東京から日本を変えるという言葉を実践して頂いていると感じております。今後、全国で副校長の職が設置できることで、ますます東京都の副校長先生方に対する期待が大きくなってまいります。これまでに加えましてますますご活躍していただくことを期待しております。

さて、大変激務である副校長先生方の仕事に対して、ここで失礼なお願いとなってしまいますが三点ほどお話しをさせていただきたく思います。

まず一点目は学校経営についてです。先程申し上げたとおり、東京都で「教頭」から「副校長」に改めた背景には、副校長先生方に校長の学校経営の視点に立ち組織を動かすためにこれまで以上にリーダーシップを発揮していただきたいという期待があったからです。都立高校がより効果的な教育効果を上げるために、目標設定とその達成方法、あるいは人材育成、価値の創造などにおいて組織を経営する視点から様々な経営方法について研鑽していただき学校経営に取り入れられるものは積極的に活用していただきたいと思っております。本日の発表にもありましたが、今年度から教科「奉仕」が始まりました。各学校ではこの教科「奉仕」を実施する上で学校外部の機関と連携を取る機会が多くなったのではないのでしょうか。教科「奉仕」は新たな指導体制や指導方法が必要になります。関係機関への渉外、あるいは連携。主幹、主任、担当教諭へ役割を担当させることによる人材育成など学校全体の組織力を高める絶好の機会となります。この教科奉仕の導入を一つの契機として是非学校経営を進めていただければ幸いです。

二点目でございます。東京都教育委員会では現在、授業を改善し教員の指導力、授業力の向上の努めております。そして各学校では具体的な取組みにご尽力いただいているところであります。しかし、そのためには管理職を含め先生方が元気でなければいけません。その意味で、二点目でお願

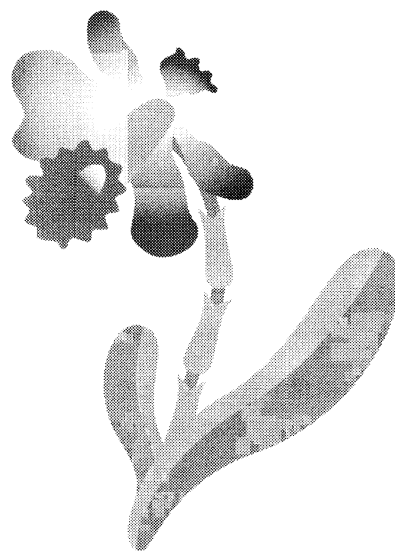
いしたいのは、教職員のメンタルヘルスということであります。管理職の先生方の授業観察や面接を通して教員一人一人に接する時間も増えていると思います。先生方の日頃の状況からだけでなく面接の時間の中で教員の悩みを聴き、状況を把握し、適切な課題解決の対応をお願いしたいと思っております。教員のメンタルヘルスをケアすることも人事管理として非常に重要であります。副校長先生がリーダーシップを発揮する良い機会であります。是非意識をして課題解決に取り組んでいただきたいと思っております。

申し上げるまでもありませんが副校長先生方自身も大変激務であります。ご自身のメンタルケアも大変重要であります。十分お体を大切になさってご活躍いただきたいと思っております。

三点目でございます。三点目は本日の高校研究部会にもありましたが、「選ばれる学校を目指して」でございます。各学校が積極的に特色化を推進している状況がありありとわかり改めて副校長先生方のご努力を感じたしだいであります。是非このような取組を更に推進するという意味で、この特色を学校の根幹である教育課程に反映していただき、教育課程を見ればこれはどこの学校か分かまでの特色化を進めていただきたいと思っております。

以上、三点のお願いでございます。是非本日の研究協議会で副校長先生同士が情報交換をされ、そこで得られた情報をそれぞれの学校で具現化し東京都の教育の充実となることを期待しております。最後になりましたが、本日、東京都副校長研究協議会を企画運営して下さいました先生方に感謝を申し上げますとともに、ここにお集まりの副校長先生方のご健康と今後のますますのご活躍を祈念し挨拶いたします。

(文責 事務局)



分 科 会

中心主題

都民に信頼される魅力ある都立高校づくりをめざして

分 科 会

第1分科会

教育課題	中部C	－企画調整会議の現状と課題－（全）	1 4
	西部A	－経営企画室との連携及び経営支援センターとの連携－（全）	1 7
助言者	都立小松川高等学校長	江見 悦子 先生	

第2分科会

教育課題	東部A	－奉仕体験活動の実践と副校長の役割－（全）	2 1
	東部C	－選ばれる学校を目指して－（全）	2 6
助言者	都立福生高等学校長	苗村 深 先生	

第3分科会

教育課題	西部C	－専門医（精神科）との連携事業と副校長の役割－（全）	2 9
	中部A	－地域・保護者と連携した教育活動の実践と副校長の役割－	3 3
助言者	前都立小石川高等学校長・鎌倉女子大学	遠藤 隆二 先生	

第4分科会

教育課題	－学校における事故防止の取り組み－（定）	3 8
助言者	前都立大江戸高等学校長・東京理科大学 小久保 正己 先生	

平成19年度都立高等学校副校長研究協議会

〔研究主題〕 都民に信頼される魅力ある

分科会	地区	発 表 テ ー マ		提 案 者	司 会 者
第1分科会 (601-1)	中部C	企画調整会議の現状と課題	全	小林 晶代（飛 鳥）	山田 温（高 島）
	西部A	経営企画室との連携及び 経営支援センターとの連携	全	永村 隆（永 山）	上野 勝敏（小 川）
第2分科会 (601-2)	東部A	奉仕体験活動の実践と 副校長の役割	全	藤川 清一（南葛飾）	中山 博之（葛飾商業）
	東部C	選ばれる学校を目指して	全	荒川 洋（大 森）	桑原 洋（美 原） 湯澤 賢兒（つばさ）
第3分科会 (602-1)	西部C	専門医（精神科）との 連携事業と副校長の役割	全	宮崎 高一 （小金井工業）	岸田 裕二（武 蔵）
	中部A	地域・保護者と連携した 教育活動の実践と副校長の役割	全	小宮山英明（松 原）	小野村 浩（豊多摩）
第4分科会 (602-2)	定通制	学校におけ事故防止の取組	定通	高坂 仁（葛西南） 小山 秀高（台東商業）	内藤 公雄（墨田工業） 石井 茂光（八 潮）

分科会発表主題・提案者一覧

都立高校づくりをめざして

平成19年8月31日

記 録 者	会場・記録責任者	研究幹事	指導助言
栃倉 和則 (板橋有徳)	中村 彰 (王子工業)	栃倉 和則 (板橋有徳)	都立小松川高等学校長 江見 悦子 先生
馬場 寿 (山 崎)	中山 善弘 (町 田)	代理 永村 隆 (永 山)	
林 眞司 (江 北)	山西 和夫 (青 井)	藤川 清一 (南葛飾)	都立福生高等学校長 苗村 深 先生
永森比人美 (晴海総合) 宮沢 良美 (八 潮)	中村 辰夫 (六郷工科) 小萱 久 (日本橋)	浅見 弘 (六郷工科)	
宮川 隆史 (田 無)	矢作 俊郎 (東久留米総合)	宮崎 高一 (小金井工)	前都立小石川高等学校長 鎌倉女子大学 遠藤 隆二 先生
美野輪 武 (杉 並)	小川 達夫 (芦 花)	小野村 浩 (豊多摩)	
石山 智典 (葛飾商業)	相賀 直 (浅 草) 栗原 健三 (小 岩)	高坂 仁 (葛西南) 小山 秀高 (台東商業) 相賀 直 (浅 草)	前都立大江戸高等学校長 東京理科大学 小久保 正己 先生

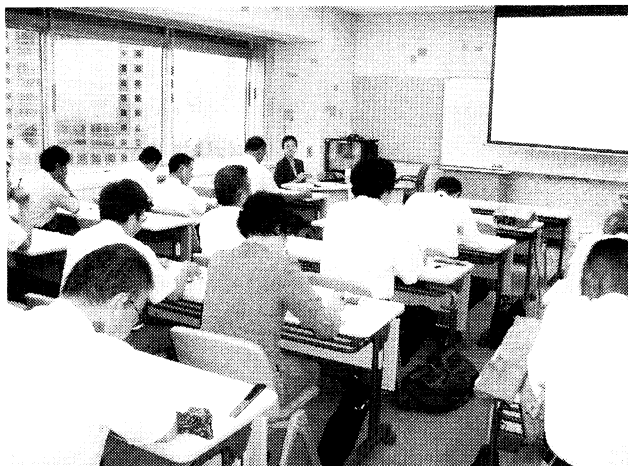
第 1 分科会

企画調整会議の現状と課題

中部Cチーム副校長会

管理運営研究部第1委員会

提案者 都立飛鳥高等学校副校長 小林 晶代



我々中部Cチームでは、この度企画調整会議の現状と課題を研究いたしました。中部Cチームは9名の副校長で細々と研究を進めた次第です。Dチームのご協力も得て、現状について調査し、課題を報告させて頂きたいと思います。

I はじめに

平成18年度により「学校経営の適正化について」企画調整会議を基盤とする学校経営について適正化が図られている。一年を経て本研究部では、企画調整会議を中心とした学校経営がどのように行われているだろうかというところに焦点を絞り、研究を進めた。調査段階で課題を抽出するにとどまった。これに関して報告させていただきます。

II アンケート内容と結果

1 管理職を除いた構成員はどのくらいか？

9名もしくは10名が多いという結果であった。中には13人という大きな規模の学校もあった。

2 主幹・主任が欠席の時に代理人を出席させているか？

- a.代理を出席させている
- b.必要に応じて認めている
- c.認めていない

という3つに絞って調査した。bが多いという結果を得た。

3 会議時間の設定状況について

- a.時間割内
- b.放課後固定した時間
- c.放課後随時

学校により、諸事情がある。例えば、本校の場合、単位制高校で2時間連続の授業が多く、時間割に余裕がないので、放課後の設定となっている。このようなわけでほぼ半々にわかれているのだろう。

4 一回の会議時間について

- a.30～60分
- b.60～90分
- c.90分以上

授業時間内に実施している学校が50%あることを考えると、やはりa.が多い結果となるだろう。

5 主な招集方法

- a.毎回開催通知を出している。
- b.毎回放送を入れている。
- c.特に連絡していない。
- d.その他

特に連絡しないで開催している学校が多いことがわかった。d.その他には、例えば朝の打合せで連絡しているなどがあげられた。

6 司会担当者

- a.副校長
- b.主幹
- c.教諭
- d.その他

副校長が司会を行っている学校が圧倒的に多かった。その他については、明記されていない。

7 記録担当者

- a.副校長
- b.主幹
- c.教諭
- d.その他

主幹を記録者としている学校が多い。その他については明記されていない。

8 記録の公表方法について

- a.校内LANの利用
- b.記録簿の回覧
- c.記録簿の掲示
- d.特に公表せず
- e.その他

記録簿の回覧が多い。その他は記録簿を配布しているという回答あり。

9 企画調整会議に提出する資料について

- a.ほとんどの分掌から提出されている。
 - b.いくつかの分掌から提出されている。
 - c.提出されていない。
 - d.その他
- ほとんどの分掌から提出されている学校が多い。

10 昨年度、企画調整会議で取り上げられた内容の中で、多くの時間をかけた事項。

a.学校経営 b.授業改善 c.教科学習活動 d.学校行事 e.部活動 f.進路指導 g.生徒指導 h.保健指導 i.清掃衛生指導 j.校内研修 k.P T A、同窓会 l.地域連携 m.奉仕、ボランティア活動 n.予算、施設 o.募集対策 p.広報活動 q.その他

上記から 3 項目を選ぶという調査形式をとった。多くの時間をかけた事項は学校経営と学校行事である。その他としては、施設改修、周年行事、開校準備などがあげられている。

11 今後、企画調整会議で多くの時間をかけたい事項

a.学校経営 b.授業改善 c.教科学習活動 d.学校行事 e.部活動 f.進路指導 g.生徒指導 h.保健指導 i.清掃衛生指導 j.校内研修 k.P T A、同窓会 l.地域連携 m.奉仕、ボランティア活動 n.予算、施設 o.募集対策 p.広報活動 q.その他

10 と同じ項目での調査を実施した。a.学校経営が多いのはうなずける。b.授業改善が学校の課題として浮上している。h.保健指導 o.募集対策に課題を持つ学校もあるようだ。その他としては、キャリア教育があげられていた。

12 企画調整会議の課題について

- a.報告が中心となっていて、企画立案のための協

議が少ない

- b.会議の時間が不足している
- c.分掌への周知が徹底されない
- d.委員会との連携がとれていない
- e.職員会議との連携がとれていない
- f.出席者の中に会議への抵抗感を示す者がいる
- g.その他

会議の時間不足、協議が少ない、分掌への周知徹底がうまくいっていない学校がおおいことがわかった。

13 企画調整会議導入時と比較して、会議の運営上改善された点

(自由記述) 主として以下の事項があげられた。

- ・学校運営を企画調整会議を中心に行うようになった。
- ・司会(副校長)、記録(主幹)がうまく回っており、会議が円滑に進んでいる。
- ・会議の文書の提出。恒常化。管理職の権限や発言力の向上。
- ・校長、副校長主導の会議となった。
- ・議論が活発に行われるようになった。
- ・職員会議の時間が短縮された。
- ・企画立案の場になりつつある。

特に、「学校運営を企画調整会議を中心に行うようになった」と回答した学校が多い。これこそが、平成 18 年度通知「学校経営の適正化について」の趣旨であり、かなり急ピッチに適正化が進行していると考えられる。

14 企画調整会議によって、学校経営上改善された点

(自由記述) 主として以下の事項があげられた。

- ・職員会議が円滑に運営され、会議の時間が短縮した。
- ・組織的な学校運営が展開されるようになった。
- ・主幹、主任の意識改革
- ・校長の経営方針を周知する場が増えた。
- ・分掌間で連携が図れるようになった。
- ・分掌の責任が明確化した。
- ・学校の課題を教職員が共有し合うようになった。
- ・教員の共通理解が深まった。
- ・課題に対して組織的な取り組みが行われるようになった。

13 とオーバーラップしている事項も多いが、特に、「職員会議が円滑に運営され、分掌間での連携や教

員の共通理解が深まった。」と回答した学校が多い。

15 企画調整会議をさらに活性化させるための具体的な方策や実践例

- ・会議録を即日全員に配布し、委員以外にも企画調整会議に関心を持たせていく。
- ・学校の課題を明確に示すこと。
- ・分掌から詳細な資料を提出させ、共通理解を深める。
- ・報告事項を短時間で行う。
- ・月曜日 3、4 時限目に会議を設定している。前週金曜日までの副校長への資料提出を徹底し、議題を精選して実質的な意見交換の時間を増やしていきたい。

課題とずれる内容のものもあるが、今回はそのまま発表させていただく。このような研究協議会を活用し、知恵を出し合いながら、さらに活性化させていくことが望ましいと考える。

III おわりに

企画調整会議は、東京都立学校の管理運営に関する規則第 12 条の 6 及び都立学校管理運営規程(標準規程) 第 9 の 1 により学校全体の業務に関する企画立案および連絡調整を行う学校経営に中枢機関として位置づけられている。本調査の結果、中枢機関としての位置づけはすべての学校で整備されていると考える。しかし、主幹が中心となって校務分掌組織での教職員の建設的な意見を十分に把握して、学校経営計画を踏まえ、管理職と学校経営の方向性を議論する場としての機能を果たしているかどうかについては、学校により異なり、副校長として今後の重大な課題ととらえる。

質疑・意見等

1. 「おわりに」のところで、企画調整会議は「管理職と学校経営の方向性を議論する場」とあるが、そのようなとらえ方でよいのか。方向性を議論するのではなく、校長が示した方向性について具体的にどう方策を立て、実現していくのかを議論するなら理解できるが、企画調整会議で方向性を議論するのではないと思うがいかがか。(練馬工業 有明)

2. さらに活性化させる具体的な方策として、会議録を即日全員に配布し、委員以外にも企画調整会議に関心を持たせていくとあった。本校でもこれを実践している。企画調整会議の中に 4 名主幹がおり、

主幹でない主任は意識が低く、分掌に持ち帰ってきちんと伝えていない場合がある。それでは即日配布ということになった。かなり効果的だと考えている。(葛飾野 横田)

3. 11 で、「今後企画調整会議で多くの時間をかけたい事項」に「授業改善」とあるが、どんなイメージで考えているのか。(小松原高等学校長 江見先生)

回答

1. 文言が不適切だったと思う。表現について訂正、適切な表現を考える。

3. 教員の授業力向上を組織的に取り組むか、例えば授業評価も各学校で実践しているが、どのようにこれを効果的にまとめていくかという点であると解釈する。ただし、アンケートによる回答であり、どのようなイメージで捉えているのかという詳細については、把握できない。

司会からの提案

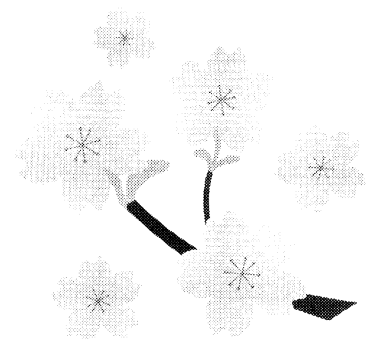
企画調整会議のあり方、内容については、各学校で苦労も多いだろうと思われる。そこで直接発表された内容ではなくても、企画調整会議についての質問や意見、情報交換の場としたい。

質問

分掌以外に例えば、委員会からの案件はどういった形で出されるのか。多摩 菊地

回答

今回のアンケートにはなかった。次回の検討課題としたい。



経営企画室との連携及び学校経営支援センターとの連携

西部Aチーム副校長会

管理運営研究部第2委員会

提案者 都立永山高等学校副校長 永村 隆

I はじめに

平成18年4月より、学校への支援強化を目的に学校経営支援センターが設置され併せて「事務室」が「経営企画室」となった。このことを受け、東京都立高等学校副校長会管理運営研究部第2研究委員会（西部A）は西部学校経営支援センター内各学校の職務の実態を調査し、副校長と経営企画室、学校経営支援センターの連携の実態と課題を分析して、より一層有効な連携を目指すことを目的とした。

II 調査方法

西部Aチーム9校の副校長11名、経営企画室課長1名、経営企画室長8名に記述式アンケート（別紙参照）を実施した。その結果を基に、西部チームの副校長が9回の研究協議を行った。

III アンケート調査の結果・分析

（1）「事務室」であったころの連携の課題

A 副校長自由記述

- ① 企画調整会議のような、教育職員との定期的な連絡・検討の場がないために、意思の疎通が図れないときがあった。
- ② 予算執行状況について、事務室との連携不足がみられた。
- ③ 副校長にとって、事務室との協力は大きな関心事であった。
- ④ 事務室の業務（物品管理や予算関係等）については、一線を画していく傾向があった。
- ⑤ 学校においては、教育職員がメイン、行政職員がサブという構造（意識）の是正が一番の問題であった。
- ⑥ 郵便物・文書管理等の管理を事務室に任せてしまう面があり、管理方法に学校差が生じてしまった。

イ 経営企画室自由記述

- ① 教育職・行政職の間で連絡調整の場が少なく、互いの職務に対する理解が不足していた。
- ② 管理職同士、及び事務室との間で情報共有が欠如していた。

- ③ 行政と教育現場との意思疎通が十分でなかった。
- ④ 服務、旅費、講師に関する事務処理等において、副校長と事務室との明確な職務分担がなされていない場面が見受けられた。
- ⑤ TAIMSで送付される文書の処理方法が学校によって違い戸惑うことがあった。

教員と事務室との情報の共有や職務遂行での連携が不十分であり、実際の学校現場では、教員系、行政系の仕事と分かれていることにより、迅速・的確に対応できない場面があった。

（2）事務室から経営企画室に変更後の課題と成果

A 副校長自由記述

（課題）

- ① 外部からの連絡窓口等を、企画室か副校長がするのか調整が取れていない。
- ② 人数削減に伴い、FAX・郵便物等の対応に影響が出ている。

（成果）

- ① 連携を密にし、外部に対する対応は、直接教育職ではなく、できる限り経営企画室経由にして整理しながら対応している。
- ② 文書連絡の方法を簡略化して、教員の研修関係については連絡不要とした。
- ③ 転・退学の生徒が多いので、学事担当者には必要な情報を提供して、窓口業務が円滑に進行するようになった。
- ④ 入学選抜における手続き業務への応援システムを教務主幹に依頼して実施していくことにより、双方向から助け合う連携ができるようになった。
- ⑤ 予算調整会議の結果は、職員会議の協議事項ではなく、報告で済ませるようになった。
- ⑥ 企画室の職務について、連絡が密になることで理解が深まった。
- ⑦ 人数が削減された分、入学選抜での受付業務に教育職員が参加することになった。
- ⑧ 教育活動に対する、経営企画室の参加意欲が向

上した。

- ⑨ 服務が、経営企画室との連携により事前指導が徹底できるようになった。

イ 経営企画室自由記述

(課 題)

- ① 特に今のところ経営企画室になったことによる成果を実感するのには至っていない。
- ② 企画調整会議や学校運営連絡協議会等における「経営機能の強化」及び「主幹との組織的な連携」の必要性は理解しているが、実際のところまだうまく機能していない。

(成 果)

- ① 外部からの文書への対応について、各分掌等の協力体制ができた。
- ② 課題を解決するために検討委員会を設置する等で、早急な対応ができるようになってきた。

各学校は、これまで以上に経営企画室と連携し、外部からの問い合わせ、文書連絡、入学選抜、会議の在り方等の見直しを行っている。

このことにより経営企画室の職員数が減ったことをデメリットにするのではなく、迅速・的確に対応するための工夫や取組を行っている。

(3) 経営企画室との連携するうえでの課題

ア 副校長自由記述

- ① センターを経由して決定することがあり、これまでより執行に時間がかかる事例も出ている。
- ② 校長の経営方針に基づいて学校づくりをする上で、経営企画室側の仕事、あるいは、教員の仕事と分けてしまうと、学校としての組織的な活動として一体感がないときがある。
- ③ 経営企画室長との定期的な連絡の場を設定しようとしているが、なかなか時間が取れない。
- ④ 「事務室」から「経営企画室」へ互いの意識を変えていくことが大切である。そのためには、教員が経営意識を高め、経営企画室とどのようにかわるかが課題である。
- ⑤ 副校長と経営企画室長の人間関係を作り、学校の組織的な活動を行政職・教育職が連携をもとに築くことが重要である。
- ⑥ いまだに予算に関することでは、経営企画室と教育職員の連携が取れていない。

イ 経営企画室自由記述

- ① 職位が違うので相反するときがある。
- ② 経営企画室の人員が減り、仕事量は以前より増えている。経営企画室長自身の事務分掌も増えているので、新たな取り組みをするのは難しい状況である。
- ③ 新規採用や他局からの異動者が増える中で、以前の「事務室」と同じ仕事を期待されても現実には難しい。
- ④ 学校経営に関して相互の立場から一步踏み込んだ協働体制が必要である。
- ⑤ 主幹に TAIMS が導入され、これまで以上に迅速な文書管理を推進していくためにも、電子決裁の検討が必要である。
- ⑥ 旅行命令簿の記入に対して支援センターから再三指導されているが、教員の命令権者である副校長のチェックをどこまでするのか明確でない。

経営企画室の職員数が減った分、どのように教員と連携して効率よく仕事を行うかが課題である。また支援センターとの連携を効果的に活用できていない実態が伺える。

(4) 経営支援センター発足による成果と課題

ア 副校長自由記述

- ① これまで学校単位で判断し、即座に実行できていた部分が減少して不便さを感じる時がある。
- ② センターレベルで集約して、より効果的な予算執行等の効果が期待できるはずだが、今のところその効果が出ていない。
- ③ 時間がかかりすぎることはやはり課題である。
- ④ 各学校の募集対策として重要な役割を果たす学校案内等の印刷予算の決定に2ヶ月以上もかかってしまうシステムの変革が必要。
- ⑤ 報告が教育庁と支援センターの2カ所になりこれまでより煩雑になった面もある。
- ⑥ 毎月の定期訪問において学校の課題が指摘されることが、本校の改革のために大きな力になっている。
- ⑦ 「支援」ではなく「指導」という姿勢が見えるときがある、現場により近い良きパートナーとしての支援を期待する。
- ⑧ 「西風」(西部支援センター広報誌)を通じての学校の広報活動に成果があった。
- ⑨ 人数削減でこれまで以上に経営企画室の仕事が煩雑になったが、支援センターが請け負う仕事を

明確にして、経営企画室が「経営」に参画できる余裕をもたせる必要がある。

- ⑩ 人事面で支援センターとの連携が不可欠である。
- ⑪ 学校と支援センターというより、指導部と支援センターの連携が取れていないと感じることがあった。特に「奉仕」導入に関してそう感じた。
- ⑫ 支援センター発足当初は、支援主事による学校への支援体制が十分できていないと感じることがあった。
- ⑬ センター同士で伝達される内容に格差ができていると感じる。

これまでに比べ、学校の実態に応じた支援を受けられるようになったが、その反面支援センターと教育庁との連携が十分取れていないと感じる場面が見られた。学校支援の観点から、支援センターが教育庁との調整を図り、学校への迅速な対応が取れるよう望む。

(5) 経営支援センターとの今後の連携

ア 副校長自由記述

- ① 副校長は、日常の現場情報の情報提供を積極的に進め、支援センターは、システムを検証し、ムダを省いた効率よい対応が必要であると考える。
- ② 支援センターを実質的に機能させるためには、すべて学校の情報は支援センターに集約する必要がある。
- ③ 副校長を支援する観点から、学期に1回程度は、副校長の個人面談を実施し、学校の抱える課題を話せる場を設定し課題解決のための支援をしてもらいたい。

Ⅳ おわりに

各学校が、経営支援センターの支援を受け、学校全体の業務を、組織的かつ効率的に行わなければ、経営企画室の機能を十分に生かすことは難しい。また、これまで以上に教員の経営参画意識を育成するとともに、経営企画室が学校経営にどれだけの確に参画できるシステムを作るかが、今後の大きな課題であろう。

Ⅴ 指導・講評

都立小松川高等学校長 江見 悦子 先生

まず始めに、夏期休業日最後のお忙しい日にお集まりいただきました副校長先生方に敬意を表したい

と思います。

私は、校長実践研究会の管理運営研究部に所属しています。今日は資料を用意しました。昨年度の「平成 18 年度 東京都立高等学校長実践研究会報告書」の中の P 49「管理運営研究部会 研究主題 管理運営事項と実践」のまとめの抜粋と、小松川高校の「経営企画室 2 学期以降の業務予定」です。まとめの抜粋には、学校の管理運営事項について、今までの経緯と、これからどうあるべきかということについて記されています。今回の研究テーマの一つである経営企画室との関係については、P 56「7 自立経営推進予算」に関係してくると思います。

本日の 1 本目の発表の「企画調整会議の現状と課題」では、アンケートを元にした詳しい現状分析がされており、副校長先生方のご努力の結果、学校経営上の改善が見られます。今後は主幹会議について研究して頂ければと思います。

2 本目の「経営企画室との連携及び経営支援センターとの連携」の発表ですが、今回の調査は 1 年前のものであるということを伺いました。今は支援センターごとの独自の動きも出てきました。支援センターにはどんどん注文を出していいと思います。学校が発信して支援センターを育てていく。学校の発展なくして支援センターの発展はないと考えられます。現在、東部学校経営支援センターでは支援センターの広報誌が定期的に発行されていて、学校説明会や募集要項など積極的に中学校へ発信してもらっています。学校の広報活動を積極的に行なってもらいとてもありがたく思っています。支援センターが月に一度学校を訪ねることで学校の課題を共有することや、タイムスを利用しながら日常的に連携していくことができるようになりました。

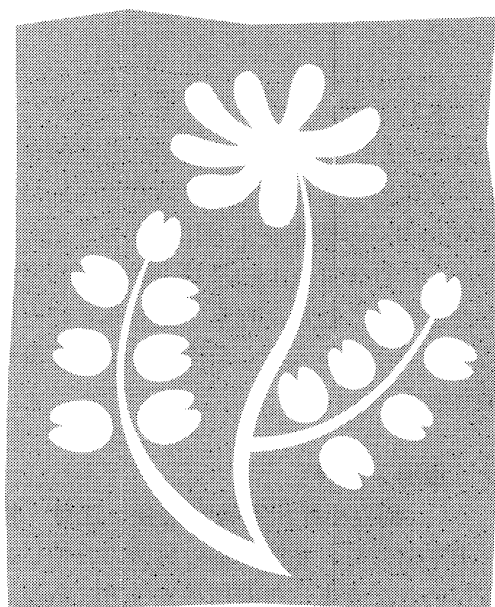
経営企画室との連携では、経営企画室長のリーダーシップがとても大切だと思います。そのリーダーシップは進行管理だと思います。お配りした資料の中に、本校の経営企画室の 2 学期以降の進行管理表があります。企画調整会議などで学校の進行管理について議論し、進行管理意識を高めていく、このことを通して室長が育ち企画室のメンバーが育つのだと思います。ここでも経営企画室からの発信が重要です。企画室のメンバーに、自己申告書の面接を通じて経営参画の意識をしっかりと持ってもらうことが大切です。また、技能主事さんとの連携にも配慮することを忘れないようにしてください。

経営企画室は学校の窓口です。経営企画室は学校の広報マンであるという意識を持たなければなりま

せん。電話の応対についても室長の指導が必要です。入選業務を通じて経営企画室と教員の距離が近くなりました。相互に乗り入れ、信頼関係を作っていくことが大切です。また予算調整会議の適正な運用については、経営企画室主導で教員と連携しつつ行なうことが重要だと思います。

おわりに

管理運営研究部会では、前述の報告書の中で、それぞれの「管理運営事項」について、学校経営の段階を、課題への対応状況に基づいてレベル 1、2、3 という 3 段階の水準（指標）を提示してみました。学校経営の改善の程度や方向性を確認する上で役立つものと考えます。「平成 18 年度 東京都立高等学校校長実践研究会報告書」は校長先生の手元にありますので、ぜひご覧になり、参考にして下さい。



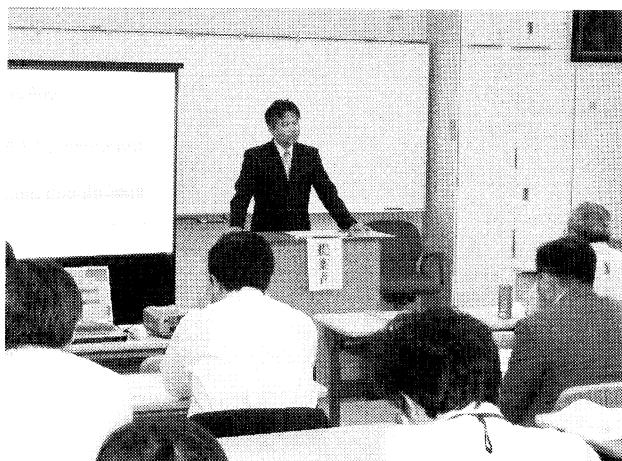
第2分科会

奉仕体験活動の実践と副校長の役割

東部Aチーム副校長会

高校教育研究部第1委員会

提案者 都立南葛飾高校副校長 藤川 清一



1 はじめに

今年度（平成19年度）より、東京都教育委員会設定教科・科目「奉仕」が全都立高校・全課程において必修化され、各学校が自校の実態に即した教育課程を編成して取り組んでいるところである。また、生徒用テキストや教員用指導書も整い、年間指導計画のもとに充実した授業が展開されていると期待している。

必修化にあたっては、奉仕体験活動必修化実践・研究校21校の実践や、教育委員会が設置した「奉仕」カリキュラム開発委員会の報告などを参考に、各学校が事前に委員会を設置するなどして、十分な準備を進めてきた。しかし、必修化初年度の今年度は、各学校において様々な問題や課題に対し、実践と平行して対応が迫られるものと推察する。また、以前からの課題が未解決のままに今年度を迎えた学校も多いのではないかと考える。

そこで、本研究部会では、昨年度に引き続いて教科「奉仕」を実践するにあたっての副校長の役割に視点を置き、研究を深めることとした。特に、課題解決に向けては副校長の役割が大きく、校内組織のリーダー、外部との渉外折衝役として、力を発揮しなければならない。

よって、各学校の抱える課題を把握し、他校の問題とせず課題を共有して適切な解決策を見出すべく、アンケート調査を実施し、直面している

課題や問題点等を集約して考察することとした。さらに、本研究が副校長のなすべき手立てとなり、副校長間の連携を深めて課題を解決できることを強く願う次第である。

2 教育課程上の位置づけ

教科「奉仕」は、各学校の実態に即して適切に教育課程に位置づけて実施しなければならない。昨年度の調査から、以下の4つに大別できる。

- ① 教科「奉仕」として週時程に位置づける
- ② 総合的な学習の時間に代替する
- ③ ポイントリザーブ制で実施（3年間）
- ④ 集中型で実施

3 アンケート調査について

研究を深めていく中で、各学校の実態を把握し、実践の形態によって生じる課題、共通に生じる課題等を把握するためにアンケート調査をすることとした。

アンケートの対象は、全都立高校全日制課程を対象に実施した。残念ながら、回答率は昨年度を大きく下回ったが、ご協力いただいた副校長先生には感謝申し上げます次第である。

（回答）

	18年度	%	19年度	%
普通科	57	68.7	39	67.2
工業科	8	9.6	6	10.3
商業科	5	6.0	5	8.6
総合学科	4	4.8	2	3.4
その他	9	10.8	6	10.3
計	83	100	58	100

4 アンケート調査結果

(1) 18年度は奉仕体験活動必修化実践・研究指定校でしたか。

	学校数	%
はい	6	10.3
いいえ	52	89.7
計	58	100

(2) 18年度に「奉仕体験活動」や「ボランティア活動」を実施しましたか。

	18年5月	%	19年5月	%
はい	15	18.1	34	58.6
いいえ	68	81.9	24	41.4
計	83	100	58	100

(3) 18年度末(19年3月)までに残った課題は何ですか。

昨年度の課題	回答数	%
体験場所の確保	13	37.1
体験活動の具体的な内容・体験活動の許容範囲の解釈	11	31.4
奉仕体験活動についての教職員の理解と意識改革	4	11.4
連携先との具体的な内容・日程の調整及び移動手段	4	11.4
体験時引率等に関わる教員の授業時数、他教科の授業時数	2	5.7
ボランティア保険等の保険加入に関すること。	1	2.9
計	35	100

(4) 奉仕に関する委員会は、どれくらいの頻度で行われていますか。

委員会開催の頻度	回答数	%
週1回	19	33.3
隔週	16	28.1
月1回	14	24.6
必要に応じて随時開催	5	8.8
週2回	1	1.8
委員会は設置していない	1	1.8
計画ができあがっていないため行う予定はない	1	1.8
計	57	100

(5) 奉仕に関する委員会は、どのような構成になっていますか。

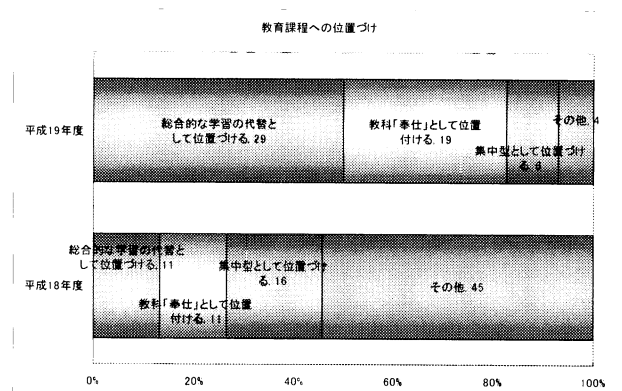
委員会の構成	回答数	%
奉仕実施学年が中心	13	24.1
教務部等の分掌が中心	15	27.8
各分掌から担当を選ぶ	18	33.3
奉仕担当教員	3	5.6
その他	5	9.3
計	54	100

(6) 奉仕体験活動場所を探す主な担当者は誰ですか。

活動場所を探す担当者	回答数	%
奉仕委員会	37	66.1
奉仕実施学年	6	10.7
連携先が決定し、探す必要がない	3	5.4
副校長、主幹、主任等	4	7.1
カリキュラム検討委員会	2	3.6
その他	4	7.1
計	56	100

(7) 奉仕は教育課程にどのように位置づけていますか。

教育課程の位置づけ	18年度	%	19年度	%
総合的な学習の代替として位置づける	11	13.3	29	50.0
教科「奉仕」として位置づける	11	13.3	19	32.8
集中型として位置づける	16	19.3	6	10.3
その他	45	54.2	4	6.9
計	83	100	58	100



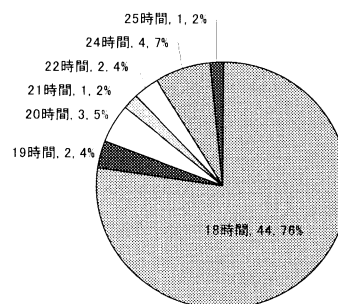
(8) 何年生に履修させていますか。

何年生に履修させていますか。	18年度	%	19年度	%
1年	20	24.1	40	71.4
2年	9	10.8	10	17.9
3年	7	8.4	5	8.9
その他(検討中)	47	56.6	1	1.8
計	83	100	56	100

(9) 奉仕体験活動はいつ設定していますか。

奉仕体験活動はいつ設定していますか。	18年度	%	19年度	%
授業時間内	28	33.7	24	42.1
長期休業日中	21	25.3	13	22.8
考査終了後	5	6.0	5	8.8
放課後	12	14.5	4	7.0
その他（上記の組み合わせ等）	17	20.5	11	19.3
計	83	100	57	100

奉仕授業時数35時間のうち、体験活動の時間は何時間ありますか。



(10) ポイントリザーブ制を適用していますか。

ポイントリザーブ制の適用	18年度	%	19年度	%
はい	6	7.2	13	22.4
いいえ	21	25.3	45	77.6
検討中	56	67.5	0	0.0
計	83	100	58	100

(13) 奉仕を担当する教員1人あたりの担当生徒数は何人ですか。

奉仕を担当する教員1人あたりの担当生徒数は何人ですか。	回答数	%
5人以下	3	5.2
6人～10人	9	15.5
11人～15人	4	6.9
16人～20人	21	36.2
21人～25人	1	1.7
26人～30人	1	1.7
40人～45人	9	15.5
その他	10	17.2
計	58	100

(11) 教科書への意見

奉仕の教科書に関して、どのような意見がありますか。	回答数
使いづらい面がある。	5
どこからでも使用できるので、使い勝手が良い。	3
本校の生徒にとっては難しい	2
脱教科書というべき構成、スタイルであるが、生徒が教科書と認識できない	2
教員分購入方法の周知に問題があった	2
活用している。	2
とてもよく工夫されている。例：自利と利他等	1
項目が多岐に渡りすぎている。必要なところを印刷して使用できる形式がよい。	1
ワークシートをもう少し増やしてほしい	1
本校で取り組む体験学習と教科書の内容がマッチしない（使いにくい）	1
難易度が本校にあわない	1
全体を使うのは無理がある	1
計	22

(12) 奉仕授業時数 35 時間のうち、体験活動の時間は何時間ありますか。

奉仕授業時数35時間のうち、体験活動の時間は何時間ありますか。	回答数	%
18時間	44	77.2
19時間	2	3.5
20時間	3	5.3
21時間	1	1.8
22時間	2	3.5
24時間	4	7.0
25時間	1	1.8
計	57	100

(14) 奉仕体験活動の活動場所は現時点でどれくらい確保できていますか。

奉仕体験活動の活動場所は現時点でどれくらい確保できていますか。	回答数	%
0%	4	6.9
10%	1	1.7
20%	0	0.0
30%	3	5.2
40%	2	3.4
50%	6	10.3
60%	2	3.4
70%	6	10.3
80%	7	12.1
90%	3	5.2
100%	24	41.4
計	58	100

(15) 校内における奉仕体験活動は、どのようなものがありますか。

校内における奉仕体験活動は、どのようなものがありますか。	回答数	%
実施せず	8	19.0
清掃活動	4	9.5
草花栽培	4	9.5
中学生との部活動交流	4	9.5
普通救命講習	3	7.1
奉仕体験活動の意義、活動内容、校外活動の留意点など事前事後指導	2	4.8
その他	17	40.5
計	42	100

(16) 校外における奉仕体験活動は、どのようなものがありますか。

校外における奉仕体験活動は、どのようなものがありますか。	回答数	%
地域清掃・環境美化活動	41	46.6
福祉施設訪問	9	10.2
児童生徒の指導等	10	11.4
地域行事への参加	6	6.8
保育園実習	4	4.5
行事運営補助	4	4.5
小学校のプール指導	2	2.3
防災訓練への参加	2	2.3
その他	10	11.4
計	88	100

(17) 奉仕体験活動に関して地域との連携はどのようになっていますか。

奉仕体験活動に関して地域との連携はどのようになっていますか。	回答数	%
公共施設等	22	35.5
小・中学校	13	21.0
地元町内会・商店会	13	21.0
地域行政	7	11.3
区市町村教育委員会	2	3.2
その他	5	8.1
計	62	100

(18) 奉仕体験活動を実施するにあたり、保護者の参加はありますか。

奉仕体験活動を実施するにあたり、保護者の参加はありますか。	回答数	%
はい	8	13.8
いいえ	50	86.2
計	58	100

(19) 都教委派遣のコーディネーターを活用していますか。

都教委派遣のコーディネーターを活用していますか。	回答数	%
はい	21	36.2
いいえ	37	63.8
計	58	100

(20) 奉仕体験活動に関する保険加入はしていますか。

奉仕体験活動に関する保険加入はしていますか。	回答数	%
はい	33	56.9
いいえ	25	43.1
計	58	100

(21) 長期休業中に行う奉仕体験活動の課題は何ですか。

長期休業中に行う奉仕体験活動の課題は何ですか。	回答数	%
講習・部活動・合宿との調整が困難	10	33.3
教員の引率・勤務	8	26.7
連携先の確保	4	13.3
授業日の設定	3	10.0
生徒の安全確保	2	6.7
その他	3	10.0
計	30	100

(22) 奉仕がスタートするにあたり副校長として取り組んだ課題は何ですか。

奉仕がスタートするにあたり副校長として取り組んだ課題は何ですか。	回答数	%
奉仕活動の確保	17	26.2
奉仕の年間計画の作成・指導助言	13	20.0
奉仕委員会・校内体制の活性化	11	16.9
連携諸機関との連絡・調整	7	10.8
奉仕プロジェクト教員間の内容・方法等の共通認識を深めることへの援助	4	6.2
教員の意識改革	4	6.2
都教委との連絡調整	3	4.6
その他	6	9.2
計	65	100

5 アンケート結果の分析と課題

ここでアンケート結果の特徴を述べる。

◆アンケート (2)

奉仕体験活動やボランティア活動を実施した割合が昨年度の 18.1% から 58.6% へ 3 倍以上に増えている。平成 19 年度実施に向けて学校全体の意

識の高まりと指導体制が整ってきたことがうかがえる。

◆アンケート (3) (14)

奉仕を実施するうえでの最大の課題は「体験場所の確保 37.1%」であり、「体験活動の具体的な内容 31.4%」と同様に、各学校にとって非常に大きな課題であることが分かる。体験活動を 18 時間以上実施する際には、安易に「清掃活動」を行うのではなく、生徒自らが「何ができるか」を考えさせることも重要である。また、基盤のないところからスタートするのは非常に大変なことであるが、学校近隣には多数の活動場所を開拓しなければならない。200 名を超える生徒が活動する場所の確保は、地域のボランティアセンターや社会福祉協議会、各自治体や近隣の保育園、幼稚園、小中学校、養護学校、各種施設などの協力を得る必要がある。

◆アンケート (7)

奉仕の教育課程への位置づけは、昨年度に比較して、総合的な学習の時間の代替として位置づける割合が 13.3%から 50.0%へ増加した。ポイントリザーブ制の可能性を見極めながら、他教科との関係から総合的な学習の時間の中で行うことになったものと考えられる。

◆アンケート (8)

履修学年は、昨年度の 1 年生とその他を合わせた割合 (24.1%+56.6%) が今年度の 1 年生の割合 (71.4%) に相当する。奉仕体験活動を入学年度に行い、3 年間の教育活動へつなげようとする事が読みとれる。

◆アンケート (13)

奉仕担当教員が受け持つ生徒数は、クラスの半数の 20 人前後 (36.2%) が最も多い。次に、6 人～10 人 (15.5%) と 1 クラス単位 (15.5%) が続く。体験活動への引率や指導の難しさが、学校により異なっていることがうかがえる。

6 副校長の役割とは

アンケート (22) の結果を見ると、副校長としての課題は、奉仕体験活動場所の確保に続き、年間計画の作成と指導助言、校内体制の活性化があげられる。副校長に求められることは、教員の意識改革と行動力・渉外力である。教職員が主体となって生徒を指導するには、副校長自らが関係機関との折衝に努め、担当教員に課題意識をもたせ、奉仕体験活動の授業計画を構築させなければなら

ない。また、体験活動の場を提供する施設等が求めることを十分理解することも大切である。体験活動を実施するにあたっては、受け入れ先との協議を密に行っていく必要がある。このことが、奉仕体験活動を充実させるための最大のポイントであると考えている。副校長は自校の奉仕体験活動の意義を十分相手方に伝え、理解を得ておかなければならない。

7 まとめ

いよいよ、全国に先駆けて教科「奉仕」の必修化がはじまった。各道府県の教育委員会はもとより、全国の教職員が注目しているところである。また、都内においても都民の関心は高く、期待も大きいところである。

しかしながら、各学校においては様々な課題を抱えていることも分かった。「奉仕」とおして思いやりの心や規範意識を身に付けさせ、社会のルールやマナー等を体験的に学ばせ、社会に貢献する精神と態度を育成するという大きな目標を達成して、期待に応えなければならないという使命がある。各学校の生徒の実態は様々であるが、生徒一人一人を育成するという観点から、生徒が「奉仕体験活動」に主体的に取り組める環境を整え、学び得たことを自己の力として社会に貢献させなければならない。

必修化一年目の今年、各学校では様々な課題が見え、解決に向けた取り組みも多岐に渡ると予測される。各校の問題や課題を自校のみの問題とせず、研修会をとおして全副校長の問題として提起し、解決していきたいものである。

最後になりましたが、本研究にあたり多大なご協力いただきました、関係各位ならびに副校長先生方に、心より御礼申し上げます。また、昨年度全国高等学校教頭会 第 45 回全国大会において発表されました、南葛飾高等学校定時制課程副校長 竹原勝博先生には多くのご助言をいただき、ここに発表することができましたことを報告いたします。



選ばれる学校を目指して

東部Cチーム副校長会
高校教育研究部第2委員会

提案者 都立大森高等学校副校長 荒川 洋

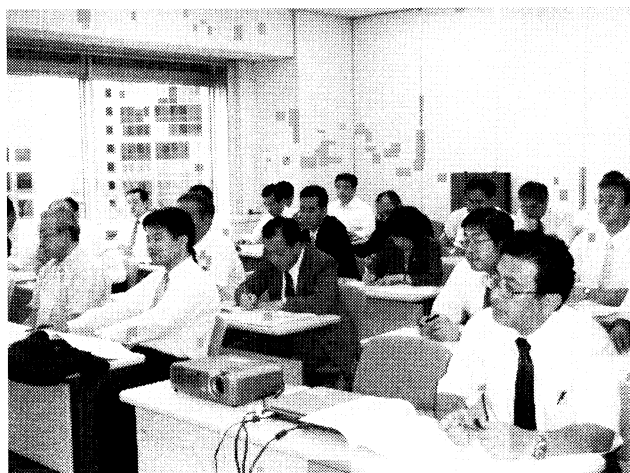
学区制が廃止され、都立高校ならどの学校でも選択できる、いわば東京都全域の選択制が導入されて以来、各学校が特色化を発揮し、生徒や保護者に選択される「選ばれる学校」を目指して教育内容の充実を図っている。

平成18年度2月13日の中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会審議経過報告の中では、「高等学校教育については、中学校における教育成果を更に発展・充実させて、国家及び社会の有意な形成者として必要な資質を養うことなどが目標とされている。現在、高校進学率は約97パーセントとなり、生徒の興味・関心、能力・適性、進路等は多様化しているが、このように国民的な教育機関となっている高等学校の卒業生たちは、これからの我が国の社会・経済・文化の水準の維持・向上に極めて大きな役割を果たすものである。」と位置付けられている。また、家庭と学校の役割の明確化については、「本来家庭や地域が果たすべき機能を学校に持ち込むのではなく、家庭や地域がその責任を果たすことが必要であるとの意見、家庭の教育力が低下しても、子供の心の満足は得られず、家庭の教育力は学校で代替できる性質のものではないとの意見などがある。」とも分析されている。このように高校教育は生徒の多様化への対応が求められていると共に、今後家庭や地域の教育力を改善していく必要は指摘されているが、それを高校教育で補わざるを得ないのが現状である。

このような中で、都立高校を生徒や保護者から「選ばれる学校」という視点で考えると、一人一人の子供にとって最も適した学校が「選ばれる学校」であることは明白である。東部C地区に設置されている普通科高校4校、総合学科の単位制高校2校、普通科単位制高校1校、商業高校1校、工業単位制高校1校、エンカレッジスクール1校のそれぞれの学校の特色ある教育活動の例を挙げながら、「選ばれる学校」とはどのような学校なのかを研究し報告書としてまとめた。

特色ある教育活動の観点として以下の5点に焦点化することができる。

- 1 教育課程の工夫
- 2 特別活動の工夫
- 3 進路指導の工夫



4 地域との連携

5 入学選抜の活用

それぞれの項目に当てはまる学校の教育活動を説明していきたいと思う。

まず、教育課程の工夫としては、日本版デュアルシステムの導入を行った六郷工科高校の取組がある。全日制課程では「東京都初の単位制工業高校として、従来の殻を破り、挑戦し続ける学校」をコンセプトにし、昼間定時制課程のデュアルシステム科では、実務代替制度を活用し、生徒は1年次にインターンシップを7月、9月、12月に10日間ずつ3社で行い、自分の適性にあった職種業種を見極める。2年次には、1年次に参加した企業から自分の適性を見極め、5月から6月に長期就業訓練を行う。さらに3年次には、2年次に参加した企業で長期就業訓練を行い、生徒の希望により、さねに加えて長期就業訓練を重ねて行う。このような3年間の特色ある教育課程の中で、平常の授業日に企業で「働く訓練・体験」を行い、卒業の単位として最大29単位を認めているところに大きな特徴がある。

また、高度資格取得を可能とする学習指導に重点をおいた教育課程を展開している芝商業高校の取組もある。芝商業高校では、基本的ビジネスマナーを身に付けることを目標に掲げ、ビジネスマナーに基づく規律ある授業が、高度資格取得に結びつき、1学年全員の生徒が全商簿記検定2級合格している。また、国家試験のシステムアドミニストレータ初級に3名の生徒が合格し、中央大学アカウンティングプログラム（推薦

枠4名)、日本商業会議所簿記検定1級合格者を3年次の6月に達成するなど学習活動の成果が様々な高度資格取得という形で表れている。

さらに、特別な技術を持った指導者(市民講師)の活用により教育内容の充実を図っているつばさ総合高校、晴海総合高校の総合学科高校の取組がある。総合学科高校は普通科高校と専門学科を有する高校を融合した学校である。普通科目の授業に加え、多岐にわたる多様な選択講座を設置して生徒の興味・関心を引き出す授業を展開している。つばさ総合は5系列、晴海総合は6系列を設置し、市民講師を活用して、進学・就職と幅広く生徒の進路希望を実現できる教育課程を展開している。総合学科高校には、専任のキャリアカウンセラーが配置されており、進路相談、履修相談、進路指導等いつでも相談できる体制になっていることも特色である。特に、つばさ総合では、都立高校で初めて国際認証規格ISO1400を認証取得し、平成19年度6月には、高校・大学・各環境団体・九・地域・企業と連携し高校生環境サミットを開催した。

次に特別活動の工夫については、晴海総合高校の「産業社会と人間」の学習活動と入学直後に実施されるフレッシュマンキャンプ(2泊3日の宿泊行事)の取組がある。「産業社会と人間」は総合学科高校の1年次原則必修科目である。この科目のねらいは、自己発見の促進と将来の生活設計、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の育成である。このねらいを達成するため入学直後に2泊3日のフレッシュマンキャンプを行い、個人発表やグループ発表学習を通して、生徒が自己の生き方―自分探しの旅を始められるようにしている。詳細な1年間の学習指導計画を基に担当者や年度による差異が生じないようにきめ細やかな指導を行える仕組みになっていることが特徴的である。

次に進路指導の工夫として、美原高校の取組がある。美原高校では、平成17年度から、長期休業日の弾力的運用試行校の指定を受け、夏季休業日の開始を遅らせ、進路指導を集中的に行うことで、生徒の進路意識の涵養に努めている。具体的には、1・2年生を対象とした大学模擬講義(語学・心理学・保育学・福祉学・看護学・健康学・体育学・情報学)や生徒自らが自分の関心のある大学や専門学校を訪問したりするキャンパス訪問などを行っている。さらに、土曜講習を設置して、専任の教員の他に大学との連携により将来教職希望の大学生から学習の機会を得られる工夫をしていることも特徴的である。

次に地域との連携で特色ある取組を行っている三田高校の例を紹介する。三田高校は国際理解教育を教育

の重点目標の一つに置いている。近接するイタリア大使館やオーストラリア大使館など三田地区から麻布地区にかけて多くの大使館が学校周辺に密集しており、国際色豊かな環境に立地している特色を生かし、イタリア大使によるEU講演会を実施した。また、1学年自由選択の第二外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)として、ネイティブスピーカーの外国語補助員とのTTを含めて二単位開講し、特別クラブとして希望者対象に、外国語ネイティブスピーカーによる短期間集中の英会話、スペイン語、韓国語の指導を行っている。このようにして地域の教育力を活用し、生徒の国際感覚の醸成を行っている。

次に入学選抜の活用を行って特色ある教育活動を行っている大森高校、蒲田高校を紹介する。大森高校では、部活動に対する意欲や能力を評価して入学させる文化・スポーツ特別推薦入試を行っている。限られた部活動であるが意欲的な生徒が入学してきている。特別推薦では、国語や英語に興味関心をもつ生徒が入学できるようにと実技試験を含めた推薦入試を行っている。このような入試の特色については、中学校の教師に十分理解し、中学生の進路指導に反映させてもらえるよう経営企画室と連携を取りながら、組織的に広報に力を入れ、応募者を増やす努力をしている。また、蒲田高校は、学力検査の無い入学選抜を行うことによって、エンカレッジスクールとしてその使命を果たすべく、入学選抜の機会を増やして入学生徒の期待に応えられるように努めている。

以上5つの観点に焦点化して、「選ばれる学校」とはどのような学校なのかということを検証してきたが、生徒指導が充実していて生徒が安心して通える学校、生徒が主体的に活躍できる学校、多様な教え方ができる授業力を備えた教師がいる学校、保護者や地域に開かれている学校など、共通項目も挙げることができる。今後も東部C地区では、教育活動を見直し、改善を図り「一人一人の子供にとって最も適した学校」「一人一人の生徒の満足を与えられる学校」を目指して副校長間で情報交換を行い、さらなる学校の特色化を図っていきいたいと考えている。

指導・講評

都立福生高等学校長 苗村 深 先生

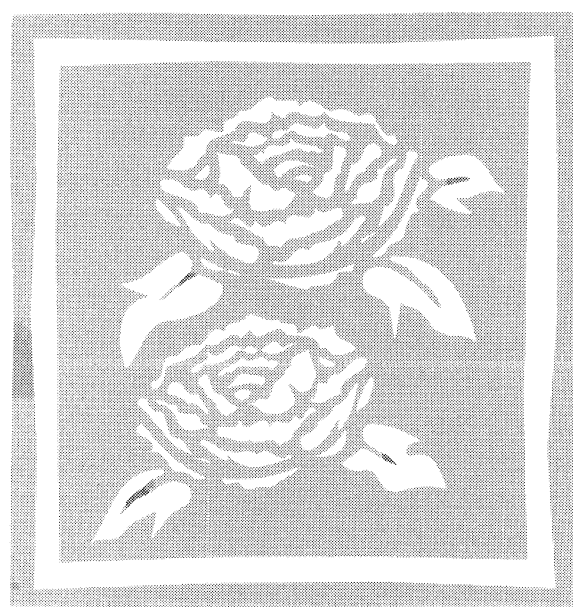
「選ばれる学校を目指して」と題して様々な学校の特色ある教育活動の紹介があった。東京都は生徒一人一人の能力や適性、興味・関心、進路希望等に応じて学ぶことができるように既設の学校の特色化や新しいタイプの都立高校の開設を進めてきた。生徒

や保護者の期待にこたえられる魅力ある学校づくりの実現に向けて、実に様々な取り組みを行っている。新しいタイプの学校の設立時に掲げた教育理念を維持していくことが困難な状況も多少生じている場面もあるだろうが、教職員が一丸となって組織的な取り組みを続けていくことが肝要である。生徒が安心して通える学校、教員同士が切磋琢磨して授業力を磨き合っている学校など、都立高校に寄せる都民の期待は大きい。紹介のあった学校の特色ある取組を参考にそれぞれの学校教育活動の充実を図っていただきたい。

なお、「奉仕体験活動の実践と副校長の役割」については都立高等学校長実践研究会教育課程部会で調査、言及しております。

司会：湯澤賢兒（つばさ総合高校）

記録：永森比人美（晴海総合高校）



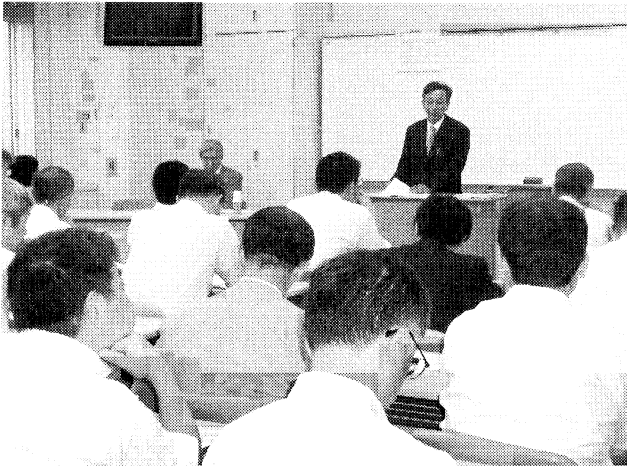
第3分科会

専門医(精神科)との連携事業と副校長の役割

西部Cチーム副校長会

生徒指導研究部会第一委員会

提案者 都立小金井工業高校副校長 宮崎 高一



小金井工業高校の副校長宮崎でございます。よろしくお願いいたします。集録の 36 ページに原稿をまとめてございます。ご覧いただきながらお話をさせていただきます。まず、精神科医との連携事業ということでございますが、基本的には先生方にはどういう事業かということはある程度ご承知かなと思うのですが、4月6日付で健康推進課から専門医による学校支援事業の希望校募集と言うのがございまして、これに応募なさった、または実際に配置されているという学校さんはいらっしゃるのでしょうか。・・・まったくいらっしゃらないということで、これお伺いした上でお話をさせていただこうかと思います。

この学校保健活動支援事業ということでございますが、一本は精神科医、もう一本は産婦人科医になっております。今年度については精神科医が15～20校、産婦人科医については2～5校ということで、これは文部科学省からおりてきた事業をうけて東京都実践していこうというのが始まりでございます。15年度からパイロットスクールをつくりまして始めているところでございます。なぜ、私がこの発表をすることになったかと言いますと、私のおります小金井工業の属する旧9地区がモデルケースとして地区として取り組もうということで、養護教諭の集まりである学校保健研究協議会等と健康推進課とがかなり連絡を取ったりしながら、色々な取り組みに

ついて考えてきたということでございます。当初は教頭・副校長という立場ではあまりという認識であったのですが、実際に導入されることになりまして、精神科医の先生方と接する機会が出来てくるに連れまして、生徒の精神保健という部分につきまして認識をまた新たにしてくれているわけです。それで、副校長連絡会等で常に情報交換をしながら、それぞれの派遣を受けている学校の取り組みを連絡をとりながら、うちでもこういうことをやってみようかというような実践を重ねてきたということでございます。現在は西部C地区ということで、基本的には発表といたしますと単独の学校の事例ということになりますが、この発表につきましては地区の副校長先生方の全体の色々な話し合いの中から出てきたことということでございます。

では、2番として実施校における事業内容ということでございますが、実際にはスクールカウンセラーの配置事業も同時に実施している学校につきましては（これにつきましては70～80校と導入されている学校はかなり多いと思いますが、スクールカウンセラーは基本的に生徒に対するカウンセリングということで、逆に教員サイドからみますと、カウンセラーさんの守秘義務ということでなかなかわれわれの方にはがでてこないと言うケースが多いわけなんです。精神科医はまったく逆でございまして、生徒に対する指導といたしますが、生徒に直接接することはありません。これが大きな違いでございます。これはどういうことかといいますと、あくまでも教員が生徒を～精神的な疾患を持つ生徒、またはそれを疑われる生徒についての指導をどうしたらいいかということについてアドバイスを受けるという事業でございます。ですから、私のところもそうなんです。カウンセラーも配置されておりまして、カウンセラーと精神科医の事業をまったく別のものとして推進していかなければならないという側面がございます。

では、精神科医に実際にどういうことを支援して

いただくのかと言いますと（１）～（４）まで出しています。まず、養護教諭は、どこの学校でもそうだと思いますが、いろいろな面で悩みを持っている生徒のケースを抱えていることが多いと思います。それを養護教諭が一人で抱え込んだがためにかなり疲弊してしまうという場合が見られます。やはり、精神保健についても養護教諭が要であるかと思えますので、養護教諭に対する精神科医の具体的なアドバイス～一番感じたのは精神科医への紹介や受診を勧めるための手立てや話し方についてのことが養護教諭にとってはかなり役に立っているということとでございます。もう一つは他の生徒との絡みですね、事例を相談した場合に他の生徒との絡み～保健室で一緒になったり教室に戻ったときの行状、これも生徒本人からの情報収集だけでなく、養護教諭が担任、授業担当、場合によっては部活動などの顧問等から情報を得たことに基づいて精神科医に相談することによって他の生徒との関わりというようなものも考える手立てについてのヒントが得られると言うような場合があります。

（２）として普段ホームルームで生徒を見ている担任を中心に、言動におかしな部分があったり、生活面の例えば遅刻～今まででしたらだらしがないと言うことで済ませてきた部分の中に場合によっては精神的な悩みが隠されている場合があるというようなことにつままして、何でもいいからということで担任教師を中心に教員に呼びかけまして、こういう場合にはもしかしたらこういうことがあるというようなアドバイスを受ける、養護教諭の場合と同じ様にまたその対応をしていただくと言うようなことがあります。

３番目としましては、個々の事例に応じたことだけでなく、精神疾患についての認識～これも大きなことだと思いますが、教師が養護教諭も含めて生徒の精神的な悩みをつかんだ時に自分で抱え込んでしまうケースが多いので、これをオープンにするとともに、情報を共有するとともに、大勢の教員で囲んだ指導が大切ではないかと言う意味での研修会や講演会をとということですが、なかなか多忙な教員が多いということで、懇談会ということで、私のところでは取り組んでみました。最初は数名かなということでしたが、10名を超え、20名を超え、全定併置ということもありまして悩みを抱えた生徒が多いという現状から、「こういうことはどうだ」という一言でも質問をお医者様にすることでかなり認識を深めると言うことでございます。それから、保護者会

等を通じてPRすることによって保護者の認識がかなり高くなりまして、精神科医の先生がいらっしゃるのならば、導入事業の中の日数等の範囲の中ではなかなか難しいけれども、別途保護者会から依頼をしてお医者さんの講演をしていただいたという例も地区の中にはございました。このような取り組みが今まで実践されてきた内容であり、できればこの場で紹介した上で、他にもこんなことできるのか、やっていないのかというような声をいただければ、また、さらに推進していく大きな材料になるかなと思っております。

大きな３番目として平成18年度の副校長の役割、こういうような事業の中で我々はどんなことをやってきたかということですが、今までの話の中で紹介したところですが、まず精神科のお医者様との連絡、意思の疎通と言いますか、はっきり言いまして今までお医者様の方から聴いた話では、精神科医の中には若年層を扱う方が少ないんだそうです。したがって、今若い人が、そういう専門に扱ってくれる先生の所に殺到している状態である。逆に言いますと配置されたお医者様がそういう方であればいいのですが、お忙しいためにそういう例が少ない、本校に配置されている方もどちらかというと壮年～われわれくらいの世代の精神疾患が専門の方です。したがって、そういう方に生徒の学校内、家庭内での生活について色々と説明をしたりということや、教員のそういった生徒に対する対応が従来こうであると言うことを十分説明してからでないか、お医者様が理解をしたうえでアドバイスというところまでいかなくなっているというところですよ。

学校保健委員会の活性化ということにつまましてはどこの学校でも、養護教諭や生活指導主任を中心とした組織があるかと思えます。やはり、養護教諭ひとりだけで事業の推進と言うわけには行かないと思います。保健部会等に逐一私の方でも顔を出したり、いろいろと組織を動かすという形でやって参りました。それから養護教諭との連絡ですが、膨大な数の生徒の事例を抱えておりますので、それを抱え込まないようなための手立て、私の場合には、自分の健康面のことで毎日血圧測定をするということに託けまして、「昨日はどうだったか」「今日はどんな生徒がきたか」というようなちょっとした話の中で、毎日と言うわけには参りませんが養護教諭とのそのようなコミュニケーションを意識しながらやってまいりました。それから研修会や講演会、今度は懇談会と言う形でやるにあたって、どんなことを相談し

てみたいですかといったアンケートを実施したり、養護教諭が個別に担任や顧問に働きかけるのと同時にわれわれも企画運営にあたって、例えば担任が一言漏らしたことを受けて保健室に行ってみたらというような問いかけもしております。もうひとつは、一番大事な点になるのかもしれませんが、保護者、PTA への周知、これについては役員会それから全体会、学年会というようなところで常々紹介しているところございます。この中にも書きましたけれども保護者からの相談が出てくるケースもございます。家庭の中でこんなことがあるのだけれども、相談しにくかったのだけれども、思い切って言ってみたというような例も出てきております。校外での取り組みにつきましては学校保健研究協議会がかなり地区で活発に活動しておりまして、私の学校をはじめいくつかの学校を会場にして活動しておりますが、この席でこの件についてもあいさつの中で話題にしながらよその学校の養護教諭の先生方にも色々な連携・連絡をしていただければという思い出ているところですよ。

4 番目として精神科医の事業と副校長としての取り組みの成果と言うことでございますが、今までにもお話いたしましたように生徒の疾患がはっきりわかる例についての実際に精神科医への受診を勧めたり、もしかと言うような場合には、受診を勧めることによって病気になることがはっきりしたり、さらには、回復したという例もございます。そういうようなことがございます。(1)～(3)に書き出しておりますが先ほどの説明にございましたので割愛させていただきます。一つだけ言いますと、先ほど少しだけ触れましたが、事業とは別に学校の近くや自宅の近くの精神科医と情報交換をできるというようなことが、本校をはじめとして何校かできるようになってきております。制度の発展が期待できるかと思えます。

5 番として課題でございますが、ひとつには家庭との連携ということで保護者の方が理解してくれないとまずい、よくある事例なのですが、保護者がこちらからの情報を理解することを拒否するならばまだ良いのですが、理解できないということがよくあります。拒否する場合は理解したうえでのごさいます。言っていることが理解できないということです。家庭との連携の仕方では精神科医が直接連絡してしまうと医療行為になってしまうのでそれができないことがとてももどかしい点でございます。お医者様も、先ほどの壮年に対する精神疾患を専門

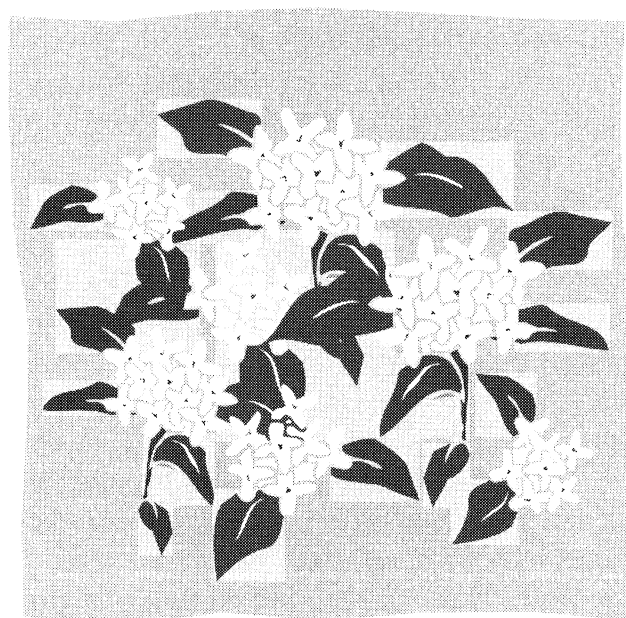
にしているお医者様のように若年層のことをよく理解していなかったり、配置されるお医者様が年毎に変わってしまうと言う例があって、そのつど病名が違ってしまうケースがあって、お医者さまごとの違い温度差に困っている学校もございます。カウンセラーの派遣事業とどううまく組み合わせていくかということです。本校の場合では、疑われるような例でカウンセラーに観察していただいた上で、精神科医に相談したようなケースがあるが微妙な問題があります。(3)として教員の意識があります。精神疾患につきましてはタブー視されてきた教員の世界の文化的なものもあるかと思えます。何とかそれを突き破る、一つ二つこんなことができたんだと言うことがおおっぴらにできなくても多くの教員に共有することができれば、今度は自分も相談しようかというような形で持っていける。そんなこともできるかと思っておりますが、まだまだ旧い文化のまずいところが残っているのかなと言うことでございます。言葉は悪いのですが、認めたくない関わりたくないというこの意識を何とか壊していくことが精神科医導入の、連携事業の大きな目標になっております。

今、私どもの抱えている事例で精神科医に大きく協力頂アドバイスいただいた例を簡単に紹介します。リストカットからスタートしまして原因がまだ良くわからないというところから、保健室でリストカットが判明して、担任、部顧問等とどうしたらよいのかと相談しておりましたところ、だんだんエスカレートしまして教室内で壁をたたくというような自虐行動、その後こういうことをする自分が嫌になった、皆と入れないということで、よく見られるように保健室登校ということに陥りました。保護者の方と連絡を気がついた当初からやって行ったり、保護者もわかっているということで実はお医者さんにかかっているということが出てきました。それがわかるまで、2～3ヶ月かかっています。そして、その後保健室で話をしている中で、使っている薬をつかみまして精神科医に相談しましたところ、あまりに強い薬を大量に服用しているというアドバイスをいただきました。それで、お医者さんを変えとか、保護者の方から訴えていただけるようお願いしました。そうしているうちに段々と進行していきまして昨年の2学期からはじまって2月から入院しましたところが、2ヶ月して退院したときに、病院で暴れたり自殺願望を持ったり、どんどん進行中だということで今度は、その生徒が登校したときにどうするかということ、時間を制限して、曜日を制限し

て、登校しても授業を受けられないというようなことの話し方のアドバイスをいただきました。そのような形の指導に何回もアドバイスをいただきました。これは重い事例ですが、軽い事例としては神経科との境界の様な事例ですが自律神経失調症が回復したというような事例も他校でございました。時間が超過してしまいましたが、精神科医との連携事業の紹介ということで発表させていただきました。ご静聴ありがとうございました。

司会 岸田（武蔵）

記録 宮川（田無）



地域・保護者と連携した教育活動の実践と副校長の役割

中部Aチーム副校長会

生徒指導研究部第2委員会

提案者 都立松原高校副校長 小宮山 英明

中部学校支援センターAチームでは、全日制生徒指導第二研究部会として「地域・保護者と連携した教育活動の実践と副校長の役割」というテーマで研究を行った。

平成9年度から東京都では都立高校改革が計画的に進められてきたが、このなかの改革の基本的な方向として示された「開かれた学校づくりの推進」に位置づくものとして、本研究のテーマである「地域・保護者と連携した教育活動」が挙げられる。

開かれた学校の意味とは、次の二点が考えられる。①これまで透明性が問われていた都立高校が、地域・保護者をはじめとする都民に学校を開き、学校の姿を広く知ってもらうこと。②閉鎖的と言われていた教員が、地域社会に出て学校の教育力を外にも還元していくこと。

本研究では、「開かれた学校づくり」のさまざまな取組の中から、3校の取組実践例を取り上げて、地域や保護者と連携した実践例の報告と課題の検討し、副校長の役割としての今後のあり方を考察した。

1 「小中高 夢のかけ橋推進事業」

「小中高 夢のかけ橋推進事業」は平成16年に始まり、異年齢交流の機会を増やすとともに社会性・協働性・思いやりの心・豊かな人間性の育成を図り、「開かれた学校づくり」を進めることをねらいとしている。平成19年度は、43校46課程が連携推進校として事業を推進している。

R高校では、以下の7つの活動を柱に積極的に実践を行ってきた。

- ① 中学生を招いての体験授業
- ② 中学校へ出向いての訪問授業
- ③ 幼稚園・保育園での生徒の体験活動
- ④ 体育祭への保育園児招待と参加
- ⑤ 中学生の部活動体験入部
- ⑥ 地域住民との部活動交流
- ⑦ 中学校教員と高校教員との教科研修会の実施

R高校の特徴としては、多岐に渡る幅広い活動

である点と、児童・生徒の連携とともに教職員の連携を行っている点が挙げられる。

その成果として、中学生に高等学校の学習内容を十分理解してもらった。高校生が保育に関する知識や理解を深め、異年齢の児童等に対する意識が変わった。学校の教育活動に対する地域住民の理解が深まった。研修等を通して教員の異校種に対する理解が深まった。

しかし、現在のような実践がすぐにうまく行われたわけではない。自校在校生に対する教育活動を十分に進めながら、外部の児童や中学生、地域との連携を深めることは、時間的にも厳しい状況がある。また当然のことながら、高校生とは発達段階の異なる幼児や中学生に接することに対する不安もあった。中学生に対する体験授業や訪問授業は、すでに他校での実践事例も多く、実際に経験されてきた教員もいたが、幼稚園児や保育園児との体験活動や体育祭への招待等の実践は、スタートするまでは特に安全面の心配が大きかった。体格や運動能力はもちろん興味・関心が大きく違う異校種間の連携の難しさは、何回か実践を積み上げることでしか埋めることはできない。中学生や地域住民との部活動交流についても、事故や怪我の対策について事前にかかなりの時間をかけて議論し、検討する必要があった。保護者や相手校に対する十分な説明と理解、保険の活用が必要条件となる。

また、校内での組織的な対応にも課題はあった。現在では担当分掌を軸に副校長・主幹を中心として、ある程度組織的な取組ができるようになってきたが、初めは協力してくれる教員も少数で、副校長の声かけによって、かろうじて実践してくれる教員を集めていた現状があった。初めは組織としてではなく、教員一人一人の取組からスタートしたと言ってよい。地域との交流では、週休日や夜間の勤務時間外の活動にならざるを得ないことが多く、勤務時間の振替も難しい。この課題は制度上の課題として、今後も検討していく必要を感じている。

最後に他校や地域との日程・時程・中身の調整の難しさがある。他校との連携の場合は特にお互いに自校の授業や行事などの教育活動を行いながらの実践であるために、日程調整に非常な困難が伴った。またお互いにやってほしい実践、やらせたい実践についての十分な打ち合わせが必要であり、管理職、担当者、生徒等との事前の打ち合わせには、大変多くの時間を使うことになる。地域との交流においては、前述したような勤務時間の課題を抱えながらの調整も必要となる。

現在では、多様な連携活動の実践が比較的スムーズに行われているが、こうした実践は小さなことから少しずつ始まり、徐々に改善し拡大されてきた結果であると言える。

2 「おやじの会」キャリア講演会

T高校では、平成 17 年度に保護者の特に父親の間から希望があり、「おやじの会」が発足した。PTAとは別に父親たちが学校にかかわり、生徒や学校を具体的に応援できることはないだろうか、という趣旨で十数名の父親たちから自然発生的に生まれたものである。初年度は、文化祭への参加や校内の除草活動を行い、月に一度の例会と部活動の公式戦や各部活動の練習試合の応援を兼ねて集まる。

平成 18 年度は、前年度の活動に加えて、二年生LHRで行う「キャリア講演会」の講師として参加してもらった。

この企画は、前年度から発案され、時間をかけて検討したものであるが、具体的な形式や日程の調整は実施学年が決まってからの二ヶ月で行われた。本校としても、もちろん「おやじの会」としても初めての企画であったために、内容、形式、進行等について多くの時間を割いて話し合いを行い、直前の土曜日には、学校から会場を変えて深夜まで討論が行われるほどだった。その結果、通常の講演会の形式では、少ない人数の講師しか話すことができず、また講演会の講師経験が初めてのメンバーの負担が大きいため、7 人によるパネルディスカッションの形で進めることとなった。参加したおやじの会のメンバーは、職種も経歴も異なり、職業観や社会観も様々であることから、順番に自己紹介を兼ねた職業紹介を行い、「仕事について」「社会について」「家族について」「高校時代の生活について」・・・様々な角度から生徒への示唆や意見交換を行った。最後におやじとし

て「高校生に期待すること」などのメッセージがあり、高校生からの質疑応答をもって二時間のキャリア講演会を終了した。パネラーが7人と多かったこともあって、一つ一つの話題について深く掘り下げたり、生徒との討論をしたりするところまではできなかったが、「おやじ」と「子ども」とのメッセージ交換はできたのではないだろうか。

生徒たちにとっての成果としては、担任をはじめ日頃学校で行っているキャリア指導とは別の視点から、自分たちの父親からのメッセージが新鮮な思いで聞いたこと。様々な職業観や社会観、人生観を知ることができたこと。家庭ではなかなか難しくなったと言われる真面目な親子の対話を講演会の場を作るきっかけにできたかも知れないこと。などが挙げられる。また、おやじの会にとっても、父親として高校生の世代に訴える機会を得ることができたこと。何より学校の教育活動に保護者として参加し、協力することができたことが、一番の成果として挙げられた。試行状態であったおやじの会の活動としては、大きな収穫であると言える。

進路講演会の実践は行ったが、学校との連携には課題が残っている。おやじの会と学校側との接点は、ほとんど管理職に限られており、教員の中にはまだ十分に認知していない人もいるようである。初年度の文化祭に「やきそば」で参加した際に、生徒の飲食団体と競合し、生徒の飲食団体の売り上げに影響が出た件もあって、スタートはやや向かい風であった経緯がある。

本校のおやじの会は、発足してからまだ二年であるため組織としてはまだ十分にできあがっていない。発足時には全校生徒の保護者に参加を呼びかけ、新入学生と保護者に対してもチラシを配布しているが、750 名の生徒に対して 30 名ほどの登録であり、定期的に活動に参加する保護者は 10 名ほどである。父親たちが月に一回ほど集まって、「次に何をやろうか」と相談しながら進めている現状であるが、メールなどを使った情報交換や連絡は密であり、校内の除草や部活動の試合の応援などに毎週のように集っている。

しかし、進路講演会の実現を機に校内での認知度は確実に高くなり、連携が活発になりつつある。直接は関係のないこととして、昨年からは冷房のない本校の教室環境を少しでも改善しようと窓に「すだれ」を設置しているのだが、本年度はその取り付けをおやじの会が引き受けた。日曜大工の

道具を持ち寄って、一日で全教室に二枚ずつのすだれを設置してくれた。父親たちの「無理のない範囲で、何でもいから学校のためにしたい」という思いは確実に浸透し、また学校の様子や課題も共有できるようになりつつある。今後、さらに学校や生徒に役立つために多様な活動を進めたいというのが、「おやじ」たちの希望でもある。

3 地域商店街・消防団との連携による防災訓練

M高校は、私鉄の駅から至近にあり、古くからある商店街と住宅街の間に位置する学校である。当然のことながら、地域住民との関係は深く、時として登下校中の生徒のマナーや服装に対して、地域住民からのご意見や苦情をいただくこともあった。しかし、一方では地域の高校として長年に渡り、親しまれてもきた。

M高校の実践は、学校を地域の防災訓練の会場に開放し、生徒・保護者がボランティアとして地域の防災訓練に参加した取り組みである。きっかけは、近くの大学のグラウンド改修により、それまで防災訓練を実施してきた会場が使用困難になったところで、依頼を受けたことに始まる。M高校では、グラウンドの開放を前向きに受け入れ、生徒・保護者のボランティア参加を募ることとした。

当日までの準備と当日の対応は、副校長が担当し、防災訓練の具体的な実施案は、区役所出張所職員の方が主体となって進められた。日程のは、部活動でグラウンド等を使用する関係から練習のない考查前の日曜日とした。日程の調整のあと高校側として行ったことは、グラウンドや施設の貸し出し関係の手続きと、生徒・保護者の協力要請、当日の受入準備の体制作りである。

当日は、PTA役員 15 名程度と生徒ボランティア 3 名の参加となった。(生徒は試験前のため、地域に住む少数の参加に留まった。)教員は副校長を含めて 4 名が参加した。それに対し、M高校に来校した地域住民は 500 名を越えるほどで、大規模な防災訓練が行われた。

成果は、なんと言ってもこれだけたくさんの地域住民に学校を見てもらったことである。近くに住んでいながら、初めて校内に入られた方がほとんどであり、本校の教育内容をほとんど知らない地域の人たちにも学校を身近に感じてもらえたことである。当日の感想の中には、「古くからここに高校があることは知っていたが、初めて校内を見ることができた。」「M高校を身近に感じられるよ

うになった。」「高校生の年代の子供がいないので、これまで全く関心のなかったM高校の中に入って、いろいろ興味深かった。こんなに広いとは思わなかった。」「高校がいろいろな取り組みをし、地域と積極的に連携しようとしていることが分かった。」等の意見が少なからずあった。

課題としては、この取組が学校として組織的な活動にまで至っていない点が挙げられる。継続して続けていくことになってはいるが、組織の動きよりも一人一人の教員の努力や協力に負うところが多い。もちろんかなりの部分が副校長の負うところでもある。また、広報の面でも検討の余地がある。地域への広報は区役所にお任せし、地域住民には十分に周知してもらって、予想以上の地域住民に参加してもらうことができたのに対して、学校側(生徒・保護者・教職員)の参加は少なかった。さらに多くの都民に知っていただきたいという思いもある。

将来的には、単に防災訓練の会場として施設を開放するだけではなく、実施内容の検討の段階から学校が参画して実施計画を立て、学校を会場することでしかできない内容を考え、地域の中にある学校として地域と連携した学校の防災体制そのものを作っていきたい。

本研究では、特に上記三校の実践例を紹介したが、現在はほとんどの都立学校で地域・保護者との連携を積極的に行っていることは疑念がない。その形は様々で、一括りにまとめることはできない。しかしその中で各高校が共通して抱える課題は、以下の四点にまとめられると考える。

1. 外部との日程などの調整が難しく、年間を通して、計画的に行われるべき内容であるにもかかわらず、直前に慌ただしく企画・運営されることが多い。
2. 活動内容や連携先や連携の方法によって、週休日や休日の活動が多くなり、教職員の勤務の課題もあり、全校的な体制づくりが難しい。
3. 一回の実践は成功しても、回数を重ねるにしたがって新鮮さが失われて、発展的に継続していくことの難しさがある。
4. 活動の内容によっては、校内の組織に位置づけて実践しにくい場合があり、担当者任せになりやすい。熱心にかかわった担当者の異動などが起きた場合の引き継ぎが課題となる。

最後に副校長の役割と今後の課題について考察した。

多くの学校で地域や保護者など外部との対応窓口は、副校長に一本化している。したがって、地域・保護者との連携に当たって、副校長の果たす役割は大変大きい。本研究で取り上げた教育活動でも、外部との調整に係る課題が多く、それはそのまま副校長の課題につながる。しかし、その反面、副校長が外部との調整をはじめ、大活躍して地域連携を進めていけば、いつまでたっても本当の「開かれた学校」は作れないことになる。地域・保護者との連携が組織として自然に行われるようになることが、私たちの願いである。

副校長の役割として重要なのは、これまでのように地域や保護者、外部機関とのパイプ役としてスムーズな調整に力を注ぐばかりでなく、連携活動を活性化する校内内部の体制の構築にあるのではないだろうか。

そのために必要な課題を私たちは、次のように考える。第一は、こうした地域・保護者との連携が、学校にとって意味のある重要な活動であり、したがって在校生の教育にとっても好影響を与える取り組みであることを、校内に十分に理解してもらうこと。第二に校内で連携を推進する分掌あるいは委員会等をしっかり組織し、副校長として進行管理をしていくこと。第三に活動の実践を検証し、成果や課題を整理し共有しながら、次につなげていくような総括を残していくこと。昨今の高校の教育現場の活動は、実に多様である。それはとりもなおさず、課題が多様化し、増加していることを意味する。いま副校長に求められているのは、現場の課題を的確に整理し、少しずつでも課題解決に向けての方向性を示しながら、学校改革の推進につなげていくことであろう。

講評

前都立小石川高等学校長 鎌倉女子大学

遠藤 隆二 先生

校務が大変忙しくなっている中、実践の研究とまとめをされた努力に御礼を申し上げる。本来は、一つ一つの実践について、お話をすべきだが、時間が限られているので、次の三点についてお話する。

まず第一に「開かれた学校」のとらえ方の視点について。「開かれた学校」の考え方は、教育委員会が新宿高校の事件をきっかけに行政指導をした

経緯がある。したがってここに示された「開かれた学校」の考え方は正しいが、私は「学校の教育は学校だけではできない。もっと外部の力を活用して外部の人たちに教育の一部を担ってもらい、学校教育を共有する。」という視点を強めるべきであるとする。外部の力を先生方に実際に見てもらい、外部に対する抵抗感をなくす。外部の人たちには、学校教育を共有することで、一緒にやっているという責任感をもってもらい、それが学校にとって一番いいことなのではないか、と思う。

私の経験では、行政の計画と学校現場では、どうしても「ずれ」が生じるという印象があった。もう少し学校の視点から考え、それを重視する必要がある。そうした意味で、副校長の役割は、「コーディネートする」ことである。経営がしやすくなるように、教員に外部のことを知ってもらい、外部の人たちに学校を分かってもらいコーディネートである。

第二に専門医・精神科医との連携について。この課題に関して、現在学校が置かれた状況はそれだけ深刻だということである。それだけ養護教諭の負担、副校長の負担は多いはずである。そのため、こうした活動を組織的に行っていく必要がある。課題を3つ挙げてあるが、教員と保護者の意識改革がポイントになる。粘り強くやっていくしかない。現在、精神疾患が増えている。ストレス社会における精神疾患は、「特殊なことではない」ことを粘り強く訴え、職員会議や校内研修を活用して分かってもらい、また、この問題に関しては、すべてを杓子定規に考えると、人権上の問題も出てくる。

第三にこれらの取組を「学校の財産としていく」視点が大切である。それとともに「組織で仕事をしていく」ことが大切である。副校長が実働部隊になるのではなく、組織の主幹・主任・委員長に仕事を任せ、副校長は進行管理をしていく。そうしたシステムを作って、本当に管理職としての仕事をするようにならないといけない。

最後に皆さんには、心身共に健康でご職名を全うできるよう、ストレスを解消する手だてをもってもらいたい。一番大切なのは仲間と語らうことである。東京都の教育の為にこれからも頑張ってもらいたい。

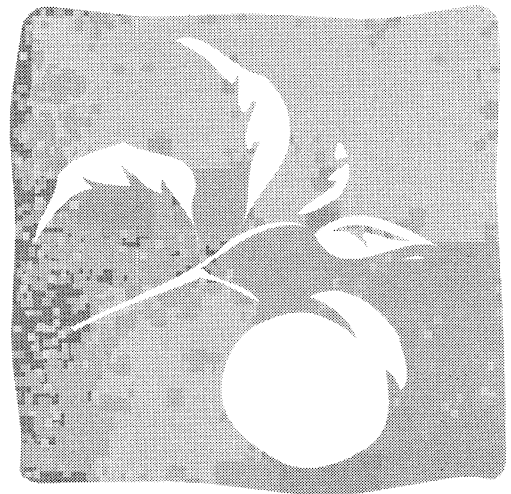
司会 小野村 浩（豊多摩）

記録 美野輪 武(杉 並)

<文責:小野村 浩(豊多摩)>

<研究協力者>

小野村浩(豊多摩)	星野純一郎(都立大付属)
小川達夫(芦花)	白倉昌裕(桜修館中等)
神田亮二(富士)	大川登喜彦(新宿)
竹内 彰(西)	不殿 讓(新宿)
美野輪武(杉並)	佐藤栄一(桜町)
北澤道男(杉並総合)	竹内 章(千歳丘)
俵田浩一(杉並総合)	都築 功(玉川)
安部卓郎(三鷹)	福田洋三(深沢)
小巻 明(神代)	新井義雄(第一商業)
和田吉廣(調布北)	櫛野治和(世田谷地区総合)
栗原幸一(狛江)	宮下義弘(総合工科)
堀切哲也(三宅)	川嶋直司(園芸)
恩田 実(八丈)	三戸雄造(国際)
鶴田秀樹(小笠原)	佐藤芳教(国際)
小林淑訓(大崎)	加藤 修(大島)
佐藤友久(小山台)	大塚健一(大島南)
東保 明(雪谷)	小澤 彰(大島南)
高橋聖一(田園調布)	長田真一(新島)
下条隆史(駒場)	佐瀬千賀良(神津)
竹内秀一(駒場)	
依田賢一(芸術)	
柏倉 均(目黒)	



第4分科会

学校における事故防止の取り組み

—東部学校経営支援センター、東部学校支援センター支所内定時制各校の取り組み—

定時制通信制副校長会

管理運営研究部第一委員会

提案者 都立葛西南高等学校副校長 高坂 仁
都立台東商業高等学校副校長 小山 秀高



I はじめに

学校事故防止に向けては、発生をゼロに近づける努力を常に行う必要がある。しかし、学校事故がなくなるという現状がある。副校長として、様々な学校事故を想定し、包括的に学校の危機管理体制を確立することが責務である。そこで、定時制に共通する事故例を学校の生活時間に合わせてアンケート調査により抽出し、それらへの対策を講じたいと考えた。

II アンケート調査の内容

アンケート調査は、定時制各校について、各生活時間帯において予想される事故の「最も取り組まなければならない課題」とその「対応策」について回答を頂いた。なお、ここでいう事故とは、交通事故、怪我、暴力、恐喝、盗難、破損、性非行、火災等学校あるいは登下校時に起こり得る事故や問題行動を意味している。

III アンケートの調査の結果

1 登校時に取り組まなければならない課題

(1) 無許可バイク通学、自転車通学マナー、夜間走行上の諸注意等交通安全指導 (23 校中 25 校)

対応策—生活指導部の登校指導、「夜間走行の諸注意」を警察に依頼、交通安全教室実施

(2) 全日制生徒とのトラブル (23 校中 4 校)

対応策—全日制生活指導部と合同の下校指導、地域住民との連携

(3) 女子生徒の性被害 (23 校中 2 校)

対応策—歩行中に携帯を使わない、大通りを歩くなど生徒の心がけを指導、護身術の講習会を実施

(4) 部外者の侵入防止 (23 校中 1 校)

対応策—教員の校門付近巡回

(5) 遅刻指導 (23 校中 1 校)

対応策—教員の校門前指導

2 登校後始業前に取り組まなければならない課題

(1) 遅刻指導 (15 校中 4 校)

対応策—校内規定の見直し、担任の巡回指導、全教員による声かけ、担任の個別面談

(2) 盗難防止 (15 校中 3 校)

対応策—貴重品の自己管理指導、空き教室を早く来た生徒のために自習室として提供

(3) 不審者の侵入防止 (15 校中 3 校)

対応策—校内巡回、生徒用出入口による登校指導

(4) 上履き指導 (15 校中 1 校)

対応策—通年の全教員による指導

(5) 全日制生徒とのトラブル (15 校中 1 校)

対応策—全教員による校門指導

(6) 危険箇所への立ち入り禁止 (15 校中 1 校)

対応策—工事現場の周知徹底

(7) 給食後の喫煙 (15 校中 1 校)

対応策—喫煙防止のための講演会設定

(8) 学習環境の維持、教室環境の安全確保 (15 校中 1 校)

対応策—担任の教室清掃、課題のある生徒の個別説諭

3 授業中に取り組まなければならない課題

(1) 授業規律の確保 (20 校中 15 校) 私語、中抜け、遅刻、指導無視、携帯使用等

対応策－授業中の生徒の様子について情報交換、保健室との連携、副校長・担任による授業立ち合い、評価基準を生徒へ提示、問題行動・暴言に対する全教員一致した指導の徹底、生活指導部による校内巡回

(2) 盗難防止 (20 校中 2 校)

対応策－自己管理の指導、教員の校内巡回

(3) 不審者の侵入防止 (20 校中 1 校)

対応策－学校内外の巡回、警察等関係諸機関との連携

(4) 過呼吸等既往症への対応 (20 校中 1 校)

対応策－保健室との連絡体制

(5) 授業中の怪我 (20 校中 1 校) 体育実技、調理実習、理科実験

対応策－少人数指導、事前指導の徹底

授業中の規律を確保するために、教室のドアを開けて授業を行っている学校や、授業公開を積極的に行っている学校もある。また、授業中に教科書・ノートが机に出ていないとペナルティを課している学校もある。全教員の一致した指導体制の構築が必要であると意見が出されている。

4 休み時間に取り組まなければならない課題

(1) 喫煙防止 (20 校中 9 校)

対応策－複数の教員による巡回、関係諸機関との連絡、校内放送による呼びかけ、地域との連携

(2) 校外での交通事故 (20 校中 3 校)

対応策－教員による巡回指導、集会や HR での呼びかけ

(3) 生徒間トラブル (20 校中 2 校)

対応策－校門付近の巡回指導

(4) 盗難防止 (20 校中 2 校)

対応策－ロッカーの使用と施錠

(6) 火災防止 (20 校中 1 校)

対応策－生活指導部による巡回指導

(7) 不審者の侵入 (20 校中 1 校)

対応策－巡回、緊急連絡体制の確認

(8) 自殺防止 (20 校中 1 校)

対応策－教育相談体制の整備、ベランダの柵を高くする

5 給食時間に取り組まなければならない課題

(1) 無断外出、喫煙 (20 校中 10 校)

対応策－正門での立ち番指導、地域住民への通報依頼

(2) 給食時のマナー (20 校中 7 校)

対応策－教員の給食当番の割当、手洗いの励行、

年度当初の給食指導の徹底

(3) 受給者以外の喫食、部外者の無銭飲食 (20 校中 2 校)

対応策－栄養職員との連携

(4) 火災 (20 校中 1 校)

対応策－生活指導部による巡回指導

できるだけ給食をきちんと取らせることで給食時間の無断外出は無くなるのではないかという回答がある。

6 部活動中に取り組まなければならない課題

(1) 活動中の怪我、安全への配慮 (22 校中 18 校)

対応策－顧問立ち合いのもとでの指導、顧問による健康観察、顧問と管理職・保護者との連携、緊急時の対応の確認、年間指導計画・日案の作成、活動場所と使用用具の安全確認、複数顧問の配置、事故防止研究協議会への教員派遣、活動時間の厳守、顧問の適材適所配置、養護教諭との連携

(2) 部外者の侵入 (22 校中 4 校)

対応策－顧問による監督、空き教室の巡回、緊急時の連絡・連携体制

7 放課後に取り組まなければならない課題

(1) 学校周辺でのたむろ、特に用のない生徒の居残り (19 校中 9 校)

対応策－空き教室の施錠、日直の定時巡回、全教員による下校指導

(2) 部外者の侵入防止 (19 校中 4 校)

対応策－複数の教員による校内巡回指導、警察等の関係諸機関との連携

(3) 怪我等 (19 校中 4 校)

対応策－日直による校内点検 (施錠・消灯・機械警備の確認含む)

(4) 火災 (19 校中 2 校)

対応策－生活指導部による巡回指導

(5) 他課程との生徒間トラブル (19 校中 1 校)

対応策－教員による校舎内外の巡回指導

8 下校時に取り組まなければならない課題

(1) 自転車二人乗り、バイク・自転車による危険運転 (23 校中 13 校)

対応策－生活指導部による巡回指導、警察との連携、交通安全教室の実施、HR 指導

(2) 校門付近・学校周辺・学校周辺のコンビニでのたむろ、食い散らかし (23 校中 7 校)

対応策－校外の巡回指導、校内放送による呼びかけ、現場での直接指導

(3) 最終下校時間の厳守 (23 校中 1 校)

対応策－部活動顧問による下校指導の徹底

(4) 他の課程生徒とのトラブル

対応策－校舎内外の巡回指導

(5) 性被害と恐喝(23校中1校)

対応策－集会やHRで適宜指導、警察等関係諸機関との連携

IV アンケート結果の考察

これから今回のアンケートを分析していくに当たり、再度ご協力いただいた副校長先生、学校に謝意を表したい。分析の視点は、①「取り組まなければならない課題」としての「回答」が多い事項、②多くはないが重要だと考えられる事項、③定時制課程・通信制課程独自の事項の3点である。

1 登校時

(1) 交通安全等

アンケート結果をみると、「バイクは危険なので全面禁止」という発想が伺える。しかし、1年次に交通安全教室、1年次における生活態度・行動等の見極めを経て、2年次から許可している例もある。隠れて乗ってきて事故を起こしたり、バイクを無断で駐車して近隣住民に迷惑をかけたりすることを防止する効果が期待できる。

また、ビデオ等だけでなく本物の自動車、バイク、自転車を使った警察の実演指導などにより、生徒に強く印象づける方法も提案したい。

(2) 部外者の侵入防止

回答のほとんどは、巡回・訓練実施等のいわばソフト面での対応策であった。警備員も含めたハード面を充実させていく必要があると考える。正門に人が近づくとセンサーによりライト点灯(葛西南高校)、玄関にオートロック方式採用(台東区立桜橋中学校)、登下校時に警備員配置(都内小学校)などが挙げられる。

2 登校後始業前、4 休み時間

喫煙については、指導に加えて最近マスコミ等で見られるのが、禁煙外来への通院であり、ニコチンパッチ等により治療である。法的、精神的な指導に加えて医学的な対応策を提案したい。たとえば、平成15年5月31日(土)付け朝日新聞によると、「県立和歌山県立東高校ではたばこを吸っている生徒に自己申告させ、面談を通じて禁煙に導くユニークな指導を始めた。「処罰だけでは喫煙はなくせない」と、今春から踏み切った。喫煙は大人と同様の「依存症」ととらえる医療の視点からの試みで、専門家も注目している」とある。

3 授業中

授業規律を確保するための根本的な問題解決は、

いわゆる教員の全人格的な向上、「人間力」の向上であると考ええる。つまり、「教育は人なり」(教育スキルを向上させ、教師の人間性を磨かせる)である。また、授業参観、授業研究実現のための一歩として、ドアを開けて授業を行うことにしている学校もある。

現在大きな問題だと感じるのは授業・生徒をコントロールできない一部講師の存在である。本校では、まず担任、次いで副校長が授業参観し、講師・生徒の面談指導に繋げている。

5 給食時間

次のようなことを実践している学校がある。

- ・食事時間を守らせる(時間にならないと食べさせない)

- ・給食の次の時間の遅刻・欠席を重点的に指導し、無断外出防止、喫煙防止を徹底する。

- ・給食を食べるように、保護者にも指導を依頼する。

- ・給食便りの発行

- ・食育の充実：栄養士を交えてのLHRでの授業を行った。

食育の観点からすると、給食の時間を現行より長くすることを提案したい。食育以前の問題として、ゆっくり食事することが大切ではないか、ということである。

6 部活動中

全日制課程にも共通する問題であるが、活動中の怪我、安全への配慮が最も多く、対応策も全日制課程と共通する。

7 放課後、8 下校時

(1) 学校周辺でのたむろ

現場での直接指導を中心とした組織的で地道な対応が効果的だが、対応する教員が少数に固定しているというのが多くの学校の現状ではないかと考える。管理職の指導力を発揮し、「全教員一致した指導の徹底」が求められる

(2) 女子生徒の性被害

重大な課題だと考える。対応策としては、組織的な指導を地道に推進していくことが重要であると考ええる。とくに、「女子生徒のためのセーフティー教室」の実施を提案したい。

V おわりに

以上、全体を振り返ると、未然防止のための危機管理を副校長として徹底していく必要があり、万一事故が起こった場合に、当事者、関係者、関係機関、教育委員会、マスコミ等への迅速な対応ができるよ

うな体制を整えておく必要がある。

また、従来の定時制に加えて三部制の高校が多くなっていることから、三部制高校特有の問題について考えてみたい。2点挙げると、

①生徒管理の問題

生徒管理がしづらい。他部履修のために待っているのかさぼっているのか分からない。

②頭髪・服装指導の実施

昼間なので生徒の行動が目立ち、そのため、頭髪・服装指導を実施し、指導を通じて授業規律の徹底に結びつけている高校がある。多くの「従来からの定時制高校」では頭髪・服装指導は実施していない。この「従来ながらの定時制高校」の持つ、「定時制だから（いい加減でよいのだ）」という認識を教員側、生徒側双方が改め、全日制課程並みの学習・生活・進路・部活動等の指導を徹底させていかなければならない。

【質疑応答】

(問)第四商業 堀江

給食を食べない生徒が増えている。食育という観点を含めて、より詳しく聞きたい。

(答)葛西南 高坂

本校では180名中120名が給食を食べている。年度当初特に栄養バランスという視点を強調しながら保護者に依頼している。転編入者にも同様にそれぞれ入学の時期に保護者に依頼している。また、教員は生徒とコミュニケーションを取る時間として一緒に食べるようにしている。栄養士も食堂に入り指導をしたり、あるいは、TTで食育に関する研究授業を実施したりするなどしている。

(問)中野工業 松本

保護者への指導を行わなければならない状況にあると思うがどうか。

(答)葛西南 高坂

P T A活動を活性化の中で保護者への働きかけをした。隅田川高校では週1回P T Aが集まり情報交換を行っている。

(答)台東商業 小山

本校は募集停止校であり、総会を開いても参加するのは会長・副会長のみであった。そのため、中退のおそれや授業態度に課題のある生徒を中心に家庭訪問を積極的に行うようにしている。

(問)八丈高校 静野

給食を食べない理由として家庭で作ったものを食べさせたいという保護者の意向がある。本校では

その場合でも食堂で食べるよう指導している。また、教員には給食指導を実施するよう求め、そのため食堂のレイアウトも変更している。

P T Aはないが、保護者会では全体会やクラス会、個人面談を行うようにして、都合のいい時間に来校してもらうようにしている。それでも来られない場合は家庭訪問を行う旨の文書を配布し参加を促している。家庭訪問は「行ってください」ではなく「行きましょう」という形で副校長が同行する形で始めた。最近は副校長が同行しなくても教員同士で行くようになってきている。そこで、P T Aの作り方について教えて欲しい。

(答)葛西南 高坂

P T Aを活性化するという事で回答したい。本校では18年度から2月に1度の割合で役員会を定例化した。特にテーマを定めず毎回フリートーキングという形で行った。昨年度は数名の教員を含め研修旅行を実施することができた。

(問)浅草高校 相賀

携帯電話によるブログ、プロフについて、各校の対策や指導方法について教えて欲しい。

(答)葛西南 高坂

本校では今のところ生活指導上の問題になってはいない。

(答)大江戸 関

夏季休業中の生活指導連絡会でアドレスと写真を載せないよう警察からも指導があった。本校では始業式の日にはホームルーム単位で担任から指導する予定である。

(答)八丈高校 静野

昨年度末、自身のブログで教員、生徒を誹謗中傷するという事例があった。細かく記録を取り相談センターに相談した。当該の生徒にはそうした行為をやめるよう指導するとともに、メール等の扱いについて全体で指導した。また、サイバー犯罪をテーマにセーフティ教室を行った。

指導助言

前都立大江戸高等学校長 東京理科大学

小久保 正己 先生

副校長は多忙を極め、眼前の課題に追われていると思うが、時間を工夫しつつ事故防止について対応をすすめてほしい。

P T A活動については、保護者会の活性化等の方策を含め、在任中に「種をまく」という視点ですすめてほしい。

学校事故について、アンケート調査をもとに発表者の経験や分析を交えながら、わかりやすい発表であったと思う。

防災については、教員に理解させることを通して生徒に理解させることが大切である。学校の避難訓練はパターン化していて実際には役に立たないといわれている。そのため、実際に新潟のような地震が起きたらパニックになることが予想されるが、パニックにならないようにするのが訓練である。そのためには教員が訓練の目的を理解することが重要である。新潟の事例を参考にしながら、単に避難するというだけでなく、高校生なので避難してきた地域の人たちに対してどのように対応すればいいのかなど、特定の目的を示して実施することも大切である。

保護者への対応について、苦情を言う親や地域を含め、それを活かす形で対応する。学校の動きが見えると変わっていくという一面もある。地域と連携した活動を通して情報交換をすすめるのがよい。

護身術については、相手が本気であればどうしようもないのが現実である。下手な護身術を身につけるより、ねらわれているという意識を持たせることが大切である。登下校は大通りを通らせるとか、一人で歩かないなどの指導を徹底する。

このほかに潜在的な危機として、不登校や中退しそうな生徒等の実態を把握し、対応することが事故防止につながる。出席を管理し、それをきちんと記載し、あるいは担任や副校長に情報を伝えるといった、当たり前のことを改めてしっかりと確認する必要もある。

給食については、じり貧状態で、今後さらに条件が悪くなるのではないかとされている。給食を食べないことによって、無断外出や喫煙など事故につながる。栄養士を活用して生徒が食べようと思うような指導も必要である。教員も給食時間に生徒とのコミュニケーションを取るなど、給食時間を有効に活用する必要もある。

教員の事故防止ということある。パソコンやUSBの紛失は後を絶たないが、学校の中でもっとも大きな問題の一つである。大江戸高校では、自立予算の中で一人1台のパソコンを配置している。また、情報漏洩では、廃棄資料の処理の問題がある。ゴミからも情報は流れ出す。個人情報の管理について徹底することも重要である。さらに、自動車通勤等、教員の非行の問題も留意する必要がある。

危機管理という視点から考えると、副校長が学校の雰囲気を作り、教員・生徒をいい方向に持って行

くことが大切である。どんな状況でも地道に仕事をし、学校を一つにまとめ、保護者の信頼を得ることが副校長の役割である。いざというときには不在の校長ではなく副校長がリーダーシップを取らなければならない。そのためにも日常の管理が重要である。危機管理ということからいえば、副校長は校長にちょっとしたことも報告しておく必要がある。知っているだろうということではなく「念のため報告」をする。1つの事故には300の「ひやり・はっと」があるという。事故は起きるときにはいきなり起きることもあるが、「ひやり・はっと」の段階で対策を考えるために、「念のための報告」は重要である。

<研究協力者>

定通制管理運営研究部第一委員会(東部地区委員会) 研究協力者

庄司 一也	(橘)
樋口 和嗣	(小松川)
角 順二	(大森)
栗原 健三	(小岩)
山田 芳嗣	(両国浅草分校)
矢島 賢二	(三田)
内藤 公雄	(墨田工業)
関 毅彦	(大江戸)
小川 達夫	(大江戸)
中村 茂	(向島商業)
吉川 英雄	(墨田川)
石井 茂光	(八潮)
藤坂 健司	(芝商業)
近藤 剛	(六郷工科)
小山 秀高	(台東商業)
相賀 直	(浅草)
星野 裕史	(浅草)
鹿目 憲文	(上野)
福崎 祐一	(江北)
稲本 茂	(荒川商業)
菅井 博之	(本所工業)
石山 智典	(葛飾商業)
加藤 秀次	(工芸)
白水 孝治	(小石川)
高坂 仁	(葛西南)
山本 信行	(六本木)

司会 小林 薫 (杉並工業)

記録 丸山正二郎 (千 早)



「新しい健康作り」

首都大学東京大学院

教授 星 旦二 先生

皆さんこんにちは、今紹介頂いた星と言います。研修ご苦労さまでした。「新しい健康について」というテーマですが、じつは前回フォーラムがありまして高校生は夢を持って生活することが大事ではないかと、そんな話をさせていただいたもので、ちょっとタイトルが変わりますが夢の話をしたと思います。何度となく和田先生から私の所へメールを送って頂きまして、校長先生は元気で長生きをするというのはとても大事だと私は思いますし、皆さんまもなく副校長から校長になられると思いますが、是非元気で活躍して頂きたいと思います。

それから江本先生がご挨拶なさっていましたけれど、私は最近学校の先生は特に激務になったのではないかと考えていますけれど、やっぱり校長先生が健康に生きていないと生徒も健康に生きることではないと思いますので是非、管理ではなく、健康的に支援していただくのが大事だと想っております。

今日はだいたい4つ5つの話をさせていただく予定であります。一つは東京と健康の課題を整理してみようと思っております。もう一つは健康について全く新しい考え方が提案されていますし、特に障害という言葉も使わなくなってきましたのでその辺の情報を提供したいと思います。それと今日の一番のポイントは子供の健康はどうして大事にされるのか、言い換えるとスクールヘルスやファミリーヘルスでどうしてこんなに大事にされるようになってきたかという背景をご紹介しますと思います。もうひとつはエンパワメントという言葉をお聞きになったことがあると思いますが、子供も育っているけれど実は親も育っていますし、児童生徒も育ちますが同じように学校の先生も育つわけで、そういうことをエンパワメントと言いますがこれも紹介したいと思います。

最後に 2005 年に東京都の教育庁が、都立の高校一年生を対象に健康危機行動、酒と煙草だけでなく薬物も含めて使っている実態を調査すると共に、どういう関係要因が関連しているかと言うことを共同研究させて頂いたことがありますのでこの結果の概要もご紹介しようと思います。だいたいこんな話をする予定です。分科会等でお疲れでしたらどうぞ居眠りをして下さい。

東京都の人は長生きだと思いませんか、長生きだと思う人は手を上げて下さい。全然上がらないですね。東京は長生きでないと思う手を上げて下さい。圧倒的に多いですね。実はバツです。東京都の平均寿命は全国平均で男性が 20 番目で女性が 33 番目だというのが正しいと思う手を上げて下さい。結構多いですね。前向きに生きている人は後ろ向きに生きている人より 7.5 年長生きするというのは正しいと思いませんか。これは多いですね。東京の 12 歳の虫歯は全国的に最も少ないというのは正しいと思う人、ちょっと上がっていますね。ただしです。小学校 4 年生の大動脈に 90% の動脈硬化が始まっているというのが正しいと思う人、これはほとんどですね。コレステロールがだいたい 250mg/dl の人が最も死なないというのが正しいと思う人、結構みんな高いんじゃないですか。さっき結構小太りが多いなと思って見ていたんですけど、実は小太りが一番死なないというのが正しいと思う人、これは多いですね。アメリカだけでなくヨーロッパでも今東洋医学、針灸とか日本で言う手当とかも東洋医学ですし、森林浴、温泉浴もはいますが、使われているというのが正しいと思う人、これは多いですね。皆さん歯の主治医はいらっしゃいますか。歯の主治医がいるひとはなかなか死なないというのが正しいと思う人、これは多いですね。高校生活、学校生活

が充実しているという子供は、自己肯定感つまり自分が大好きだということと同時に親子の会話がとても大事だったというのが正しいと思う人、これは一番多いですね。これ全部正しいです。東京は決して長生きでなくて田舎が長生きです。地方が長生きです。そして長生きに人が生きることを応援する、そういうプログラムが世界で始まっています。けっして子供達の身長、体重を測るだけでなく、その人が豊かに生きる、夢を持って生きるのを応援する、これが世界の健康作りです。それから、あとでデータでお話ししますが皆さんのような小太りが最も長生きで、同時にコレステロールが高い人が長生きだと今日データで読み取って下さい。そして当たり前ですけど皆さんが現役で長生きすることを抜きに学校が充実することは、僕はあり得ないと思います。同じようにお父さんお母さんが豊かに生きていなければ子供が豊かに生きることはないと思います。そのためのプログラムがどういうのがいいのかということをお話します。

最初にはまず健康の課題を話したいと思います。実は東京の小学生、中学生の死亡率は若干高めで、更に東京の平均寿命は、女性は36番目と落っこちているという現実。そして特別区の23区の寿命に大きな差があります。なぜでしょうか。そして更に城東地区の青壮年期の死亡者が非常に高いことが東京の健康問題の背景です。皆さんはどこに住んでらっしゃるんでしょうね。ブルーが東京ですが、小学生、中学背の死亡率が高いですね。長野県も見て頂くと20代、30代、40代は青森県の死亡率の半分しかありません。ただ89歳過ぎるとどんどん死んでるのが長野県です。どっちが望ましいかと考えたら長野県が望ましいと思います。東京都は、20代はちょっと少ないですけどこれは元気な大学生がいっぱい東京に来るからです。いずれにしても7歳以下は死亡率低いんですけど、小学生、中学生は若干死亡率が高いですね。もちろん理由は何も分かりません。高いことだけわかっています。東京都の平均寿命を見ますと、これは1965年のデータです。実は全国で最も長生きなのは東京でした。1980年代までは。ところが1980年代から第1位からどんどん滑り落ちて今は女性が36番目に落ちてます。長野県はいいと思っていましたけど毎年だんだん活気さが広がっているこれがポイントです。東京はすでに長生でないことをご理解下さい。だいたい最下位は青森県か大阪府です。最も犯罪率の高い大阪府です。全国を見て頂くと分かりますが青いところが長生きで、赤いのが短命です。最も長生きなのはどこでしょうか、長野が阿蘇山と並んで最も長生きです。つまり、今長生きな県はどこかと言われたら高山が多いフォッサマグナの県と阿蘇山です。そして沖縄です。共通点はなんでしょうか、私は水と空気だと思います。1995年のデータです。男性が20番目、女性が33番目、2000年の新しいデータでは女性が36番目に落っこちていることをご理解下さい。とりわけ都市部に住む女性の寿命が低下しています。それは愛知県も同じです。大阪も同じです。まあ全国の相対比較ですけど都市部が長生きとは言えません。これがポイントです。黒っぽいところが長生で、赤いところが短命です。全国で見るとどうですか。フォッサマグナと、阿蘇山だと思いませんか。つまり山のあるところが長生です。そして都市部、東京、大阪が短命であることをご理解下さい。私か生まれたのは福島県の山奥で、ほとんど病院のない山なので一番長生きだとわかりました。もっと笑って下さい。笑ったら脳の免疫細胞が活性化することを是非ご理解下さい。笑ったら血糖値が下がるんです。血圧は見事に下がります。毎日笑えるような学校生活を送らないと皆さんの血圧はどんどん上がると言うことです。そんな生活を送るのが良いのか、楽しい学校生活を送って子供達がハッピー、自分もハッピーになる。そういうウィンウィンの関係をどうつくるかが大事だと思います。それは管理ではないと個人的には思っています。管理することではなくて共に学ぶ、共に育つ、そういう関係を是非つくっていただきたい。そういうときに最も大事な科学的な事実です。科学的なデータを是非大事にして頂きたい。どこが長生きかといわれたら山地が長生きであることをご理解下さい。農村の方が長生きだと言ったら嘘だと言ったので私は全国の市役所の標高を全部調べました。こんなのが研究です。誰でもできるんです。そうでしょ、

こんなの高校生できるじゃない、一緒にやって下さい。学生と一緒に。長生きなのは標高千メートル上がるとだいたい2歳長生きすることを発見しました。これが現実です。じゃあ管理教育して本当に先生達が豊になって子供達がのびて、ほんとにこの学校を出てプライドを持っていけるのかのデータを蓄積しないといけないと思います。それがとても大事です。いずれにしても山の方が長生きであり、都市部、海岸線が短命傾向である事実を覚えておいて下さい。

私は、個人的に考えていますのは健康を規定するのは水と空気的环境だと思っています。きれいな空気を吸えてきれいな水を飲む事が大事だと思います。昨日たまたま私の家の換気扇を見てみて、フィルターを見てみて真っ黒でしたね。皆さんも帰って見てみて下さい。これが東京です。それを私達は毎日吸っているんです。水道の源水にダイオキシンが含まれていますか、水道、私達の飲む水の中にダイオキシン濃度はどれだけ含まれているのでしょうか、私はどう考えても都市部の短命の大きな理由の一つは水とか空気だと思います。いずれにしても緑の力とか、森林浴とか、温泉旅行をガンのターミナルケアに活用しているのはドイツです。そしてフランスです。

小学生の動脈硬化の脂肪沈着は90%、正しいと思う人は手を上げて貰えますか。さっき言っていましたけど、動脈硬化というと脂肪が沈着することです。じつは動脈硬化は90%始まっています。本日参加者全員動脈硬化です私も含めて、何が悪いんですか動脈硬化。結局みんな死ぬんです、しかもここまでなるには何十年もかかるんです。小学生から80歳で死ぬ人は70年かかると思って下さい。だったらゆっくり動脈硬化をつくればいいじゃないですか、詰らない程度に、半分いっても全然平気ですからね。最も健康を害しているのは喫煙ですよ。さあ話し合ってください、40代の女性が千人いたらその人が心臓の病気で死ぬのは何人でしょうか。寝ている人は起こさないで結構ですから。正解は0.1人です。ここの中で心臓の病気、心配していらない方も知るでしょうけど80歳になるまで心配しなしてほとんど死なないから。本日参加の副校長先生は40歳台くらいでしょ、絶対死にません。とはいえないけど、きわめて少ないです。つまり0.01人、一万人に1人です。このことを覚えておいてくれますか。小学生から動脈が沈着始まってもその人が40代で死ぬのは、少なくとも女性は、9998人は死なないということです。わかりますかそれは喫煙です。

東京の23区、大きな寿命の較差があります。長生きな所はどこですか杉並ですか世田谷ですか。足立区は長生きですか、最下位ですいつも。3歳の較差があるとご存知ですか。何故こんなに較差があるか、標高はほとんど同じですよ。人の付合いが最も豊なのは足立区です。これは所得較差です。金持ちが長生きで貧乏が短命です。健康は金で決まります。所得と学歴が強く影響しています。これが現実です。ただ僕が思うのは、こういう事実を区民に知らせていないということがポイントだと思います。足立区に行くたびに言っています、「あんた達あと一年でいいから寿命延びてみなさい」。足立区人口70万居ますから、高齢者は20万人います。高齢者20万人が1年間でもらう年金を全部足すと2000億円になります。所得移転が起っているわけです。どちらが商店街を活性化するか明確でしょう。寝たきりでも地方でも粗大ゴミでも良いから1年間生きていればいいです。そしたら年金が入る、健康作りとは実は町の活性化のポイントです。これを見れば分かります、1人当たりの区民税が低い区ほど最も早く死ぬということ、どこかというと、足立、葛飾、江戸川、荒川、北区です。杉並、世田谷は寿命が長い、それは所得が高いからです。でも最近、足立区は最下位から20番目にアップしました。これは非常に革命的な出来事だと思います。過去半世紀を最下位だった足立区が20番目にアップしたんです。なにもやってこなかったけど他の区に先駆けてやったことはなにか、それは自主グループでした。町を美しく花で飾るグループ、育兒子育てグループ、銭湯に集まって囲碁をするグループ、全部で350あるそうです。あさってその実施グループの発表大会があるんですけど、私も聞きにいますが、本当に楽しい発表をなさいますから機会があったら行ってみて下さい。校長先生が退職前に死ぬ最大の理由は、こういう活動をしていないからだ

と私は思っています。学校のことばかり考えていないで地域の中に一步を踏み出して、地域の友達と一緒にコーラスをしたり、大好きな囲碁をして下さい。大好きな音楽でもやって下さい。そんなのがないとダメになりますよ。これが今日、皆さんに一番にいたいことです。

ただお金があればいいと言うわけではありません。全世界を見たらよくわかりますけど、国民生産が高くなるほど、年間 50 万になるほど寿命が延びる。これはあたりまえです。ただ、年間所得総生産が 100 万をこえたらほとんど寿命が変わりません、ここがポイントです。一定圏の収入はどうしても不可欠ですが、決して大金持ちが長生きでないことを世界のデータからご理解下さい。皆さんも貰っている年間 1000 万の給料で十分ではないかと私は思っています。私だって同じようなものです。でも、収入の少ないキューバとかコスタリカが韓国よりも長いことをご理解下さい。医者を輸出するキューバ、コスタリカ、優れています。犯罪もきわめて少ないです。それは、教育にものすごくお金を掛ける国だからです。

虫歯、東京は全国で最も少ないですけど、やっぱり虫歯が一番多いのも下町です。足立区が一番多いです。ですから、寿命の短いところがどうしても虫歯が多いこともご理解下さい。あとで紹介しますが、歯の主治医がいる人はとても長生きですが、歯間ブラシで結構ですが是非使っていただけますか。歯はきわめて大事な健康維持要因です。

ガンの死亡率が実は東京は増えているんですけども、これはアメリカのデータですが、胃ガンの死亡率がどうしてもあんなに低下したかご存知ですか。何にもしないのに下がったんです。アメリカでも日本と同じように最も多い死亡率は胃ガンだったんですけど、今はほとんどゼロになりました。何で下がったのか話し合ってください。みんな高校の保健体育の教科書を見て下さい、書いてありますから。私が書いたのですが。みなさん教科書開いたことないでしょきっと。「健康の方が絶対に大事ですよ」もっと体育の先生が校長になってください。最近少し増えたそうですけど。これが早期胃ガン、これが進行ガンです。早期胃ガンの原因は何ですか。塩と環境ホルモンとストレスです。ピロリ菌もありますけど環境ホルモンも影響していると思いますが。つまり塩、浸透圧の関係で胃の粘膜を傷つけてびらんが起りますけど。そこにニトロサミンとか環境ホルモンが入ることによって胃ガン細胞ができることをご理解下さい。アメリカは冷凍庫のない時代に食べ物をどう保存したかという、塩漬ともう一つは薫製です。ですからアメリカの国民から冷蔵庫の力で塩漬と薫製が減ったことがアメリカの胃ガンを減らしたといわれています。

アメリカは胃ガンに対して何もやっていませんからね。みんな多分、年に一回胃ガン検診やっているでしょうけど私は一度も受けたことはありません。そんなことをやるよりももっともっと大事なことは、今日から食べる食事をできるだけ薄味で、できるだけ笑って、会話をしながら楽しく食べて下さい。そしてできるだけニトロサミンを、特にこれから秋サンマ出てきますけどできるだけこがさないようにして食べ、大根おろしをいっぱいかけて下さい。発ガン物質のニトロサミンを急激に吸着してくれるのは大根おろしです。そしてビタミン C です。日々の生活こそが人を健康にさせることを学んで下さい。ところが東京の下町を中心に胃ガンと死亡率が去年よりみごとに上がっていますねほとんど。今年上がっている最大の理由は環境ホルモンの影響だと思います。何故かという、と全家庭に冷蔵庫なんかあるからです。ぜひ下町を中心にこういう現象が起っていることをご理解下さい。

みなさん子宮ガンでガン細胞ができて死ぬまでに何年かかるか分かりますか、まだその原因は何でしょうか、10 秒間どうぞ話し合ってください。保健体育の教科書で先生方が使う方にはこのデータ載っていますのでご理解下さい。実はウイルスが原因です。ヒトパピロマイウイルス、しかもガン細胞ができてから殺されるまではほぼ 40 年かかります。どんなに短くても 20 年かかります。これ足し算すると分かりますね。という大事なことはどうですか、もうみなさんは間に合いませんけ

ど体をきれいにしてセックスすることです。と同時に終わった後もきれいにしておく。お願いですから、みなさんもう間に合わないんだから子供に伝えてくれませんか。自分の学校のこと何てどうでもいいからまず自分の子供、とりあえず自分ですよ、自分の家庭をまず豊にしましょう。余裕があったらどんどん伝えていきましょう。みんなの学校でエイズ教育をやっているかどうか知らないけど、東京都ではエイズで一年間何人死ぬんですか。逆に子宮ガンで何万、何千人死ぬんですか。コンドームなんかでセックスしろなんてナンセンスでしょうよ。不特定多数の人とセックスするなら話は別ですが、大事なことはコンドームでなくて体を清潔にすることだということです。そして、みごとに下町を中心に、やっぱり子宮ガンが下がってきた素晴らしいと思っていたのですが最近どんどん増えています。理由は何ですか。私は、セックスの不特定多数化と早くなったことだと思います。低年齢化もですね。学校教育でもっともっと大事なことと思うのは、高校よりも中学、中学よりも小学生だとつくづく思っています。こんなことを勉強したことをみなさんの子供さんがいらしたら是非伝えていただきたい。学校以外でこのような機会があったら先生の方から一声掛けて下さい。東京の寿命は決して長くない。子宮ガンが増えている。もっとバランスの良い食事を取りましょう。セックスの問題もコンドームでもいいですけど是非体を清潔にする情報を提供していただきたい。そして足立区の成功の事例も是非お話し下さい。結婚して家を作る人がいたら寝室の隣にシャワー室をつけておいてください。子宮頸ガン予防住宅といいます。あまりみな笑わないですね。私が作った言葉ですけど。私はこんなこと言っていますけど、こんなこと世界の常識です。嘘だと思えばスウェーデンの輸入住宅とかカナダの輸入住宅の展示場がその辺にありますからよく見て下さい。こうなっているはずですから。だから自分が日々の生活の中で健康を作っていくというコンセプトをもっと広めていってもらいたい。最も影響で大事なものは食事です。どうも最近私が思っている最も大事なものは夢で、夢を持つ人です。子供もそうですが親もそうです。夢を持っている子は望ましい生活を送っています。

最後に、城東地区の死亡率が高いことを紹介します。城東地区下町を中心に、全国の死亡数を100にすると、最も死亡数が少ないのは杉並、世田谷ですけども、どこの年代もものすごく死亡率が少ないんですが、残念ながら下町を中心に30代、40代、50代の死亡率が全国比で4割も5割も多いということをご理解下さい。これが23区の下町を中心に平均寿命がすごい低い最大の理由です。女性もだいたい同じような傾向をとります。ちょっとでこぼこありますが、下町を中心に青少年が多く亡くなっていることをご理解下さい。

いまのは都市部の健康事情を申し上げました。東京の健康が決して高くない話と、小学生、中学生の死亡率が若干高いことと、23区に大きな寿命の格差があること、そして胃ガンと子宮ガンの死亡率が増えていることをご理解頂きたい。

2つ目の話はですね。健康と障害の話をしたと思います。WHOが健康の定義をしたのは古いですね。50年以上前ですが、完全に心と体と社会的にうまくいっていると言ったのが50年以上前です。こんなこと言っていますがどうですか、みなさん完全ですか。そんなわけいかなと思うんですね。必ず歯槽膿漏あります。そして、それが原因で歯が欠ける最大の理由ですので、是非歯間ブラシとか大事にして下さい。私は完全に心と体の社会的に完全にうまくいっているというのは大事ですけど、こんなこといってしまうと、高齢者全員が不健康なんじゃないですか。悪いですけど私達全員歯槽膿漏ありますし、動脈硬化も全員ありますし、ガン細胞だって半分以上もう持っていますからね。半分どころか七割くらいですよ。私も含めて持っていますからね。ゆっくり大きくさせるか、早く大きくさせるかの違いだけです。何が大事かと言ったら、水や空気や食事だけでなく喫煙をしないことです。乙武さんはどうですか、生き生きと生きているんじゃないですかね、完全じゃなくても、そうでしょ。ということで、実はWHOがね、ダイナミクスという言葉とスピ

リチュアルという言葉を追加しました。これは採択こそされませんでしたがとても大事なことです。スピリチュアルというのは生き甲斐で結構だと思います。スピリット、スピリット精神だと言いますけれど、ダイナミクスの方はあまり紹介されていないんですけれども、ダイナミクスというのは難しくなくて、ダイナミックだから大ですね。まあ校長にならなくたって、副校長のまま辞めたってそんなことどうでもいいことだと私は思います。頑張っただけでストレス群になって、胃潰瘍になって死ぬなんてやめてくださいね。いろんな選択肢が多様な方が豊だと思いますがどうでしょうか。とにかく大きく捉えるということです。成績主義で上がったとか上がらないとか細かいことよりは大きく捉える。そして、もっと大事なものは、その時点で見ないで連続時間でものを見ていくということ。

では話し合ってください。校長の管理職試験に落ちたらなにかまずいんですか。ダメですか。みんな家族のおばあちゃんになって認知症になったらダメですか。私小さい頃、ひいおばあちゃんが自分のうちで便をこねている姿をよく覚えています。もちろん家で亡くなっていきまされたけど、そういう人が亡くなっていく姿を家にいながら学習できるという視点ではどうでしょうか。私は良い案だと思います。それからどうですか不登校して何が悪いんですか。不登校になって劇作家になった人いっぱいいるんじゃないですか。この中で不登校になった人誰もいないんですか。私は高校辞めていますけど。もっと笑ってほしいんですけどね。体を大切にすることについてではどうぞ30秒間話し合ってください。ここまで順風満帆に來たんですからね。あともう一步のところまで。校長が最終ゴールですか、なんか全然盛り上がりません。校長になれないと全部ダメだとか、バツイチだとかこだわらないで、たぶんこのなかで離婚して幸せになった人も何組かいるはずですよ。そうでしょ、離婚して清々した人もいっぱいいるんです。もっと長期的な視点でものを見ようという考え、これがダイナミクスです。プライバシーの問題がありますが私の長男ができた婚で結婚したんですけど、実は12月にこの彼女を連れてきて、私の妻はそれを受け入れることができなくて、受容することができなくていたんですけど、そのうち4月に結婚して、8月に子供が生まれました。そしたら態度が豹変しました。これがダイナミクスです。本当です。なんのことはない私達もできた婚で兄弟生んだものですから……。私はじつは厚生省の研究所に勤めていたんですけど、東京都立大学に移ったら、片道二時間半もかかって帰っていたんですけど、夜の大学の教授の授業でたまにしかうちに帰らなかったら、娘は大学受験をやめていました。非常に悪いと思っていますけど、とても残念ですけど結局大学に行かないで通信教育を受けて4年間で大学の通信教育の卒業証書をもらいました。私が一番おいしかったのは年間授業料が12万で、4年間で48万で大学を卒業した私の娘です。大変感謝しています。これもダイナミクスです。その後アメリカに留学してしまったので1000万くらい授業料を取られました。失敗したなと最近は思っています。実は僕は高校辞めているんですけど、実は息子がバスケットが大好きで、小さい頃は野球が大好きで絶対プロ野球の選手になりたいと頑張っていたんですけど、途中からバスケットを始めて、小学校の時に自分で勝手にチームを作って千葉の大会に出たら優勝しちゃったんですね。それからバスケットをやって、いまでも電信柱にバスケットボールをぶつけていた姿を今でも覚えていますね。朝早く起きて練習に行くのはどうしてですか。自分は将来プロ野球の選手になりたいとか、有名な選手になりたいから練習するんだと思いません。わたしは夢が大事だとかつくづくこの子から学びました。高校にバスケットの推薦入学で行っちゃったんですけどわたしは医学部にいったんですけど、結局行かないで高校を辞めてしまいました。バスケットの先生とぶつかったようですね、練習方針をめぐって。目標を失ったと今でも怒ってしまっていて、あまり言うのはまずいんですけど、無免許運転するとかいろいろありました。僕も一応研究職、大学の教員職ですからね。どうも4人で無免許運転したらしいんですけど、私の子供だけ捕まって3人は白バイから逃げたらしいんですけど

ど、事情徴収で絶対に3人の名前を言いませんでしたね。ですから、それは長い時間を掛けておもったんですけど、友達を作る上で大事だったと思っています。今は大丈夫です。よけいなことですけど、だれでも辛い体験とか、失敗とかダメなこといっぱいあると思いますけど、それが全部ダメって発想じゃなくて、大きな視点の時間軸で見ると、そこから学びもありますし、人は必ず成長していくんだらうという。これがダイナミズムです。是非この考え方を高校の中でも取り入れていただきたいと思います。少なくとも長期的な視点で、時間軸で見ればそこには意味があるという話です。

私は学校の不登校なんてのは、心の優しいことだと個人的に思っています。それは決して悪いことだと思いません。だったら検定試験もできるでしょうし、単位を取ることも大学受験検定もできるわけです。いろんな道があるわけですから自分にとってもっとも優れた方法を指定して上げたらどうでしょうか。スピリチュアル、これは楽しく生きようって事です。基本的には。これには理論と研究の基盤の2つがありまして、前向きに生きる人は長生きで、それから主観的な健康感が高い人は長生きです。忙しい人には面倒でしょうけど、こんど図書館に「健康な謎を解く」という本があったらお読み下さい。これは東大の山崎先生が翻訳したものです。私が言ったダイナミクスのことが書いてあります。

それから、私がみなさん健康ですかと聞いたらなんと答えますか。健康ですか。自分が健康だと思いますか。健康ではないと答えた人は大体10年くらい経つと半分の人が死んでしまいます。自分が健康だと思っている人で10年間で死ぬのは5、6%ですね。ほとんど死にません。前向きに生きる。難しくありません。ちょうど50歳、みんなの世代ですね。50歳の660人を追っかけたんですね。前向きに生きているか、後ろ向きに生きているか調べて。それで後ろ向きの人はほとんど死んじゃったわけですけど、しょうがないですね。みなさん年を取ることは良いですか、悪いですか。年をとったっていいじゃない、豊かに生きられますよ。若いんだよ、十分幸せだよ。と思える人と、思えない人がいますから。それを追っかけたら何が分かったかというと、前向きに生きている人は大体7.5年長生きすることがわかった。血压とかコレステロールとかせいぜい4年ですからね。どちらが大事か、私は余裕を持って前向きに生きることだと思います。何とか頑張って管理職試験に落ちこちてほしいもちろん合格して、なにより頑張った自分をほめて上げる。自分でもほめるんだけど家族にもほめて貰う同時進行。いずれにしてもスピリチュアルという言葉とダイナミクスという言葉は提案していますので、高校の保健体育の教科書にも少し載っていますのでご覧下さい。わたしはダイナミクスの方が大事だと思っています。ここまでが二つめの話です。前向きに生きること物事を大きくとらえるという考え方を提案する。これがポイントです。

とにかく早く死なないことが大切ですけど、寝たきりで長く生きるよりは元気で長く生きる。これをピンピンコロリといいますけど、こっちはネンネンコロリといいます。私の父は52歳で死んでしまいました。私の父は大工だったんですけど、建築だったんですが、私も工業高校の建築だったのですが、理由があったので高校を辞めたのですが、辞めた理由は簡単です。誰かが書いた製図をどれだけきれいに写すことができるかが優秀の物差しだったのですが、私がそれを氣にくわなかっただけです。すごい反対されたんですけど自分で辞めました。大学にいこうと思って普通高校に入り直したら親父が死んでしまいました。突然その時思ったことは絶対医者になってやろうと思いました。それはなんで親父が早く死んだのかの理由が全く分からなかったと思いますけれど。実は僕は親父が死ななかったらこんなに勉強することはなかったと思いますね。いろいろ勉強しましたが一番勉強になったのはWHOの研修が一番勉強になりました。英国留学のとき一番印象的だったのは大学院の教授は私と同じようにほとんど病院とか勤務経験者でした。つまり現場経験者が大学の教員になっていた。実は厚生省にいたんですけど文部省の中にも見ていました。文部省の中には

学校の校長先生は誰もいませんね。現場のことをしっかり分かっている人は局内で誰もいませんよね、課長も勿論局長もいませんよね。こんなので日本の教育は本当にうまくいきますか。私はそう思いませんが、ということは何でみなさんおっしゃらないんですか。私はでは迫力ないですから。現場でしっかりあった人が大学院の教授になるということです。日本も同じですけど日本の教授はほとんど大学を出て大学院を出て、そのまま助手になって教授になっていく。これが日本の特徴ですけども、世界は違います。世界は現場でも学んだことをベースにして蓄積して、それを大学で研究していく。これが世界の大学の姿です。これからだんだんそういう方向になると思いますので、是非そんな発想でみなさん今日の午後の研修会なんかもつづけてもらえたらと思います。「学べの学は現場で学べ」です。ディスクワークだけで学べるわけではありません。是非高校の保健体育の教科書をご覧ください。今日は資料がありませんけど HP で生涯元気で私の HP がでてきますけど。今日の話のいくつかはダウンロードになっています。今日の PP のいくつかはダウンロードできるようにこれから努力しますから、資料が欲しいという人がいましたらダウンロードしてみてください。

それから障がいという言葉はなかなかいいません。こんな話を簡単にしますが、障がいの定義ではなくなりました。障がいの定義ではなくて、全ての人にあてはまる国際生活機能ができたという話です。この分類の大事なところはですね。障がいという言葉がなくなったことです。障がいの定義ではなくて、機能、ファンクションデミオートです。生活機能デミオートです。更にここでも重要なことは、この参加と、環境です。環境因子を大事にするということ、本人の主体性の参加です。ではこれから目が悪いとか、足が悪いとか頭が悪いとか言葉を使うのはやめてください。悪いとかはやめてくださいという話です。目が悪いというのをなんと言いますか。そうです視力は低下で結構です。支援環境はというと大げさですけど眼鏡です。目が悪い足が悪いなんて絶対にいいません。脚力が低下すると言ってお下さい。車椅子でも杖でも結構です。頭が悪い何て絶対に言わないで下さい。知能が低下していると言ってお下さい。これはしょうがないですから。私は昔の寺子屋が素晴らしいと思うのは、この子は学問に向くのか、この子は商業に向くのか、この子は落語家がいいのか、この子は農業がいいのか、とうようにその子供の長所のことをですね、選び出してきたと言ったことが素晴らしいと思います。別に学問だけが、共通一次だけの力が人間を幸せにするとは思いません。どうぞ人の良いところを探したらどうでしょうか。それに指導という言葉もやめてください。もちろん教育庁はあなたの言葉から学ぶ姿勢が大事だし、文科省は現場から学ぶ姿勢も大事だし、もちろん医者は患者から学ぶ姿勢が絶対大事だし、親は子供から学ぶ姿勢が大事。指導とも決別です。支援をする。サポートをするんですけども、どういうサポートをすれば人が豊かに生きるか。こうれを学べる方法論、これが最も遅れているのは日本だと思います。是非子供らが成長する話とエンパワメントとかプロセスを大事にする。こんなのが世界の子供達スタンダード、世界の潮流であることをご理解いただきたい。これが2つ目の話です。

3つ目はですね、子供の健康が大事にされる背景の話をしたとおもいます。なぜ子供の健康作りかという理由は簡単です。煙草をやめたり病気を治したり体重をコントロールしたら死亡率下がるんですか。どうですか、当たり前ですけど煙草飲んで、血圧高くて、コレステロールやたら高くて運動を全くしない大デブが早く死ぬのは確実です。小デブは長生きです。ではそういうものすごく大デブで血圧がめっちゃ高くて何もしないような人が運動して煙草をやめて体重をコントロールするようにしたという研究です。35万人の中からハイリスクで1万人選び出して、半分を教育し、半分をほったらかしにした。保健体育の教科書に出ているから見て下さい。行動変容はみごとに成功しました。煙草もやめるし、体重も下がる、コレステロールも下がるし運動もするようになりました。つまり試みは成功したんです。それでは死亡率は、行動関与した人の方が7年後には増加します。結構太りのひといますけど痩せる必要全くありません。つまり、好ましい生活習慣で

長生きすることは事実ですが、好ましくないめちゃくちゃな人が行動変容したら長く生きるというデータは今のところ世界にはありません。だから行動変容しなくてすむ子供を作る学校の健康作り、ないし家庭のファミリーケースが大事にされてきたということをご理解下さい。このデータはあまり紹介されていませんが、400 億円という研究費を掛けたアメリカの研究です。400 億円の価値がありますからね。そういう意味では、もっともっと住民が力を付ける。子供が力を付ける。もちろん教育でもって学校の先生も力を付ける。これをエンパワメントといいます。それで何でもないですけど育児力という言葉は私が作った言葉ですけども fairly-development という概念です。世界ではこういう言葉が使われています。そして、なんてったって育児を楽しむ権利がある。育児をしないのはパパとは呼ばない、育児は義務ではありません。みなさん、今日うちに帰ったら子供と遊んでください、親父に子供と遊んでもらうことだと私は思います。そして何よりもほめてあげたり、共に楽しんだり、することが大事なのではないかと考えています。猫でも飼って下さい。頭が疲れた人は首でも回して下さい。何でもそうですけど、例えば腕なんかですね、今日ギブスをはめて明日起きたら動きませんからね、ホントです。大変です動かすのが、だから動かさないとダメなんです体は。

2005 年に教育庁が首都大学東京の私達と一緒に共同研究をさせていただきました。高校生の健康作りの支援の為の基礎調査という位置づけでした。もちろん目的は、喫煙とか、薬物とか飲酒とか性行動に関する、いわゆる健康危機行動がどのくらいあるか実態を把握すること。私はこんな実態なんて把握したって何にもならないと言いました。大事なものは、どういうファクターが煙草に走らせるのか、どういう要因が薬物に手を出させてしまうのかの関係性を分析できなかつたら意味がないだろうとお話ししました。それでご覧下さい、なんと回収率が 49% ですね。研究主旨が理解されていない証拠だと私は言いましたけど、もっと笑って下さいみなさん。ただ、是非ご理解いただきたいのはこういうデータをこんな結果でしたでは意味がない。こういうファクターで子供は煙草に手を出すんだよと言うデータを還元する努力をしてきたかといわれたら、してこなかったからこの結果だと思います。お互いのいい信頼関係を作っていないと、いい調査はできないと思います。5 割しか回収率がないというのはやっぱり本質は掴めていません。今後同じ調査をするようなことがあったら是非みなさん共同させて下さい。そして、必ずデータを還元させてもらって、みなさんに還元だけでなく、子供達にデータを還元して下さい。それで今後の健康教育の教材に是非使っていただきたい。

いろんな調査を出してもらいましたがこんな報告書がありますから詳しくはごらんいただくとして、現在の健康をどう思っているかについてで、これは子供達で、これはお父さんお母さんです。これが男子の高校生、これは女子の高校生という意味です。とても健康だという子供達は大体 3 割近く思っているようですけど、お父さんお母さんが自分の子供を健康だと思っているのは 5 割くらいですけど、お父さんお母さんが思っているほど子供達は健康だといっていない。こんなギャップが私にとってはとても面白いですね。こっちはお父さんお母さんに聞いた自分の子供達の健康状態をどう思っていますかと、これは「あなたは健康だと思いますか」と子供達に直接聞いたものです。これを見ると健康じゃないというのが 5、6% いるというのがとても印象的でした。そのほか、これは将来つきたい職業ですけど、子供はだいたい 5 割位ありますね。ところがお父さんお母さんに聞いたあなたのお子さんは将来つきたい職業は決まってるそうですかと聞いたら、決まっているというのが 2 割くらいでした。つまりお父さんお母さんはそんなに子供の将来つきたい職業を理解しているとは限らない、そのギャップがあることが分かりました。これはこれで意味があると思います。

これは自分の体重のことですけども、これが男の子、これが女の子です。それで下が肥満度で

す。これで見ると、赤いのが自分の体重をもっと減らしたい割合です。男の子を見てみますと、体重が増えるにしたがって痩せたいというのが増えている。これは当たり前ですね。ところがご覧下さい、女の子はBMIが19以下の子ですらだいたい6割、7割、8割で痩せたいと言っている。こんなものすごく問題だと思いますがどうでしょうか。これから赤ちゃん生むんですよ。これから豊かな生活を送る為に大事なのはこんなに痩せていいんでしょうかという感じでした。どうですか、痩せと肥満を比べるとどっちが死亡しやすいのかどうですか。太っている方が死にやすいという人は手を上げて下さい。いないですか。痩せている方が早く死ぬというひと、ご存知なんですね、うれしいです。太ってる人、BMI35の人とか結構死ぬのは確かですけど最も死ぬのは痩せです。子供に絶対伝えて下さいね。軽いのは死ぬ典型です。死ぬのは本当にBMI35以上ですから、これは多摩市の高齢者1万3000人を3年間かけた研究です。BMIです。これは男が青い方で、女が赤い方です。どっちが早く死にますか、ダントツ痩せですよ。特に男性はBMI27すぎても関係ないね。女性は若干増えますけど。でも最も死なないのは、覚えておいて下さい、BMIが23~25ですからね。男性の方はみなさんのように小太りになることです。自信を持っていただきたい。私達の国に肥満が多いと思う手を上げて下さい。わたしたちの国に肥満は0.3%しかいません。アメリカは8%くらいいます。ロシアとかイギリス、アメリカ行けばよく分かりますが、小錦みたいな人が山のようにいます。日本にそんな人極々わずかししかいません。大事なのはBMI19を切ってしまうのが多いと言うことです、日本の場合は。私達に肥満の人はほとんどいません。ただごらんのように1950年代から比べたら男の人はどんどん太ってきましたね。ただ、女性の20代や30代は必ずしもそうではない、特に20代はどんどん痩せの方向ですね。1950年代、戦後まもなくですけど、だいたいほとんどの人が21とか22でした。今、平均するとだいたいほとんどの人が24くらいです。つまり肥満の人間が増えたのは事実です。では死亡率はどうですか、死亡率減ったと思う人、では増えたと思う人、全然手が上がらないですね。どっちですか。死亡率は1950年代から見たら確実に減ってきました。今の原因ですか死亡の、関係ないんです。日本の死亡率が下がった大きな理由は太ってきたからです。小太りが長生きだというのは覚えておいて。私達の国の死亡率は低下し続けています。何よりもBMI19切ったらモデルをすることができません。これが世界の常識です。女子高校生にこのことをもっと伝えてくださいませんか、これから子供生むんですよ。これから子供生むだけでなく、これから豊かな生活送るんですよ。山に入って遭難して生残るのは、心臓のしっかりした脂肪のある女性だけです。なんでみんな分からないのかね。自分の健康より子供の元気、だいたいみなさんこれから何年くらい生きる予定ですか、計算してみましょう。

一番危ないのは校長先生です。何で危ないのか話し合ってください、一分間どうぞ。なんか全然盛り上がらないな、どうしてだろ。もちろん校長先生だって終わった後豊かに生きている人だって山のようにいますけど、これを見ると管理職ばかりのひとが結構早く死んでいるのも事実です。私も保健所にいましたからそれはよく分かります。私はこう思っています。プライドが邪魔をして地域にデビューできないこと。それから自分の喜びが無くなってしまうことではないでしょうか。校長の仕事が終わっても何かの役割を残して上げたらどうでしょうか、事務局長でも結構だと思います。ポストが一つしかありませんけど。

あと何年生きるか計算しますけど、何歳まで生きる予定か話し合ってください、どうぞ。後で言いますけど、大体90歳まで生きれば年金1億円なんです。校長になるとかならないとかどうでもいいですからね。退職金が多いとか少ないとか言っていないで、すぐ死んじゃったら年金ゼロですから。年金300万貰えるんですよ、みなさんなら300万、30年で1億円でしょ、奥さんと一緒に貰ったら15年で1億円ですよ。だから旦那を殺さないで下さいね、奥さんね。寝たきりでも痴呆でもどうでもいい、どうでもいいから生かしておくこと、これが豊かに生きる方法です。海外旅行行こうよ、

孫にお小遣いあげようよ、という人生の方が大事だと私は思う。どうぞ 90 才まで生きて下さい。ただ最後の 90 才で年金 1 億円は忘れて下さいね。どっちがいいですかね。死んじゃうのがいいと思いますか。これはコロッと死ぬのが最良ですね。脳血管症はどうでしょうか、寝たきりになりますから。心臓病は家族と話す余裕あるんですけど脳血管症はありませんから、家族にありがとうと言って死んでってください。あとはドンチャン騒ぎになりますから。その年齢を 60 とか 65 にしないで 90 にして下さい。それが今日の質問です。ガンで死にたい人はどれくらいいますか、さすが東京ですね、多いです。ガンの一番良いところはいつ死ぬか分かるところです。ただ痛みを十分コントロールして死んで下さい。それだけで十分豊に生きられます。私はガンで死にたいと思っています。みんな手を上げないですね、死なないうつもりでいるんですね。死ぬんですよ全員。いま何歳まで生きるか計算ができます。教科書に書いてありますから見て下さい。睡眠時間が大事です。深く眠ることが大事で、長さではありませんので疲れたら居眠りして下さい。今日も居眠りしている人何名かいますけど結構です。それから、朝どんなに時間が無くて牛乳一杯だけでも飲んでいて下さい。牛乳一杯で十分です。とにかく血糖値が下がってしまうので注意力が散漫になります。怪我しやすくなりますので、血糖値を下げないためにもなんでもいいですから体に入れておいて下さい。僕は牛乳一杯でいいと思います。とにかく時間が無くて何か食べていて下さい。そして、しつこいようですが小太りが長生きです。運動も何でもいい、私は歩くことでも良いと思います。お酒、ちょっと飲んでいる人が長生きですから今日から晩酌です。楽しく飲んで下さいね。1 人で飲むのはやめてください、友達と一緒に楽しく飲んで下さい。それから酒の量、1 日 1~2 合のように飲んで下さい。最近の研究ではアルコール類はほんの少しでも健康にとって害のあることが明確になりました。ですが私は絶対にやめません。煙草は明確ですね。吸わない人が長生きです。さあ、これ七つあるんですけど幾つ守っていますか。実際完璧な人なんていませんからね。いいですか、保健体育の教科書で見て下さい。よく見て、これが一番大事なんですけど、ほとんど守っていない人が自分が 45 歳になったらあと 21 年生きられます。ということは足し算して 66.6 まで生きる。ということは、年金 1 年半で死ぬと、だけどこれをしっかり守っている人は 33 年生きるわけです。ということは較差 11 年あります。年金に換算すると 3300 万得するか、損するかです。校長になって管理職になって、人を管理して結局自分が早く死んでしまうようなことにならないでください。もっと覚えて欲しいのはこのデータがあったから年金開始が 65 になったと分かりますか。男性の 2 割、3 割は年金をもらわないで死んでいく。いいですか、国はしたたかなんだからね。僕は厚生労働省にいたんです。

この中で最も大事なものはどれですか。煙草を飲まないことです。そして食事です、特に大事なものはそれが世界の常識です。運動、栄養、休養と嘘をついたのは日本です。今、日本の男性の平均寿命が世界第 4 位になったのをしていますか。アイスランドに抜かれ、スイスに抜かれ、4 位です。いずれカナダにも抜かれますね。喫煙対策を一番早く始めたのはアイスランドです。煙草の自動販売機を撤去して、煙草一箱の値段が千円です。最も健康を害するのは喫煙だと覚えておいて下さい。ところが今回の調査で分かったのは、始めて煙草を吸ったのはいつですかといたら、なんと小学生ですね 3 割くらいは。煙草の教育はなんとなく幼稚園からかなという気がします。わたしはお願いだから煙草の教育を家庭でやってもらいたいと思います。クモーキンキル。シンガポールの表示内容です。スモーキンキャンキル、カナダの健康表示です。奇形児が生まれます。子供が白血病になります。と早くから喫煙対策を始めたアイスランドが今世界第 1 位です。女性もいますけど化粧なんてしている場合じゃないとおもいます。これ 2 人に 1 人だそうです。喉頭ガンでもまだ吸っています。指がちょん切れてもまだ吸っています。煙草をやめられない理由はニコチン中毒ではありません。麻薬だからです。この中に吸っている方いると思いますけど麻薬ですからね。だ

から煙草を吸っている人が悪いのではなくて、やっぱり吸わせてしまった環境があるわけです。私達が小さい頃はほとんど情報がありませんでしたからね。私の親父が早く死んだもの喫煙の影響だと思っています。大腸ガンのために大事なことは野菜を一杯取ることです。野菜取っていますか。葛飾の保健所に勤めていたんですけど、住民の言葉、「簡単だよ、みそ汁に箸が立てばいいんだ」といいました。これ素晴らしいことだと思いませんか。フィンランドの小学校に行って非常に印象的だったのは、バイキングで食事をしていました。それで最後に栄養士だと思うんですけど、ワンポイントアドバイスをしていました。にんじんが嫌だったらカボチャですよとか、肉が嫌だったら魚にするとか選択です。同じようなところで高齢者が来ていて一緒にバイキングで食事をしていましたけど、ぜひ学校教育で給食をもう少し教育の面からとらえていただくのはどうでしょうか。みそ汁に箸が立つことがあると言いましたけど。いっぱい笑っていただいて、みんなのガン細胞をやっつけるナチュラルキラー細胞が一個でも増えたかもしれません。それから野菜がいっぱい取れたかどうかは自分の判断でできます。これらやってください、朝昼晩と野菜を取っていると便が上にズーと浮いていきますので、こんどチェックしてみてください。

実は発ガン物質は自分の肝臓が作っています。これ、胆嚢に貯めているんですけど、発ガン物質は自分で作っているんですからね。だけど、野菜をしっかり取っていれば、野菜の繊維が吸着してくれることはわかっています。どうぞ野菜を取る理由を子供達に伝えて下さい。それがガン予防です。もちろん便秘も予防できます。さっきも言いましたが、これはアメリカ人 100 万人を追っかけたデータですが、確かに太ると少しは死にますけど、痩せの方がいっぱい死にますし、一番死なないのはみなさんのように BMI24 の小太りだということを今日覚えて下さい。なんで 24 なんて嘘をつくんですか、22 かな最近、20 になったら早く死ぬからね。死なないのは 24、25 です。みなさんコレステロールいくつありますか。コレステロール高い方が死なないよ。ただ、あまり高いと心臓病で死にやすけど低い方がいっぱいがんで死にます。じゃあ葛飾区と足立区と杉並、世田谷どっちがコレステロール高いんですか。明確でしょ、杉並、世田谷の方が高いに決まっています。つまり大切なのは、コレステロールってのはみんな悪者にしますがとんでもない、肌材料ですし、ビタミン D の材料です。だから、コレステロールが増えたから、小太りになったから腰が曲がらなくなった。小学生の頃思い出してみてください。どうですか、60 歳のおばあちゃんどんな格好していましたか、ほとんど腰曲りだったとだったと思いますよ。私、小学校一年生の時に母親にどうしておばあちゃんは地べたを舐めるように歩くんだと質問したんですけど、私は質問したことを覚えていないんですけど怒られたことはしっかり覚えています。私はまだそのイメージが残っています。おばあちゃんが地べたを舐める様に歩いている姿を、どうですか今そんな 60 歳いますか。60 歳後ろから見てください。20 歳に見えますから。何で座高測るかわかりますか、なんで厚生省ができたか分かりますか。厚生省ができた理由は陸軍大臣の要請でできたんです。もう座高測らなくていいと通達が来たんだから測るのを止めて下さい。人が早く死ぬ最も重要なポイントは戦争です。当り前のことです。大事なことは太っていても痩せていても、勉強できなくても人間として存在を認めていく発想でないと。そして、もっと大事なのはこれから一年間風邪引かなければいいんですけど、大事なことは手を洗うこと、うがいをすることです。そして、タンパク質を取ることです。今日も医学の学会誌を読んできたんですけど、日本の寿命が延びたのは医療の発達によると書いてあったんですけど全くの嘘ですね。だって今、みなさんが一番長生きですから。そして、薬を使ったから死亡が減ったのではなくて、死亡率が下がったから薬を使ったんです。風邪薬とかいっぱいありますけど風邪薬なんて全く効きませんからね。飲まないで下さい。熱が出るって事はウィルスに対する抗体を一生懸命作っているということですからね。何で熱さますんですか、作るのを止めろと言っているようなものですよ。ただ、40 度の熱はちょっとつらいから、あんまり咳き込むとつ

らいですから飲んで良いと思いますけど。みんなご存知ですか、世界のタミフルの何割を日本が消費しているか。日本は8割消費しているんですよ。高血圧の薬の5割を日本は消費しているんですよ。この中に血圧の薬飲んでいる人いっぱいいると思いますが、180mmhgと低い方が110mmhgを超えなければ薬は出せない。これが世界の常識です。医療の果たす役割はただか10%だということも覚えておいて下さい。

それから、最近煙草を吸ったことのある子供結構多いですね。10%、これ自己申告です。お父さん母さんから見たら2割、3割吸っていますね。特に女の子、女子高校生が吸っていることが分かりました。これは親の申告です。どちらが本当か、私は親の方が本当じゃないかと思います。お願いですからこれから子供を産む高校生の女子、もちろん煙草によって精子が傷つけられることがありますからね。男の子も大事ですけど女の子は大事ですからね、伝えて頂きたい。それからお酒に限っては大体同時に飲んでいきますね。ただ、お父さんお母さんが分からないのは外で飲んでいるからだと思います。でも煙草は家の中できつと飲んでいるんでしょうね。こんな事も報告書に載っていますのでご理解下さい。私達はこんなデータを幾ら蓄積しても何にもならないと思います。何にもならないかどうかは分からないけど、去年よりも増えたのか減ったのかが分かるだけ、本質が分かりますかね。分かるわけない。そうじゃなくて、大事なことは、何が、どういうファクターが煙草の健康危機行動、アルコール因子の健康危機行動に走らせるかの仮説を立証しないといけないんです。それは親から愛されていないからなのか、学校教育の問題なのか、それとも学校の先生との信頼関係なのか、仲間の影響力なのかということ勝手に数値を書いたのが仮説ですけど、私はこういう事が大きく影響するのではないかと仮説を立てて、この調査を分析させていただきました。当たり前ですけど煙草とお酒に手を出す子供が薬物に手を出しやすいということが分かりました。だけど、決定係数が13%、つまり87%が他の要因で決まっているということなので、これで説明できるのは13%しかありませんが、ただ酒、煙草に手を出すことが結果的には薬物に繋がりやすいということは確かです。ということが分かりました。同じように今度は、健康支援環境、つまりお父さんお母さんとか学校のサポートがしっかりあると、これはマイナスですから、煙草を飲まない、アルコールを飲まない方向に影響することが分かりましたが、残念ながら7%の力しかありませんでした。ということは、残り93%は別の他の力が影響しているということです。だから、あまり学校での健康教育、禁煙教育をやったところでそんなに大きな影響力がないだろうというのが私達の見いだしたことです。結局ですね、これがとても大事なことだと思いますけど、豊かな学校生活というのは学校が楽しいとか、夢があるとか、自分の将来職業とかが明確だとか、こういうことがしっかりしていれば煙草にも手を出さないし薬物にも手を出さないということが分かりました。逆に薬物なんか手を出さなければ、煙草にも手を出さないということがわかります。ということなので、この三者は今の関係性を持っているという事がわかりました。ただ残念なのが、決定係数が16%なのでそんなに大きい説明力があるわけではありませんでした。

最後にこのポイントが大事でして、結局、学校が楽しいとか将来の夢があるとかということですけど、いわゆる充実した学校生活が何によって規定されるかを分析しましたら、一番大切なのは、自分が大好きで、この支援というのが親子の会話でした。自分が大好きで、親としっかり会話している子供達は、煙草にも手を出さないし、悩みも少ないですけど一番大切なのは充実した学校生活を送っているということがわかりました。この決定係数は60%なので、とても大きいファクターでした。ただ分析してみたんですけど、学校の先生との信頼関係性が影響することはありませんでした。そんなのは報告書には書いてありません。今日だけ発表しました。だって一生懸命分析したんですよ。いずれにしても、特に先生との交流が子供達に影響がないということが見えてきました。なので、子供達が夢を持って生きるということを支援していただきたいと思います。

他にネンネンコロリの研究をしまして、より長く生きられるのは PPK だと私は考えています。そのポイントは口紅の身だしなみだというのが結論です。それで全国の 16 の市町村、北海道から九州まで、この地域住んでいる高齢者の方に調査をさせていただいて、いま追跡をしています。買い物に行くと長生きですかみなさん、買い物に行く人はほとんど死なないからね。市役所から弁当貰って喜んでいる人 2 年間では 2 割ほど死んでしまいます。弁当配れば配るほど人は死ぬ。弁当配るのは良いけどどこかで集まって食べればいいんです。それから健康だと思っていう人は長生きです。これどういう事かということ、みなさん健康ですかと聞きますけどどうですか。「健康ですかと聞いたらですね」俺は健康だと思っている人は 2 万人で死んだのは 20 人でした。1000 人に 1 人しか死なない。2 年間で 1000 人に 1 人ですよ。それに対して、健康じゃないと思っている人は 340 人死んでしまいました。もちろん健康じゃないと言っている人は、病気があったりいろいろ理由があることは確かですけど、主観的な健康観が大事だということ。つまり、世界の研究でも明らかになっていましたけど私達の研究でも全く同じでした。健康だと思う人は長生きです。

これはどうですか、「妻は夫が死ぬと長生きだと思う人。」なんで知っているんですかね。女の人は影響がないことはないですけど、旦那が死んだらちょっと死にますけど、男性は奥さんが死ぬとすぐ死んじゃいますね。この傾きの違いを見て下さい。分かったことは、男は妻が死ぬとコロッといくけど、女は大丈夫だということが分かりました。私の母は 88 になりました。会津で独りで住んでいるんですが、ボケが心配ですけど親父が死んだとたんに元気になりましたね。結核で寝てばかりいたんですけど。ただボケがちょっと心配ですね。子供達に書道を教えていまして、これがまあボケ防止かなと思っています。書道を教えていてすごく生き生きしていると前から分かっていたんですけど、私は母が生き生きしているにつくづく思ったのは月謝袋を回収しているときでした。やっぱり金だということがわかりました。私の仕送りよりも自分で稼いだ金の方が価値があるんだと思いますね。これはどうですか、ペット飼っているという人は長生きだという人。うれしいですね絶対にペットは大切です。お願いですからペット飼って下さい、ほとんど死なないですよ。これ死ねないんだと思いますね、ペットのために。ホントそう思います。どうですか校長辞めたらペット飼って下さいね。今からでもいいですけど。犬のおかげで足腰が丈夫だと思って下さいね。犬のための散歩でなく自分のためだと思います。特に男の人は飼って下さい。それで余裕があったら NPO でも作って野良猫くばる NPO を作っていただきたい、きっと自分のためになると思うんです。これどうですか、「嫁に財布を渡さない元気だという人」これは多いですねうれしいですね。実は外に出ると長生きですから、どういうファクターが外に出すかとやってみたて分かったことは財布でした。結局ですね、預貯金の出し入れがしっかりできるひとが外に出ることが分かりました。ミニバスの影響はほとんどありません。大事なことは、忘れないで下さい、毎日外出する人はほとんど死なないけど、ほとんど外出しない人は 3 年間でだいたい 3 割死んじゃいます。6 年間追っかけましたけどだいたい 5 割死んじやいました。血圧が高いとか低いとかほとんど差は無いからね。大事なことは前向きに生きること、外に出ること、人に会うこと、大好きなコンサートに行くことです。ほぼ間違えないです。嫁に財布を渡さない大丈夫です。これが提案です。猫でも飼って下さい。これ研究費が大変なんですよ。もちろん国から貰ったお金ですから住民に還元する義務があります。ホームページをご覧ください。これが一億円のまとめです。みなさんに一番に言いたいことはですね、役割を是非いろんな形で持っていただきたい。校長という役割があったとしても、楽しく過ごしていただきたい。これから新しく校長になるひとに、是非子供達をサポートいただきたい。是非来て下さいといわれる校長先生になる方が自分のために幸せだと思います。

最後に、高齢者の足腰が丈夫だということは大事なことだと私は思いますけど、どっちが卵でどっちが鶏でしょうね。足腰が健康だから元気なのか、健康だといっているから 3 年後に足腰が丈夫

なのか、これどっちですか。赤とグリーンと比べるとどうですか。赤だと思ふ人、グリーンだと思ふ人、グリーンですかうれしいですね、正解はグリーンなんですよ。実は多摩市の高齢者に二回調査させてもらって、1回目も2回目も答えてくれたのは8,500人でした。俺は健康だという人は3年後も足は丈夫でした。三年前に足腰が丈夫だった人が健康だと言っているわけではないことがわかりました。これ世界で初めて明らかになった研究です。夢でした、高校生も夢でしたけど、少なくとも高齢者は夢でした。たぶん私達も夢だと思います。どうぞ夢思っ生きておじいちゃんおばあちゃんいましたらお伝え下さい。今から孫が大学卒業するまで絶対死ねないね。もちろん結婚式には絶対出たい、という夢を持っている方が私は豊かに生きているし、足腰も元気なんだと思います。けっしてパワーリハビリ教室にいて、機械で筋力をつけることが大事だとは思いません。大事なことは、野菜を作って泥だらけの野菜を息子のために送ってあげる。そういうおばあちゃんの思いが人を元気にさせるようにおもいます。実は人が元気に豊に生きる方法をWHOはこう報告しています。医療も大事ですけど教育です、だれがなんといっても。バリアフリーも大事です住居も大事です。働きすぎないこと大事だからね。大事なことは自分に豊に生きましょうよ。そして農業なんかも大事なんです。これはWHOが言っていることです。

一昨年韓国で世界会議があって、私初めて世界会議で基調講演しました。WHOはこんなことっているけどホントに大事なのは、口紅、化粧、身だしなみではなく、嫁に財布を渡さないことと、歯の主治医を持つことと、夢だと言ってきました。こんな事が私が世界に発表した内容です。実は18歳の犬が死んじゃったんですけど2年間ぼけてどうしようもなかったんですけど猫を拾ってきて初めての日から少しずつボケが治ってきました。いつも一緒に寝ていたんですけど、死ぬ2日間だけ猫が重なって寝ていたのが印象的でした。動物も同じで役目があれば元気に生きられます。人間も犬も役割を持つことだと思います。WHOの会議で私に最も拍手が多かったのが犬の話です。

今日のまとめになるんですけど、大事なことは所得の再配分を適正にすること。めちゃくちゃな大金持ちを作るのではなくて、一定の収入が大事だ。そして水も空気も大事ですね。私はみみず、蛭が大事だと思うんですけど。それから労働、好ましい生活習慣、安心ももちろん大事です。そして住民がもっと参加して、もっと授業生徒、PTAが参加した健康な学校作りをして下さいね。そして、感謝する気持ち。生きているという幸せを感じることもとても大事だと、もちろん東洋医学も大事です。既存の環境整備をどうぞ作って下さい。そして結果的に長生きをし、年金一億円を貰える秘訣だと思います。歯の主治医がいる人はなかなか死なないことがわかりました。薬に依存しないで下さいね。

皆さん楽しく頑張って下さい。

(文責 事務局)

新しい健康づくり

首都大学東京・大学院
星 旦二

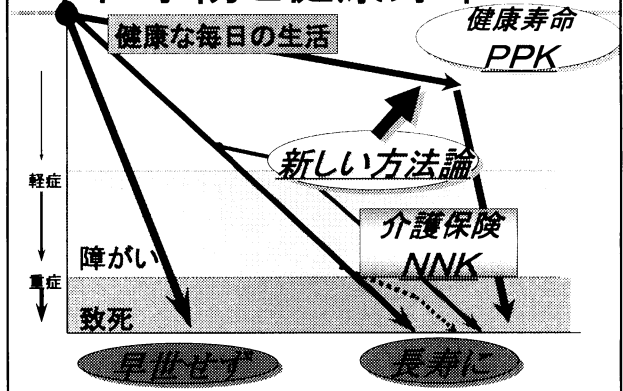
事前質問・正解に○をつけて

1. 東京都の平均寿命は、男性20位、女性33位だ
2. 足立区と杉並区の平均寿命には、三歳の較差がある
3. 長野県が長寿なのは、医療整備が遅れたからだ
4. 前向きに生きている人の方が、7.5年長寿だ
5. 外出しない高齢者、三年後には約三割が死亡する
6. 総コレステロールが高い人(250mg/dl)が長生きだ
7. 小肥りの人(BMI24)が長生きだ
8. 先進国では、東洋医学が大いに活用されている
9. 歯科の主治医がいる方が、いない人より長生きだ
10. 充実した高校生活には、自己肯定感と親との会話大事

話題提供・項目

- WHO・新しい健康概念提案
- 健康規程要因
- なぜ長野県は長寿なのか
- 生涯現役研究
- 世界の健康支援動向

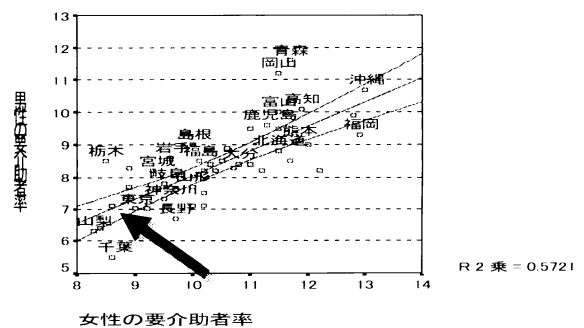
早世予防と健康寿命



健康長寿県は

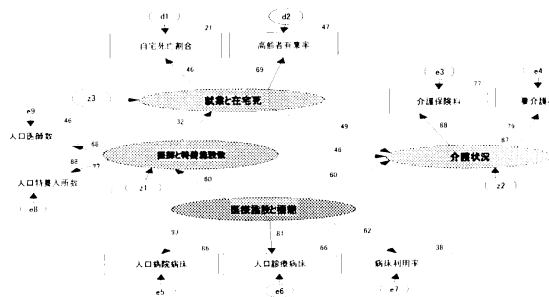
- PPK県?
- NNK県?

都道府県別・要介護者の割合・1995



男女とも要介護率が少ない東京都、長野県

特別養護老人ホームを入れると
介護状況の決定係数は、87%



AGFI=0.713 NFI=0.808 RMSEA=0.141
CMIN=42.093 P=0.008

要介護規定要因は、
人口あたりの病床数、
介護施設が多く
高齢者の就労少なく、
所得低い県である傾向
が示唆される: 研究背景

あたらしい方法論

-
-
-
-
-
-

WHO 1991

- ヘルスプロモーションと
エンパワーメント
- 児童生徒も
 - 住民も
 - 専門家も
 - 力を付ける

子育て育自分

- 褒める
- 共に楽しむ
- 絶対に信じる
- 共に成長する

Health 1946 WHO

*Health is a state of
complete physical,
mental and social
well-being and not
merely the absence of
disease or infirmity*

1999・WHOdynamic

- 一時点ではなく
- 連続性重視
- 小さいことでなく大きくとらえる。

老化に対するポジティブな見方は
寿命を長くする

- 太りすぎないことと喫煙経験がないこと及び運動をしていることでは、寿命を3年長く
- ポジティブな考え方を持っている人はそうでない人より 23歳も若く見られる。
- 最高血圧が高くなく、コレステロール値が基準値、寿命を4年程度長くします
- 年齢・性別・社会的地位・孤独感そして健康全般を含む要素を考慮したとしても、7.5年長生きする。

エミール・フランクフル

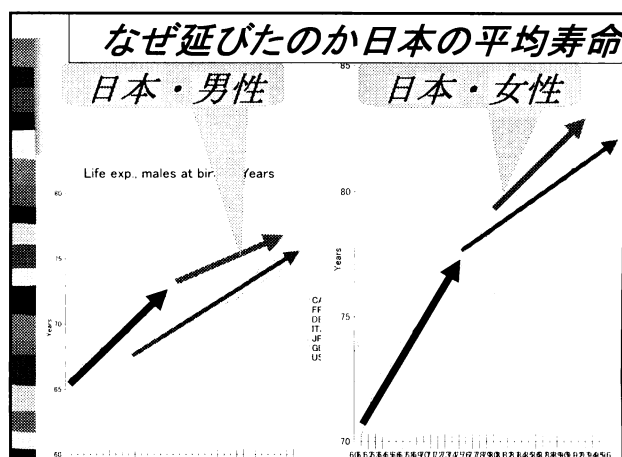
どんな時にも人生には意味がある。自分を必要とする“何か”があり、自分を必要とする“誰か”が必ずいて、自分に発見され実現されるのを待っている。そして自分にも、その“何か”や“誰か”のために出来ることがある

健康の定義・まとめ

- 健康定義に新しい視点として、長期視点と霊的要素が導入傾向
- 主体性を重視した、楽しくいきいきと生活することを支援する学問体型が求められている。
- 子供も親も専門家も成長する
- プロセス、エンパワーメント、

話題提供・項目

- WHO・新しい健康概念提案
- 健康規程要因
- なぜ長野県は長寿なのか
- 生涯現役研究
- 世界の健康支援動向



何故故に、改善したか・仮説

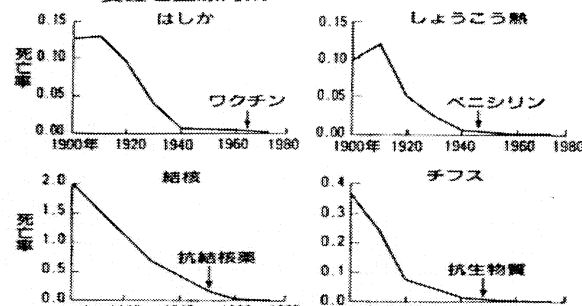
• 読み書きソロバン
(寺子屋)、衣食住、
医療、経済、仏教
急流、緑、勤勉さ

健康規定要因の多様性

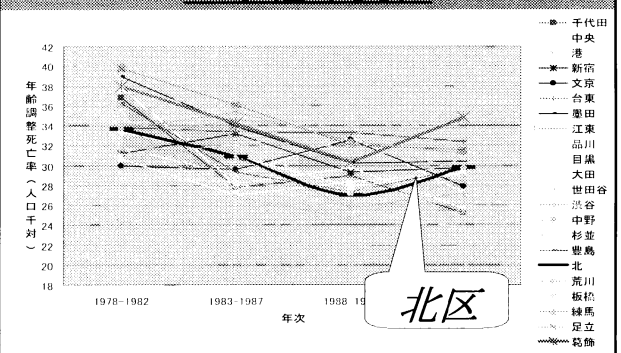
1. 田舎と上流ほど長寿
2. 感染症撲滅は上下水道
3. 胃がん死亡率低下は
冷蔵庫のおかげ
4. 子宮がん予防は住宅で

USA 感染性死亡低下と医薬

図1-2 アメリカ合衆国における感染症死亡率の変遷と医療対策²⁾



東京都23区子宮がん年齢調整死亡率経年変化



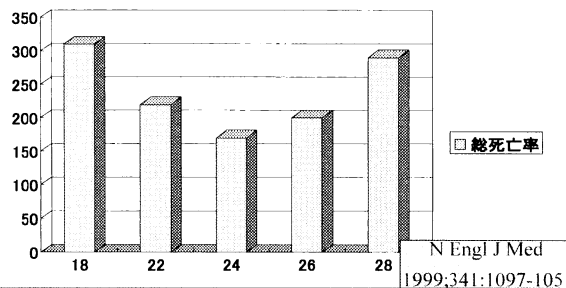
異型細胞からがん転移

- 26-38年
- WHO1985
- human papilloma virus 喫煙

USA Healthy People 1979 健康規定要因

- 保健医療の役割 10%
- 日常生活習慣 50%
- 環境の役割 20%
- 遺伝の役割 20%

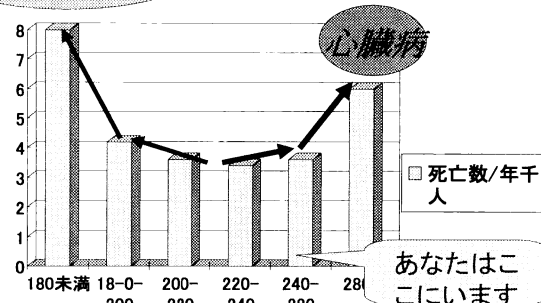
肥満度と総死亡率 100万人・14年追跡 USA



低死亡率BMI: 男23.5-24.9 女22-24.9

総コレステロールと死亡 J-LIT研究

がん・脳血管障害



【7つの健康習慣】

1. 睡眠時間は7～8時間である。



2. 朝食はほぼ毎日とる。



3. 間食はあまりとらない。



4. 体重は標準である。



5. 運動・スポーツをしている。



6. お酒は1日2合以下である。



7. タバコは吸わない。

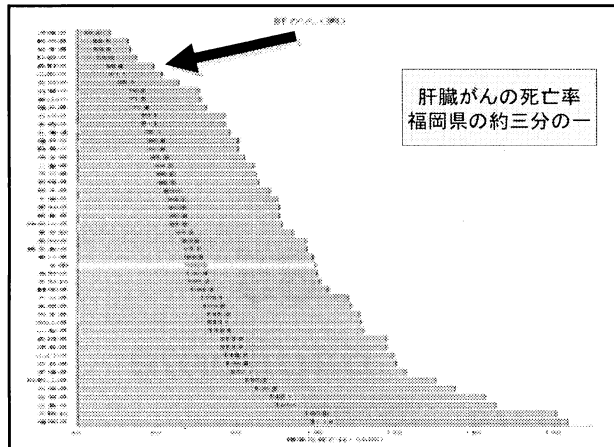


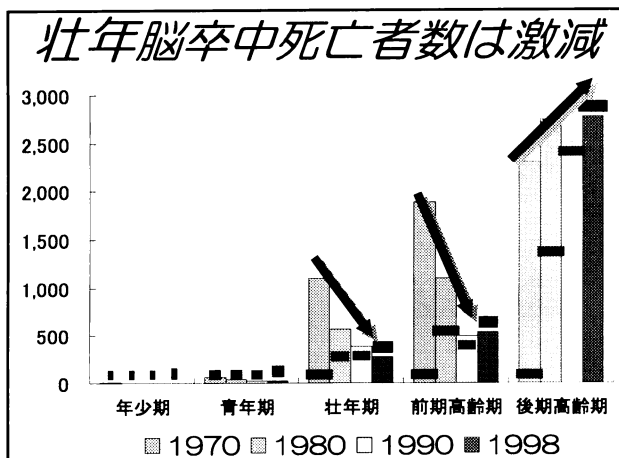
守っている健康習慣の数 ▼	現在の年齢は ▼			
	45歳 ▼	55歳 ▼	65歳 ▼	75歳 ▼
男性	0～3	21.6 年	13.8 年	10.6 年
	4～5	28.2	20.2	13.7
	6～7	33.1	25.0	17.4
女性	0～3	28.6	20.2	12.4
	4～5	34.1	25.1	17.3
	6～7	35.8	27.8	19.9

プレスロー 1973

長野長寿の理由仮説

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.



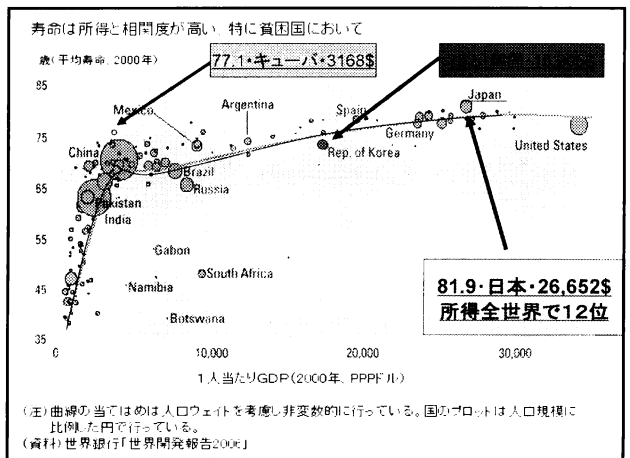
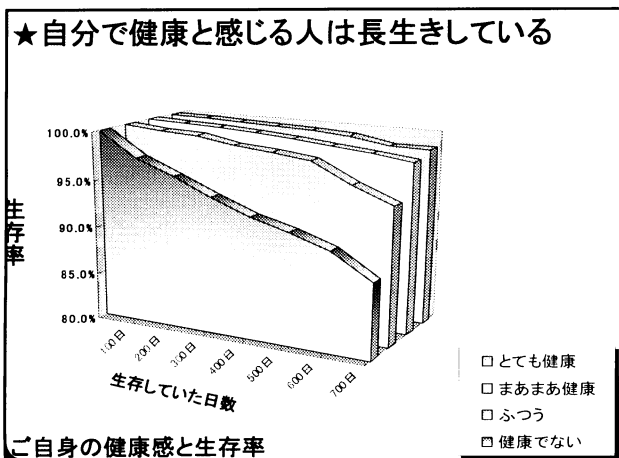
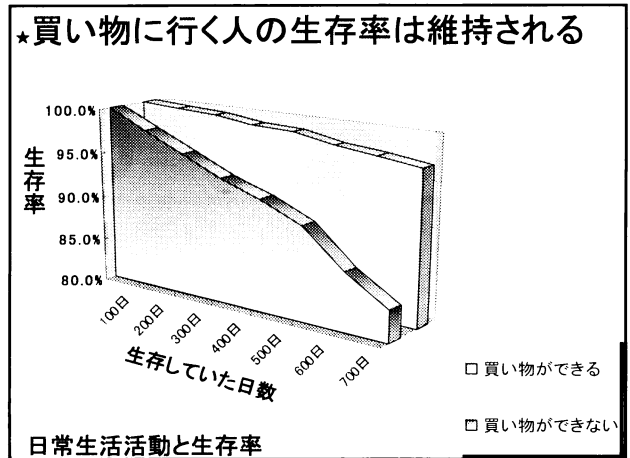


最期の日まで 長靴を履 いていたい!

生存追跡協働研究事例

- ・ 1998-2003年
- ・ 全国高齢者 2.2万人
- ・ 二年間で 506人死亡
- ・ 全国16市町村

門別町 ・ 二セコ町 ・ 上越市 ・ 上野村
 中里村 ・ 藤野町 ・ 美山町 ・ 高富町
 伊自良村 ・ 嬉野町 ・ 頓原町 ・ 国分
 寺町菊池市 ・ 蘇陽町 ・ 山江村
 玖珠町



夫を早く殺 方法

- ・がみがみいう
- ・大酒
- ・たばこ
- ・野菜あげない
- ・睡眠不足
- ・運動させない

先進国の統合医療

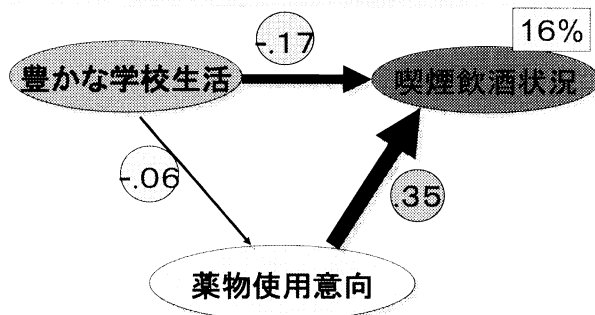
- ・ 鍼と灸
- ・ カイロプラクティック
- ・ 温泉療法
- ・ 森林療法
- ・ エステ
- ・ 笑い ヨガ 手あて

90歳で 一億円

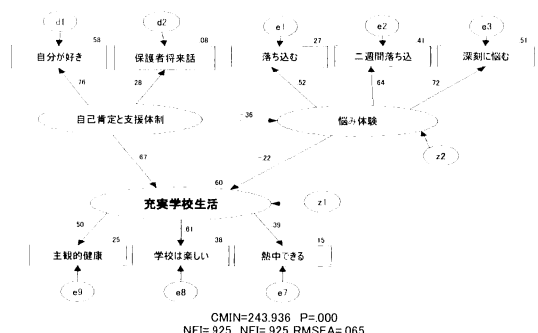
新しい健康戦略

- ・ 行動変容不要者を増やす
- ・ 学校と家庭保健、

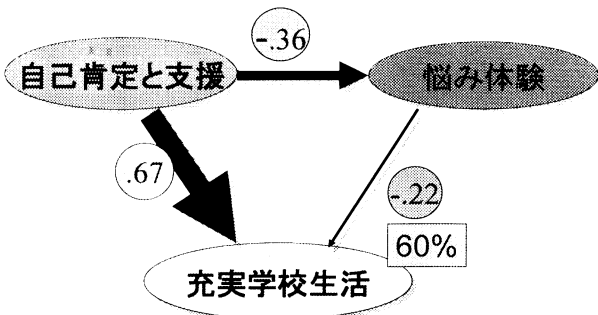
豊かな学校生活は、喫煙と飲酒状況に対して抑制的に影響し、薬物使用意向を経て間接的にも影響し、全体で高校生の喫煙飲酒状況の16%を説明できる



自己肯定と悩み体験が少ないことが
学校生活を充実させる



自己肯定と悩み体験少ないことが
学校生活を充実させる可能性が示唆



自己肯定と悩み体験少ないことが
学校生活を充実させる可能性が示唆

自分が好きで、親との会話をしていることに関連する「自己肯定と支援」が、悩み体験を少なくさせるとともに、熱中できることがあり、学校生活が楽しく、自分は健康だと言える「充実した学校生活」を規定する可能性が示唆された。このモデルによって、「充実した学校生活」の六割を説明できる。

本日のまとめ

- ・ 夢をもって生きる支援と共育
- ・ プロセス重視
- ・ 主体性を尊重した、楽しい学校
- ・ いきいきと生活する支援体制が必要
- ・ 子供時代の健康志向行動大事
- ・ エンパワーメント
- ・ 充実学校生活は、主体性と家族支援
- ・ 子供も親も専門家も成長

詳細資料

- ・ 公衆衛生・医学書院
- ・ 高校 保健体育
- ・ 都市の健康水準
- ・ 高齢者の健康特性と維持要因：都立大出版会
- ・ ホームページ・生涯現役

何度もメール

和田吉廣先生に感謝！

ありがとうございました。

首都大学東京・大学院
星 旦二

参加者名簿



委員会別参加者名簿（全日制課程） 92名

管理運営研究部						高校教育						
第一委員会			第二委員会			第一委員会						
氏 名		校 名	氏 名		校 名	氏 名		校 名				
林 倉田林橋村上津石子明藤 栃山小高中磯長五金有佐	秀和 昌 辰美秀 得喜	吉則温代進彰雄明治勉良一郎	北園 橋有 徳島工業業井業馬業橋 板橋 羽子 工業 高飛 赤王 北豊島 神川 工 石北 小練 馬 練板	井馬野場村馬城 中 澤村織澤田 石針上馬永有金 中 芦志錦黒久保田	也 行敏寿隆一貞一明司晴明弘 哲利勝 利和洋邦修政敏	町忠小山永松日翔八北府府農 田生川崎山谷台陽志摩中西業 が野 王子桑 多 中	林 岡島 武田寺橋西田川井田山島尾田柳 橋板澤上澤田谷井島中山 小野橋高山横藤仁中飯島吉 高八百金池瀧増綱玉小田横	眞司 一信夫二一春之正郎良子雄弓明幸司弘子篤透彦夫 ま富 一和浩清孝博 史定久美信真利信隆正厚 一芳	江淵足足足青葛南葛葛農白赤青市竹小工工上忍竹蔵蔵荒 淵足 立立立 飾葛 飾飾 鷗ケ 石 前前川	北北西東東井野飾合業産中坂山商早川芸芸野岡台業業 北西東東井野飾合業産中坂山商早川芸芸野岡台業業		
(12名)			(13名)			(25名)						

研究部			生徒指導研究部													
第二委員会			第一委員会			第二委員会										
氏 名		校 名	氏 名		校 名	氏 名		校 名								
荒川	鈴湯	浅中	桑高	小永	三川	中	山田	小野	美安	小和	栗恩	小東	星不	佐竹	福新	宮佐
川木	澤見	村原	田萱	森宅	原神		武藏	野北	小神	小野	美安	小和	栗恩	小東	星不	佐竹
春賢	辰	憲	比	英博	孝		武藏	野北	小神	小野	美安	小和	栗恩	小東	星不	佐竹
子兒	弘夫	洋一	久美	次郎	義典		武藏	野北	小神	小野	美安	小和	栗恩	小東	星不	佐竹
大蒲	つばさ	郷郷	美芝	日晴	本城	江	武藏	野北	小神	小野	美安	小和	栗恩	小東	星不	佐竹
森田	総合	科	原業	橋合	所	東商	武藏	野北	小神	小野	美安	小和	栗恩	小東	星不	佐竹
岸	佐々	木作	川崎	邊池	島坪	口	武藏	野北	小神	小野	美安	小和	栗恩	小東	星不	佐竹
裕雅	俊隆	高博	芳敏	光			武藏	野北	小神	小野	美安	小和	栗恩	小東	星不	佐竹
二人	郎史	一史	紀秋	吉久			武藏	野北	小神	小野	美安	小和	栗恩	小東	星不	佐竹
(12名)			(10名)			(20名)										

委員会別参加者名簿（定通制課程） 65名

東部地区委員会				
氏 名		校 名		氏 名
宮 祐	田 智	足 江	立 北	山 田
福 智	崎 博	葛 飾	北 業	川 森
菅 博	山 井	本 所	業 業	原 坂
計 智	良 田	一 一	橋 橋	関 川
沖 義	部 池	一 一	橋 橋	小 村
阿 篤	下 重	一 九	橋 橋	中 良
木 和	谷 田	六 本	段 木	奈 井
徳 博	本 水	新 宿	吹 吹	
鍋 信	藤 藤	宿 石	丘 川	
篠 考	目 賀	向 小	芸 野	
能 秀	山 佐	工 上	草 業	
白 憲	井 井	浅 台	業 業	
加 秀	藤 藤	台 荒	潮 科	
鹿 真	坂 坂	八 郷	業 業	
相 茂		六 商	業 業	
小 健		芝 商	業 業	
諏 近				
石 藤				
近 藤				
(31名)				

中部地区委員会			西部地区委員会			
氏 名	校 名		氏 名	校 名	氏 名	校 名
高木 西田 亀 介 植田 正 豊 静野 哲 治 高橋 吉 也 前田 俊 明 真貝 徳 哉 須水 昭 成 清田 弘 治 金田 一 正 大山 根 茂 関田 橋 尚 武高 木 展 松木 修 青木 進 清木 哲 瀧上 徹 堀江 雄 松本 次 須賀	松杉 原 神代 八大 丈 大雪 崎 新谷 谷 桜田 宿 世合 町 総工 業 園科 文芸 桐ヶ 京 飛丘 王子 鳥 北島 業 戸工 業 石神 山 大第 井 中野 泉 農 業 芸		平野 みどり 小川 芳 夫 寺島 雅 夫 青木 ト 子 若菜 初 山本 朗 滝澤 勝 小山 堀 明 田 郎	町富 士 田 八王 子 森 立 多 川 北 摩 砂 多 川 第 五 商 業 農 井 業 小 金 井 工 業	東 橋 信 幸 本 福 嶋 一 昇 佳	東久留米総合 福農 生林
(22名)			(12名)			

東京都立高等学校副校長研究協議会参加者数の変遷

(過去3年間)

日 時 平成17年8月30日(火) 東京都総合技術教育センター(水道橋)
 平成18年9月29日(金) 立川多摩教育センター(立川)
 平成19年8月31日(金) 教職員研修センター(水道橋)

	17年度	18年度	19年度
参加者(全)			
管理運営研究	57名	25名	25名
高校教育研究	39名	32名	37名
生徒指導研究	21名	28名	30名
合 計	117名	85名	92名
参加者(定)	第2委員会 37名 第4委員会 35名	第1委員会 22名 第2委員会 11名 第3委員会 16名 第4委員会 14名	東部委員会 31名 中部委員会 22名 西部委員会 12名
合 計	72名	63名	65名

参加者内訳(全)

	17年度	18年度	19年度
管理運営研究			
第1委員会	37名	10名	12名
第2委員会	20名	15名	13名
高校教育研究			
第1委員会	21名	23名	25名
第2委員会	18名	9名	12名
生徒指導研究			
第1委員会	21名	14名	10名
第2委員会	(1.2合同)	14名	20名

**全日制・定通制高等学校教頭会・副校長会
研究協議会の歩み**

昭和 45 年度	本研究協議会 第 1 回開催 於、箱根（1 泊 2 日）	⇔	大学・高校紛争
46 年度	当日は「発表要旨」、事後に「研究集録」を発行。 (教育庁指導部編集)		
48 年度	全日制教頭会 研究部会を設置（規約改正）。 教育庁より教育研究団体会費を受け、「研究集録」を創刊、 現在に至る。	⇔	オイルショック
51 年度	研究協議会 都立教育研究所にて 2 日間の日程に変更。	⇔	都 緊縮財政策
58 年度	教育庁指導部編「発表要旨」・「研究集録」の発行は取りやめ。 定通教頭会 「教頭発表資料」創刊、現在に至る。	⇔	都 緊縮財政策
60 年度	全定教頭会合同「研究協議会報告」創刊。 平成 11 年度第 15 号を発行。		
平成 4 年度	研究協議会日程 1 日のみに変更。	⇔	都立高校改革
11 年度	同 日程 半日に変更。		
12 年度	主催が教育庁から全・定教頭会に変更。ただし、開催にあたっては、 教育庁から様々なご指導を頂きつつ、従来の運営方針を維持する。	⇔	都 緊縮財政策
13 年度	参加形態が「出張」から「職免」扱へ変更。		
15 年度	参加形態が「出張」へと戻った。		
16 年度	副校長研究協議会と名称変更。		
17 年度	これまでの 9 月実施より 8 月実施へ変更。		
18 年度	会場の都合により 9 月実施へ変更。		
19 年度	17 年度と同じ 8 月実施。		

(平成 19 年事務局 調)

年度	発 表 資 料			報 告 書	
	都教委編 全定合同	(全) 教頭会・副校長会編	(定) 教頭会・副校長会編	都教委編 全定合同	(全・定) 教頭会・副校長会編
昭 45					
46	高等学校生徒指導研 究協議会 発表要旨 33 p			高等学校生徒指導研 究協議会研究集録 40 p	
47	高等学校教頭・主事 研究協議会 発表要旨 49 p			同上 40 p	
48	同上 67 p	研究集録 創刊号 43 p			
49	高等学校教頭・主事 研究協議会 提案要旨 32 p			高等学校教頭・主事 生徒指導研究協議会 研究集録 48 p	
50	高等学校教頭研究協 議会 提案要旨 28 p	第 2 号 72 p		高等学校教頭 研究協議会 研究集録 44 p	

51		第3号 75p		同上 54p	
:		:		:	
58		第10号 66p	高等学校教頭研究協議会 教頭発表資料 p		
59		第11号 67p	同上 p		
60		第12号 77p	同上 p		東京都立高等学校教頭研究協議会 研究協議会報告 創刊号 54p
61		第13号 74p	同上 p		第2号 59p
:		:	:	:	:
:		:	:		
15		第30号 44p	同上 p		第19号 47p
16	高等学校副校長研究協議会に名称変更	第31号 34p	高等学校副校長研究協議会発表資料	高等学校副校長研究協議会に名称変更	第20号 51p
平17		第32号 34p			第21号 55p
平18		第33号 66p (全・定合併号)		第22号 76p (全・定合併号)	
平19		第34号 48p (全・定合併号)		第23号 76p (全・定合併号)	

編集後記

8月も押し詰まった31日に夏季休業の最後を飾って平成19年度の都立高等学校副校長研究協議会が開催されました。そこでの研究成果を今回「研究協議会報告」第23号として発行するにあたり、研究を推進した関係者の方々のご努力とその成果に対し、深く敬意を表すとともに感謝申し上げます。

今年度の研究協議会は、全日制課程と定時制課程が協力してあわせて4分科会で実施されました。研究幹事を中心にまとめられた発表内容を基に真摯な討論が行われました。この成果を研究協議報告として1冊にまとめることができました。この成果を活用し、時代の変化に柔軟に対応し、都立高等学校の課題解決に役立てていただければ幸いです。

多忙を極める副校長業務のかたわら研究を進めることはなかなか難しい状況にありますが、東京の副校長会から全国の高等学校教育の進展に役立つ研究の成果を発信できるように今後とも努力を積み重ねていく事が必要と考えます。来年度の夏に向けて研究組織を点検し、より実践的な研究を目指しましょう。

なお、今年度の「研究協議会報告」の発行にあたり、教育庁指導部高等学校教育指導課及び校長協会の先生方にご指導、ご助言を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

東京都立高等学校副校長会 副会長
東京都立農産高等学校 副校長 飯島 正